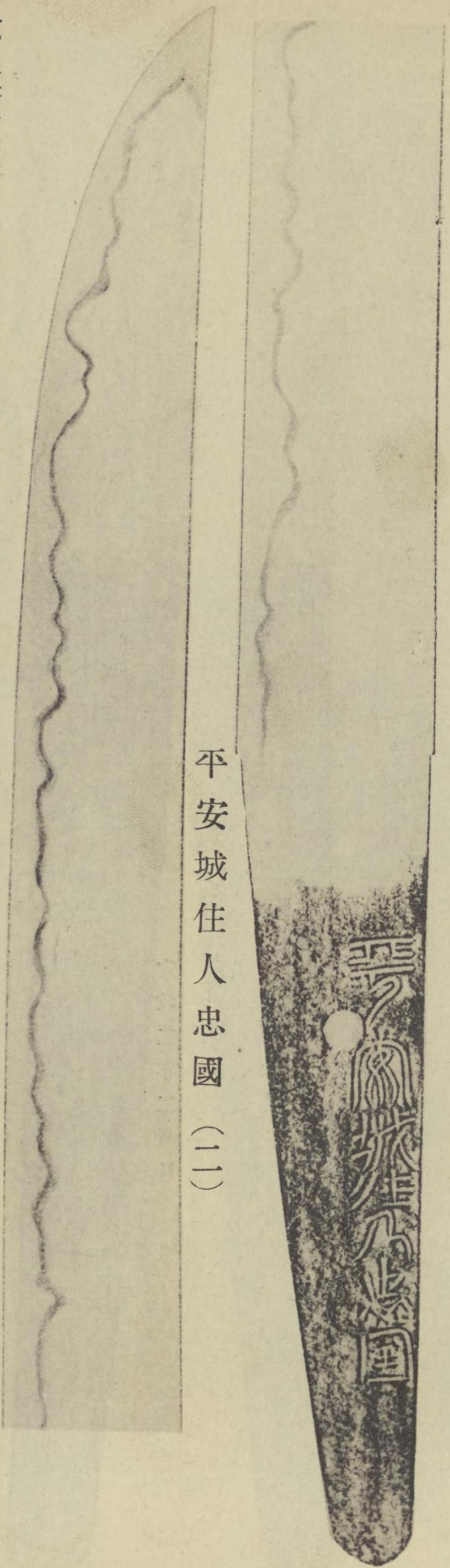


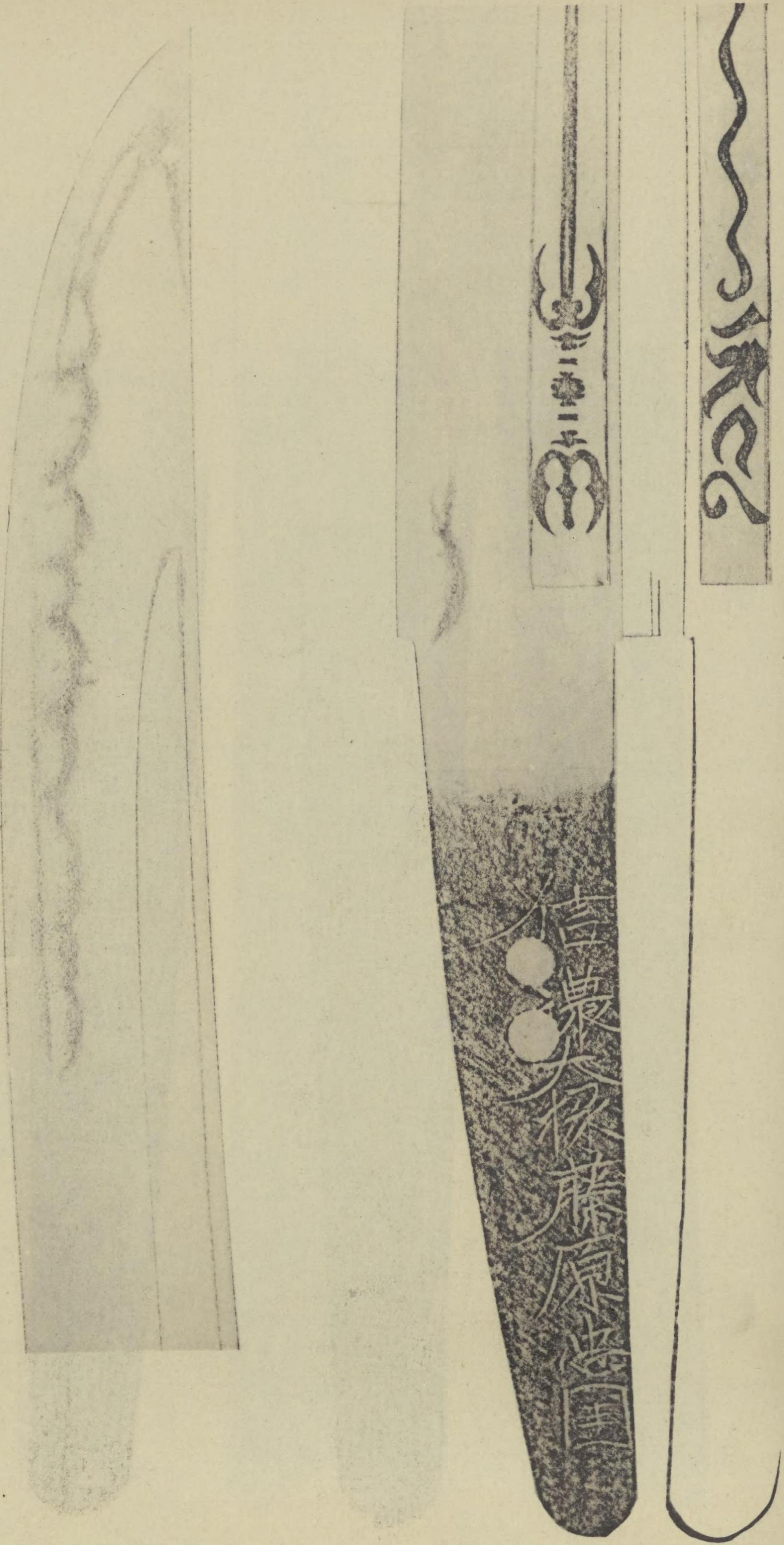
平安城住人忠國 (一)



平安城住人忠國 (二)



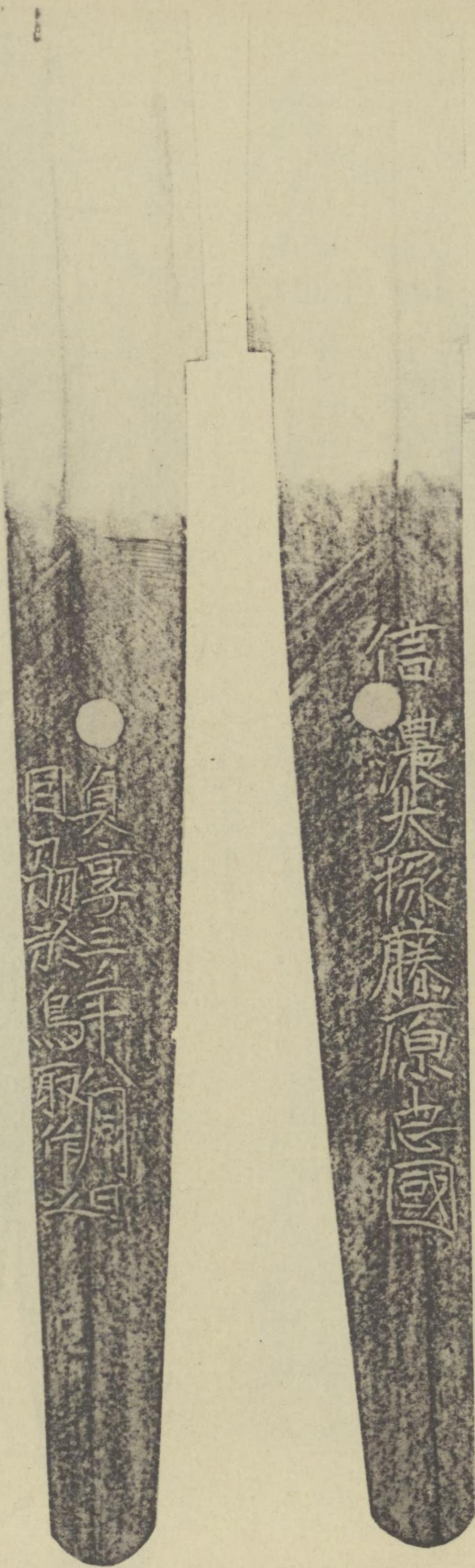
一、双長二尺四寸、地肌板目柁交る、殊に物打の邊柁目肌立つ、双文小鑑付の直双ほつれる。
二、双長一尺一寸三分、地鐵白けて羽二重の如し、双文小灣五の目亂双



信濃大掾藤原忠國 (初代)

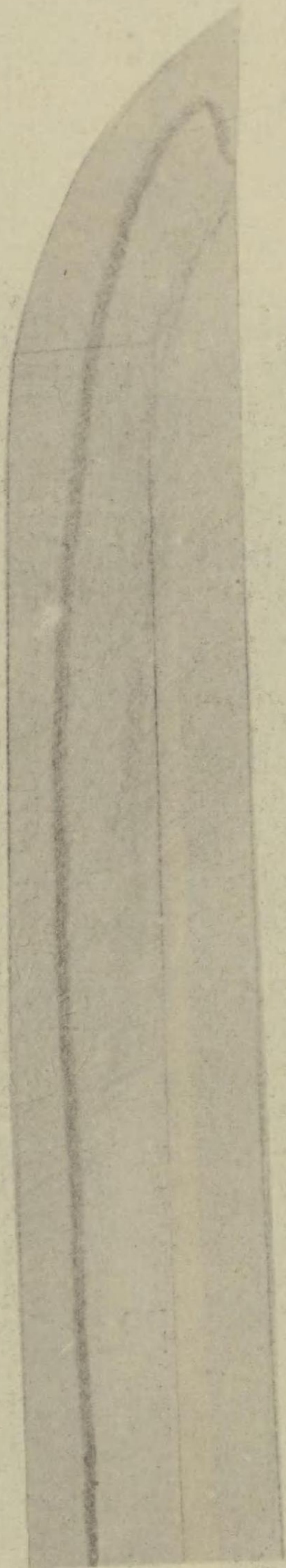
二、双長一尺一寸三分、地鉄白けて羽二重の如し、双文小灣五の目亂双

信濃大掾藤原忠國（二代）



刃長一尺九寸七分、地肌板目、
 磨地柁目、刃文大灣れ刃、匂に
 叢あり

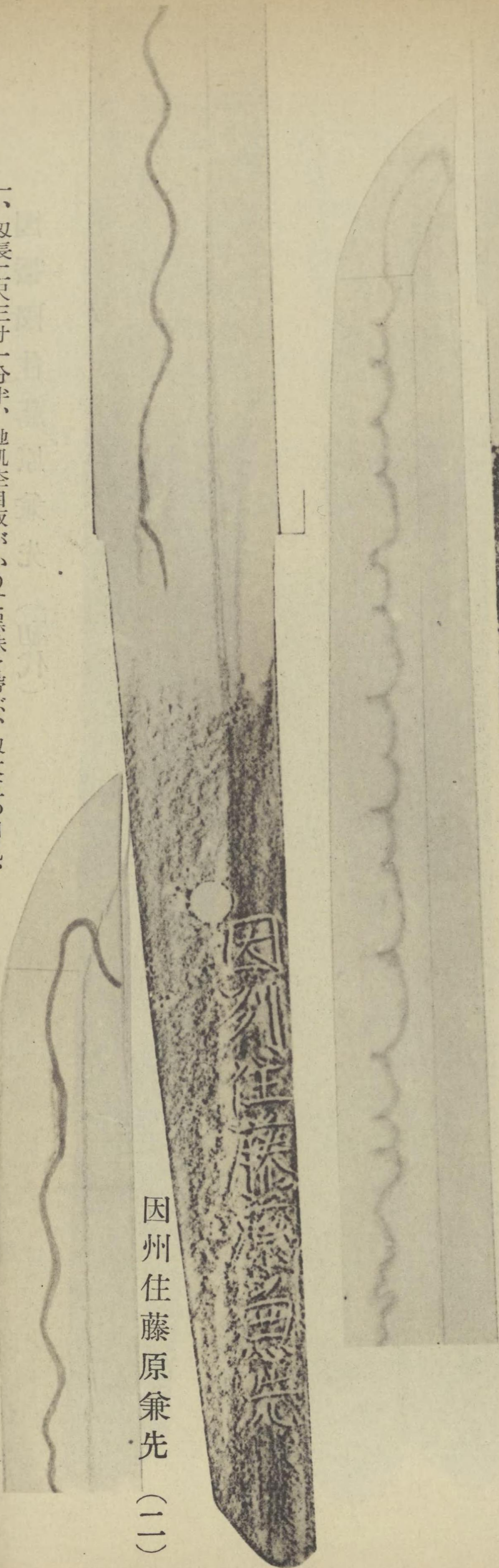
因播國住藤原兼先 (初代)



地肌良く詰みて美しく、
小籠出来の直刃縮る



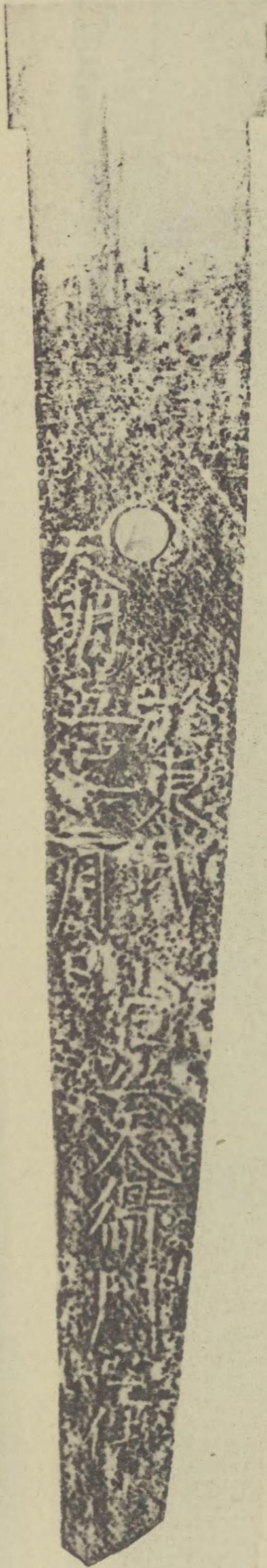
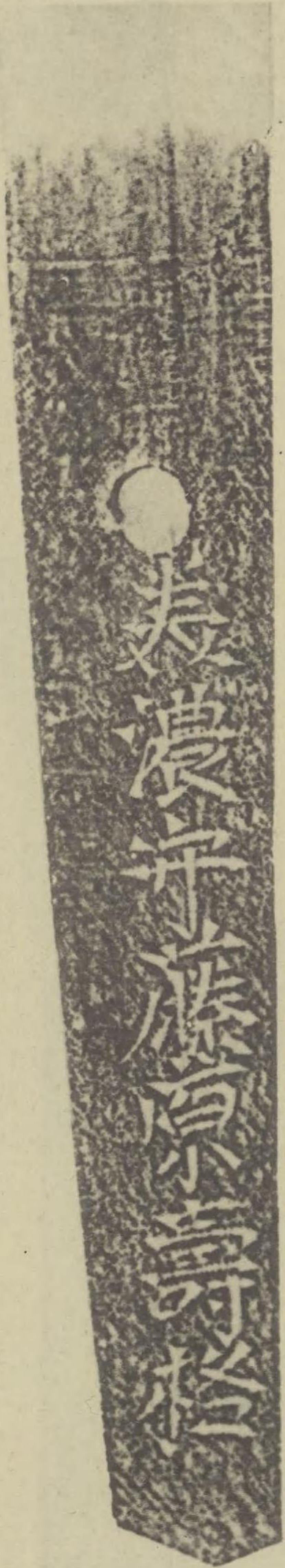
因州住兼先 (一)



因州住藤原兼先 (二)

一、双長二尺三寸一分半、地肌杵目板がかりて黒味を帯ぶ、双文五の目亂、
 中程の双尖り双交りて關風あり

二、地肌小杵目、双文五の目、地双共に冴える、



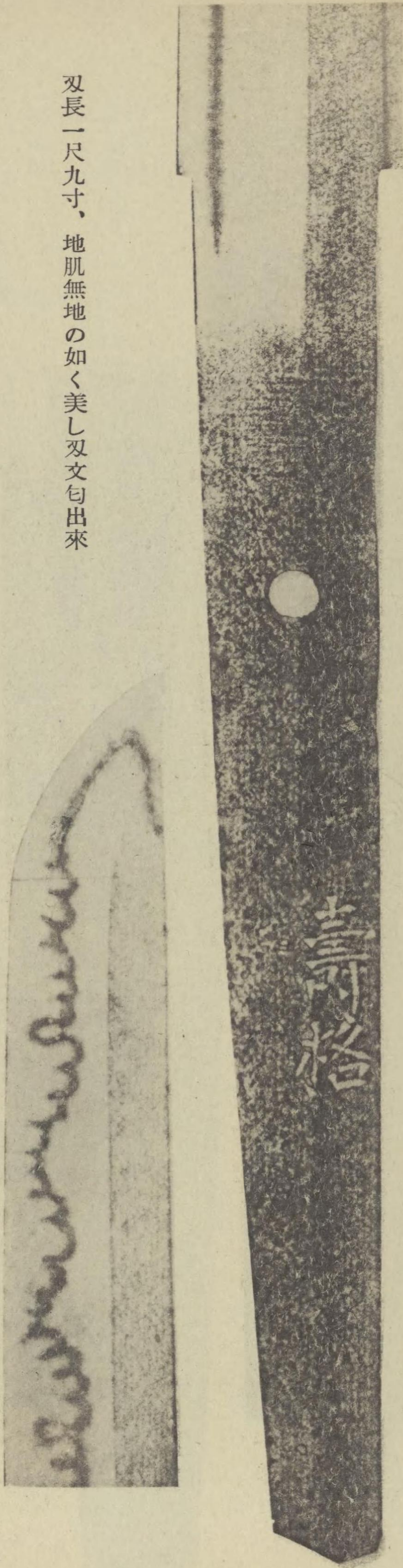
美濃守藤原壽格

中程の双尖り双交りて關風あり
 二 地肌小柵目、双文五の目、地双共に冴える、

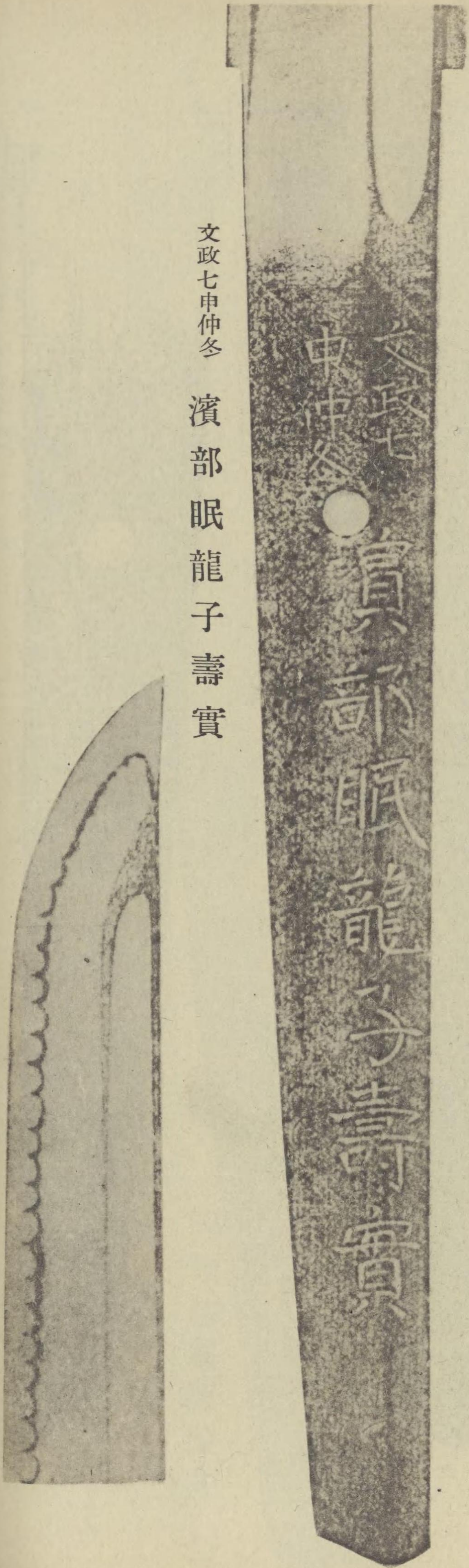
壽

格

双長一尺九寸、地肌無地の如く美し双文匂出來



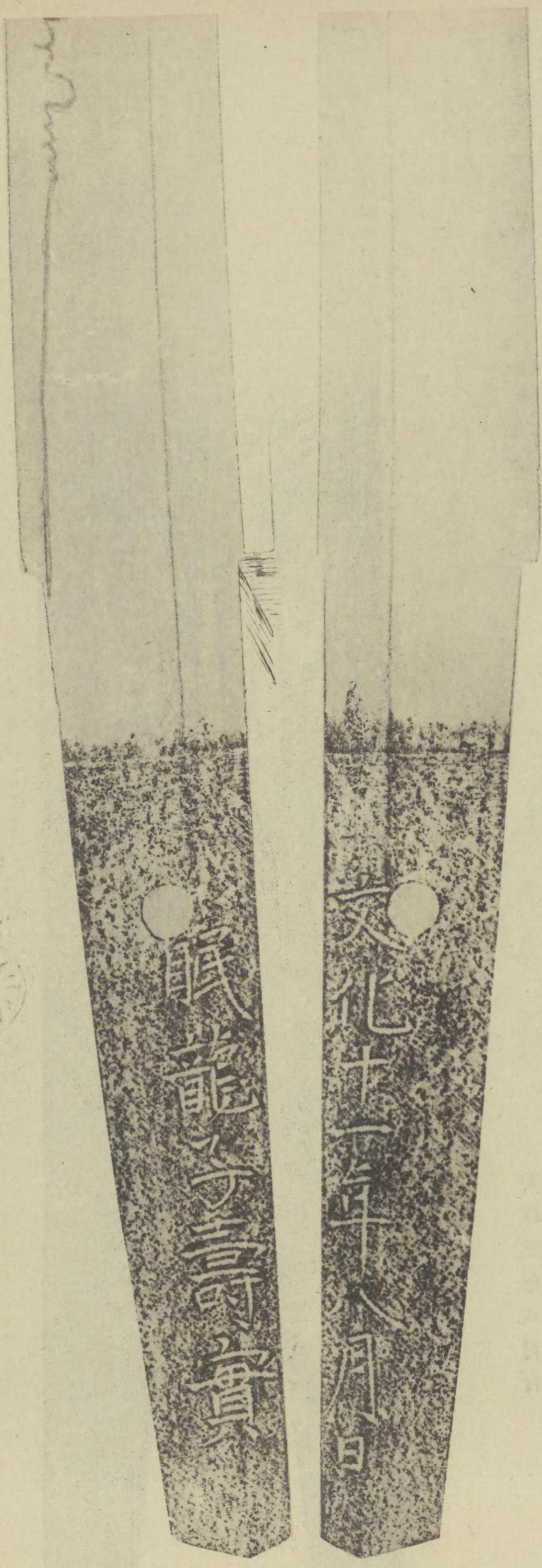
文政七申仲冬 濱部眠龍子壽實



双長一尺二寸四分半、地肌板目細美、双文鑑元二寸五分程直双、其上細かき五の目こなり、足揃ふて能く入る

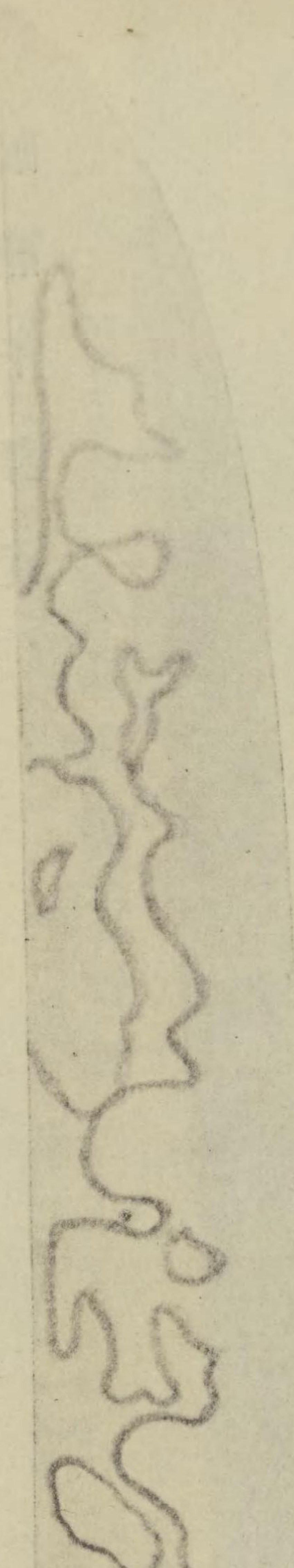
眠龍子壽實

双長一尺三寸八分



双長二尺二寸四分半、地肌板目細美、双文鑑元二寸五分程直双、其上細かき五の目こなり、足揃ふて能く入る

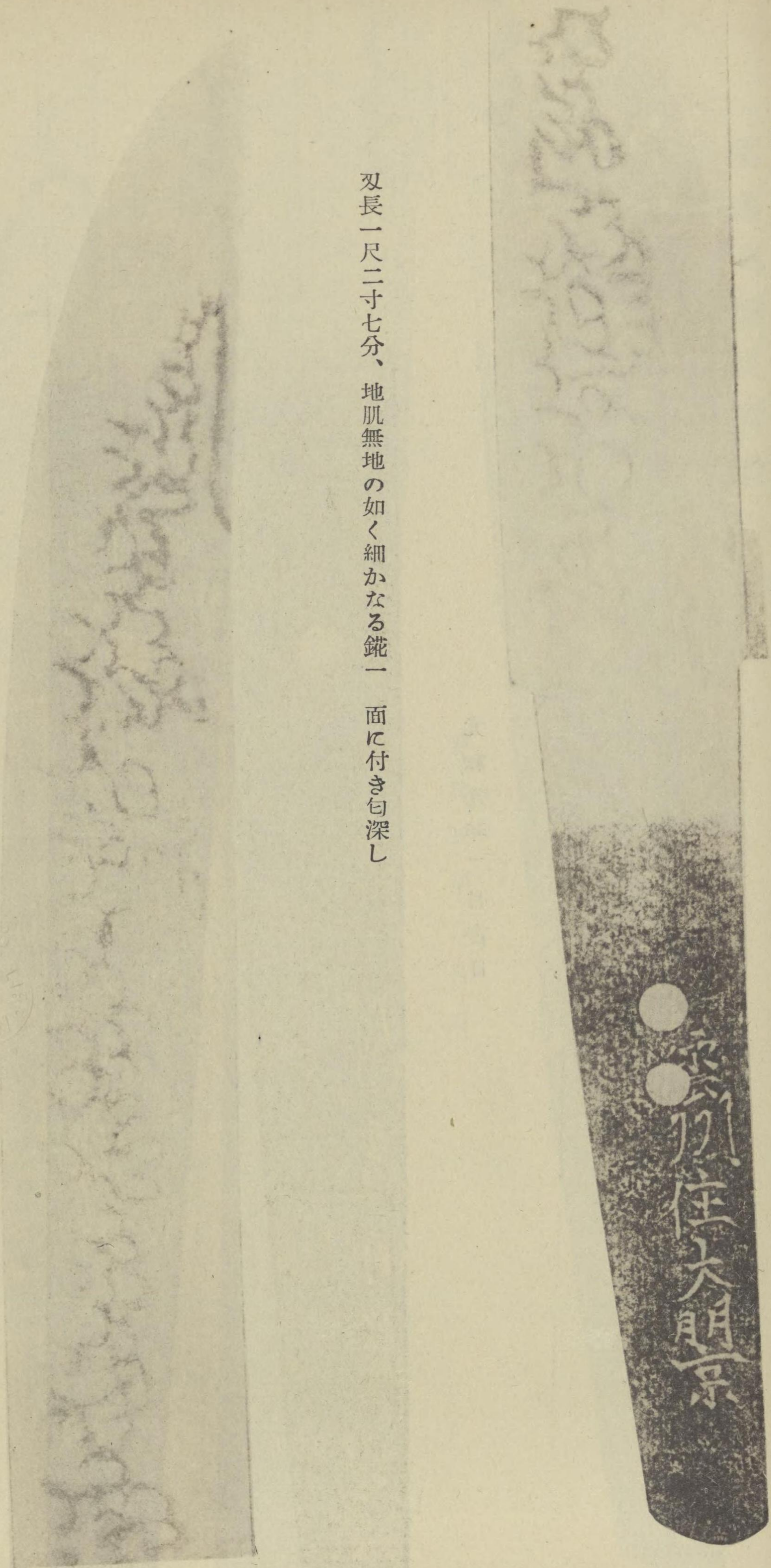
於江府濱部眠龍子壽秀造



安政三年八月日

雲州住大明京

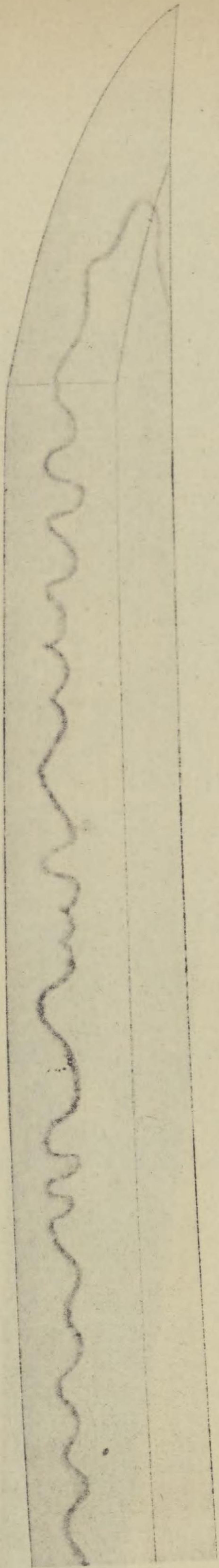
刃長一尺二寸七分、地肌無地の如く細かなる鏡一面に付き匂深し



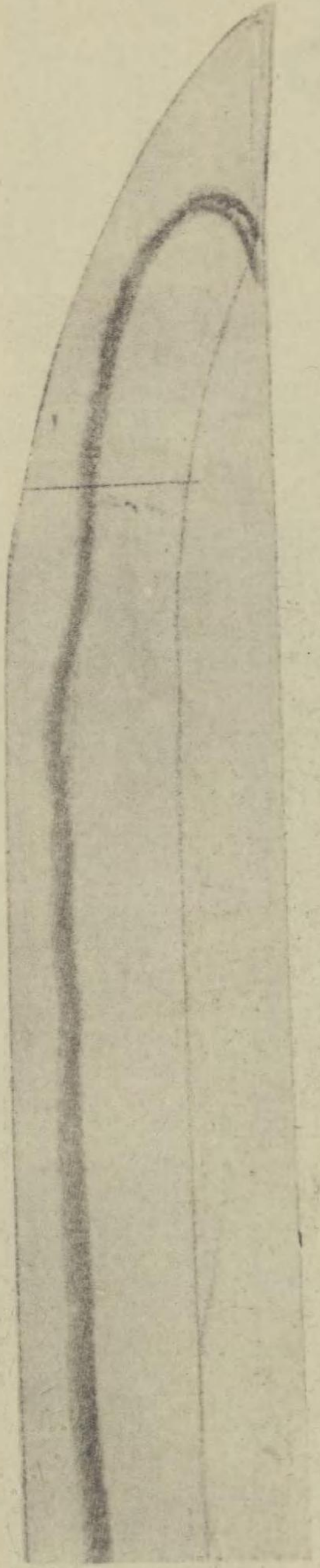
伯耆國倉吉住正綱作



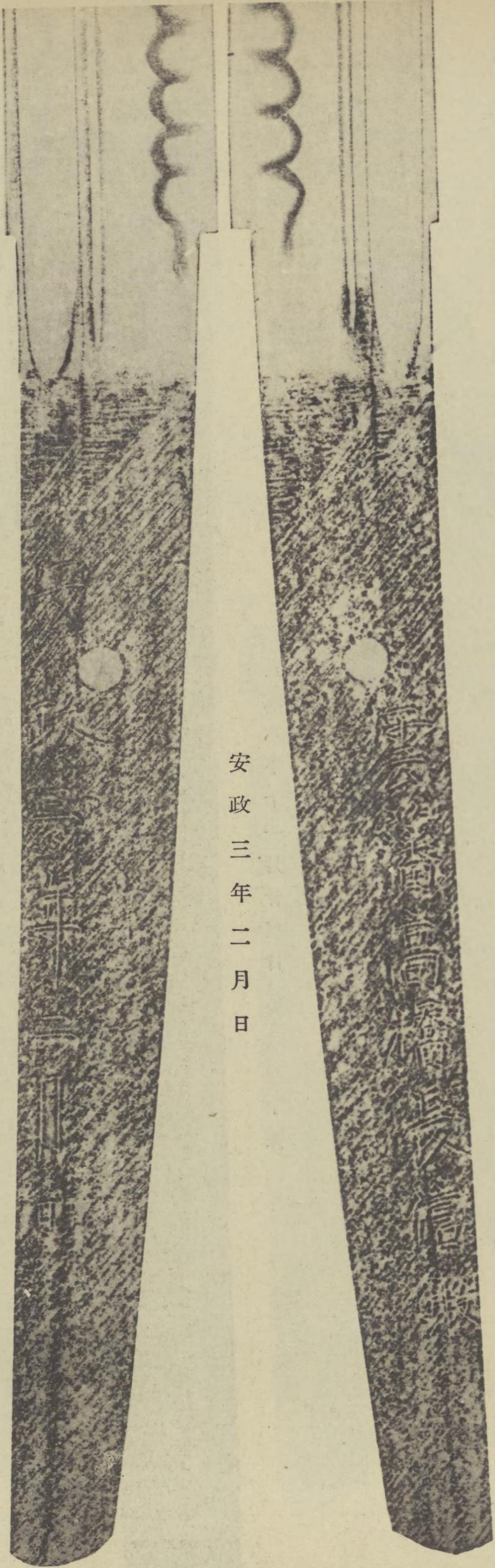
元和元年二月吉日



双長二尺三寸、地肌柰目柱交る、双文五の目亂匂出來、折々鈍つく



姿反り普通、地鉄細美にして
 双文小鉾付の直刃腰刃を焼く

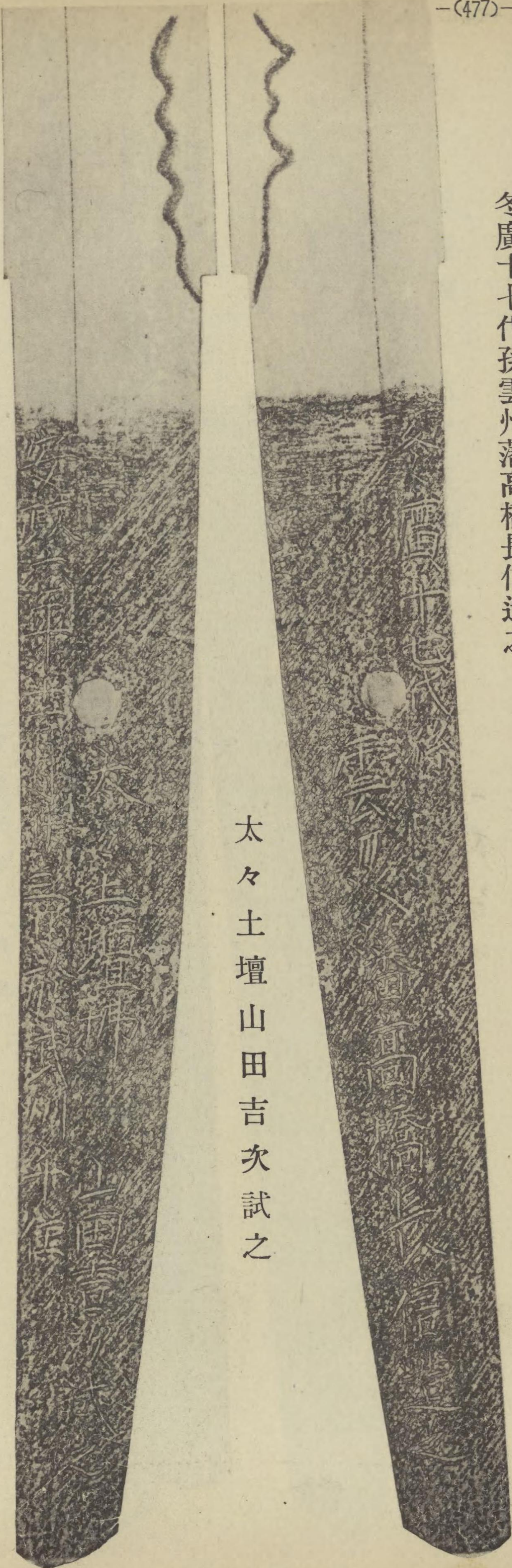


安政三年二月日

雲藩高橋長信鍛

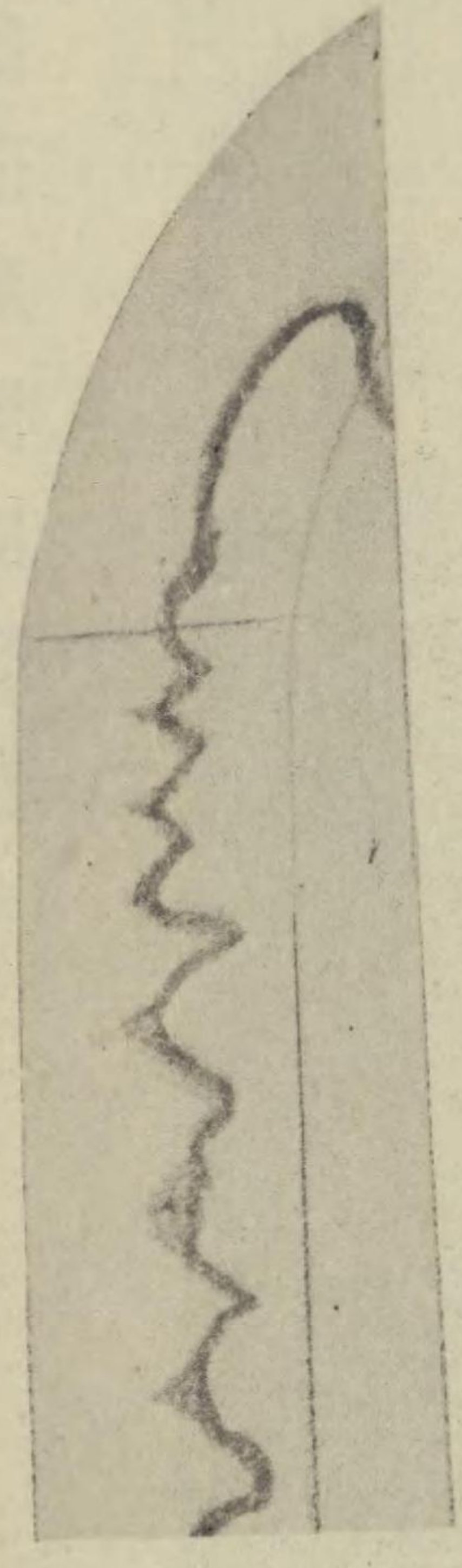
双長二尺三寸、地肌柰目鉾交る、双文五の目亂匂出来、折々鉾つく

冬廣十七代孫雲州藩高橋長信造之



太々土壇山田吉次試之

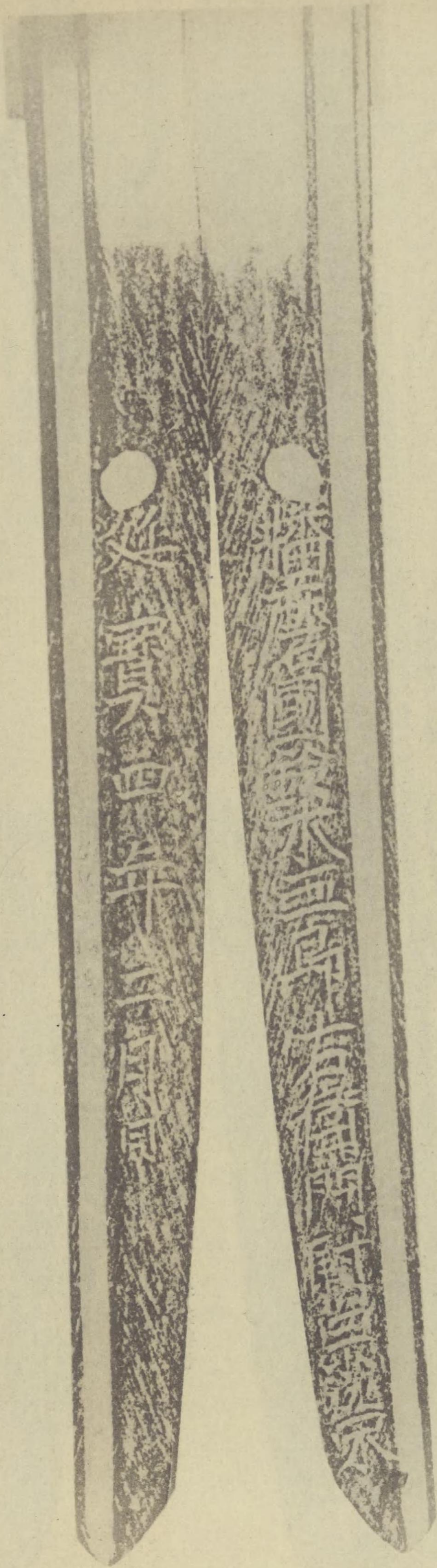
安政六年十一月廿三日於武州千住



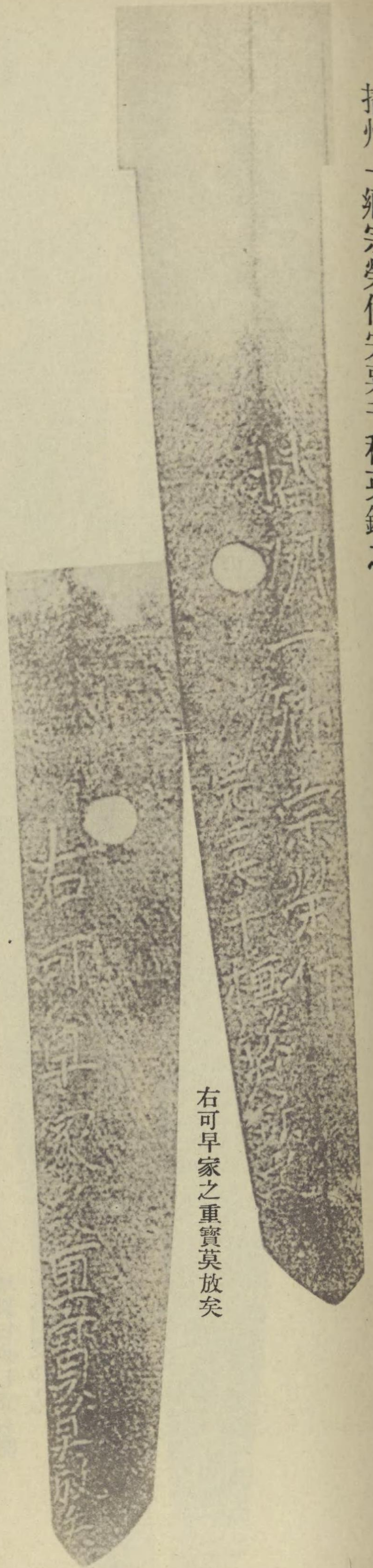
双長二尺二寸九分半、地肌無地所々大肌現はる、双文尖り目の小亂刃、双ぶち能く縮る

番州一郎宗榮作共粟千種英裁之

地肌至極よく詰む、双匂出來の直双匂深し



双長一尺九寸六分、双文五の目亂疵つく。

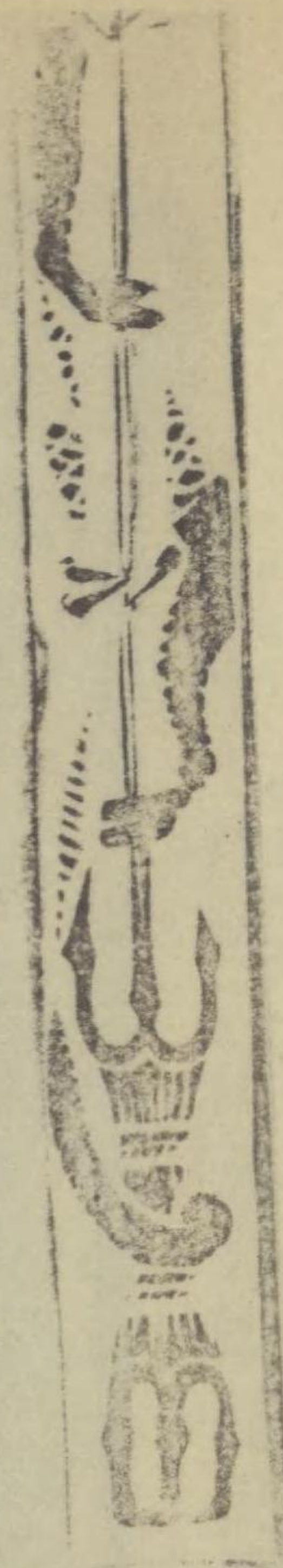


右可早家之重寶莫放矣

播州一郷宗榮作六粟千種英鐵之

双長二尺二寸九分半、地肌無地所々大肌現はる、双文尖り目の小亂双、双ぶち能く縮る

鈴木宗榮爲傳累孫三々九度鍛之



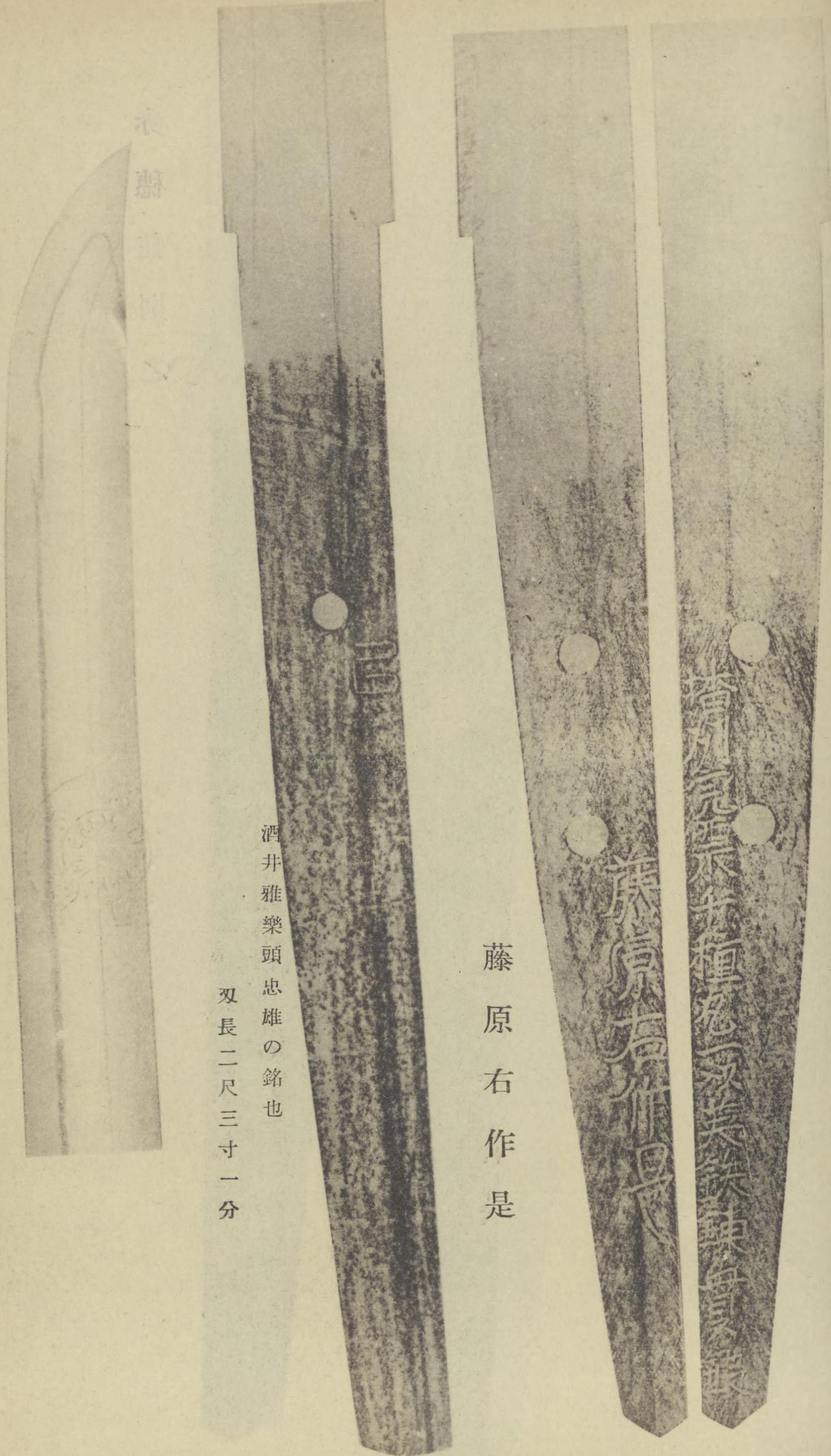
三代目の三字追掛也



刃長一尺三寸一分
地肌匂少し立ち難
し彫刻變れり。

播州赤粟千種丸一英鐵鍊貫鍛

播州尖栗千種丸一英鐵鍊貫鍛

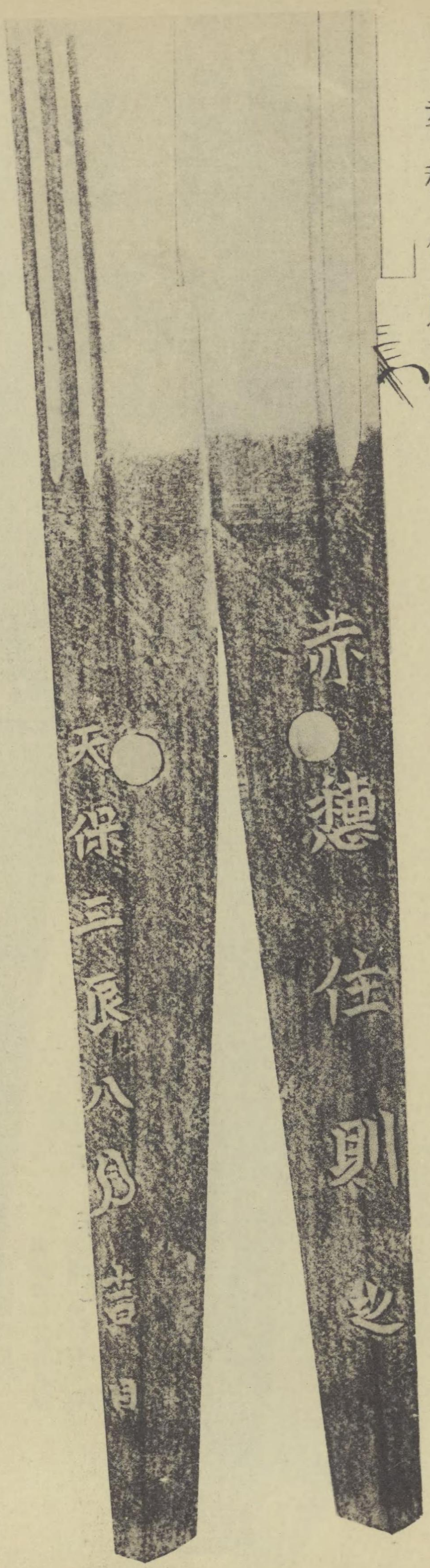
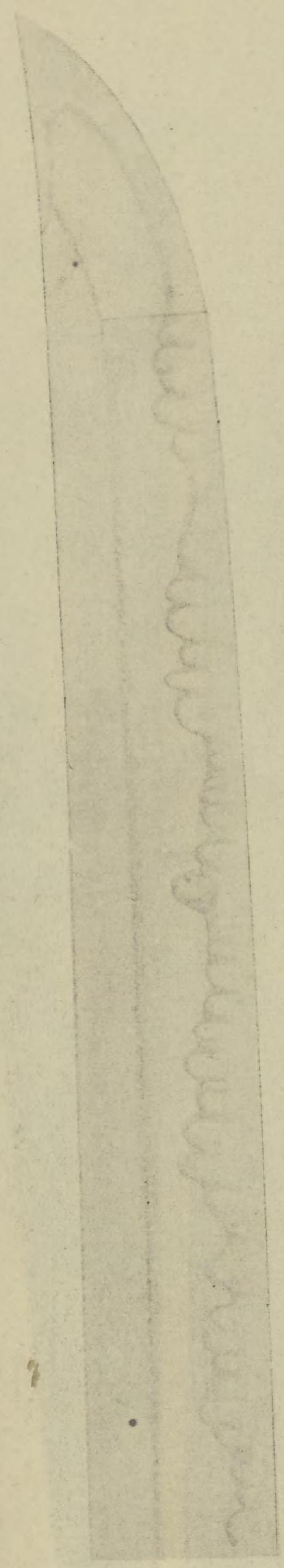


藤原右作是

酒井雅樂頭忠雄の銘也

双長二尺三寸一分

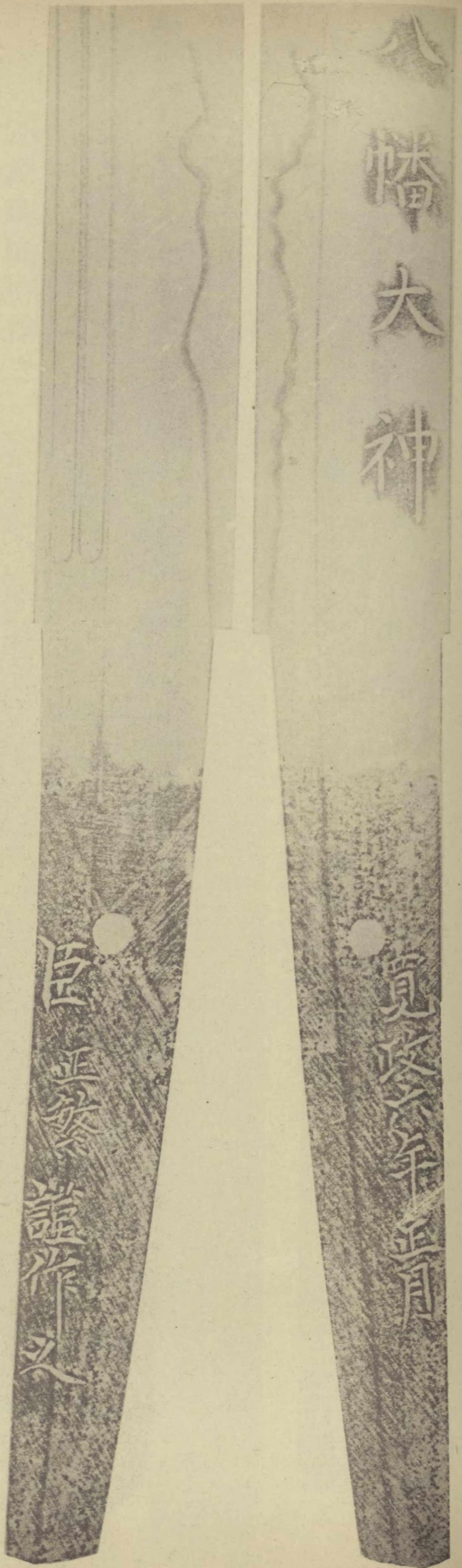
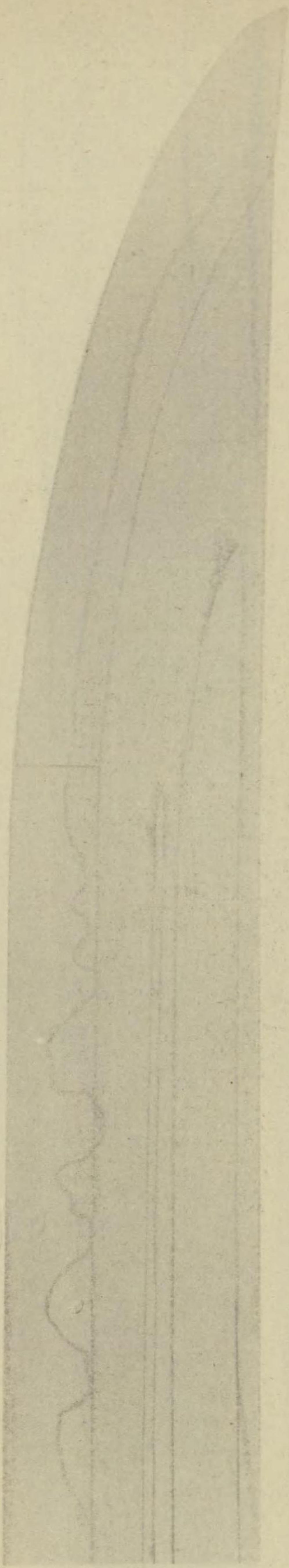
赤穗住則之



赤穗住則之

天保三年八月吉日

臣正繁謹作之



臣正繁謹作之

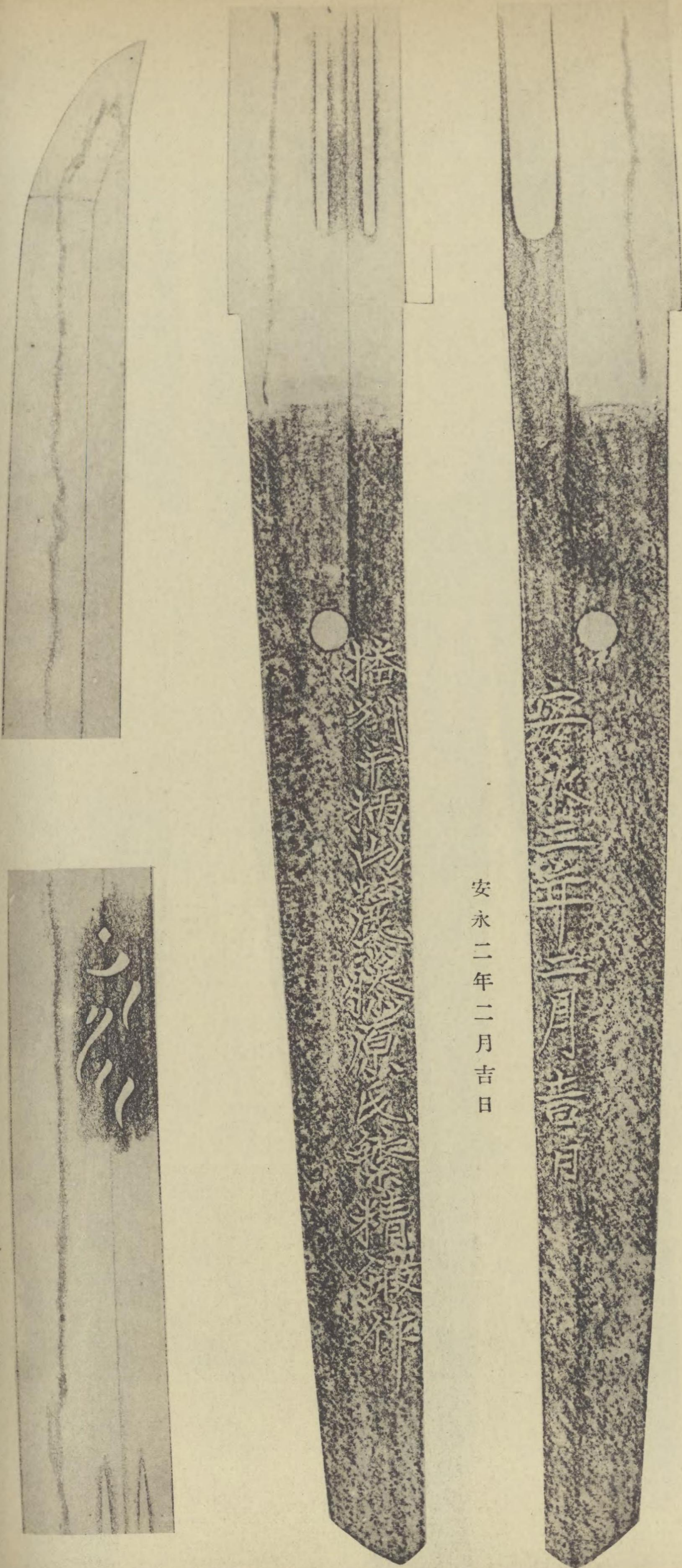
八幡大神

寛政六年正月

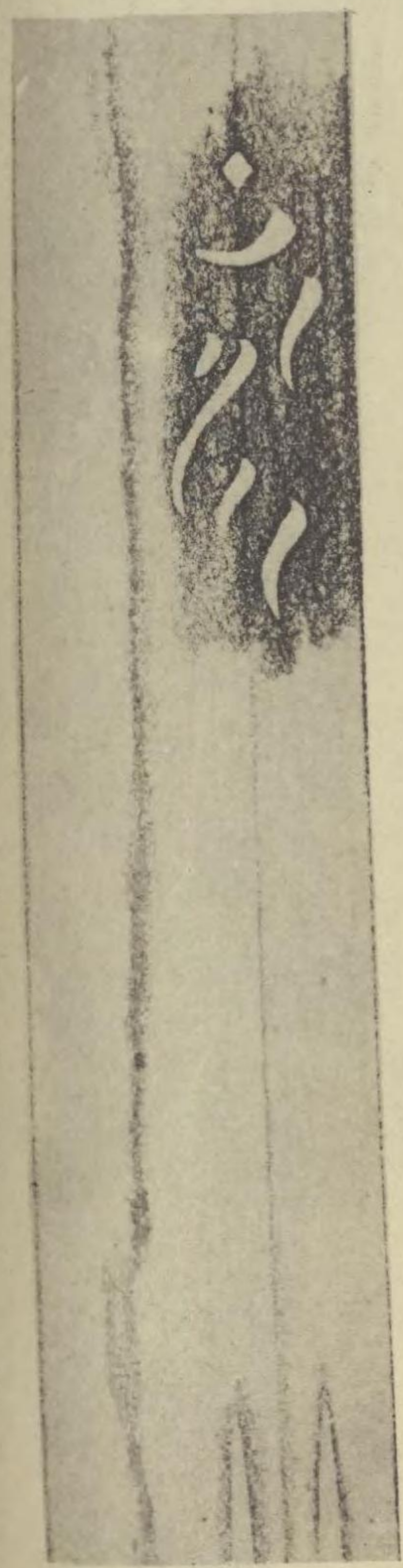
臣正繁謹作之

播州手柄山麓藤原氏繁精鍛作

安永二年二月吉日



双長二尺四寸五分、双文大灣及籠つく。



双長二尺四寸五分、双文大灣双鈍つく。

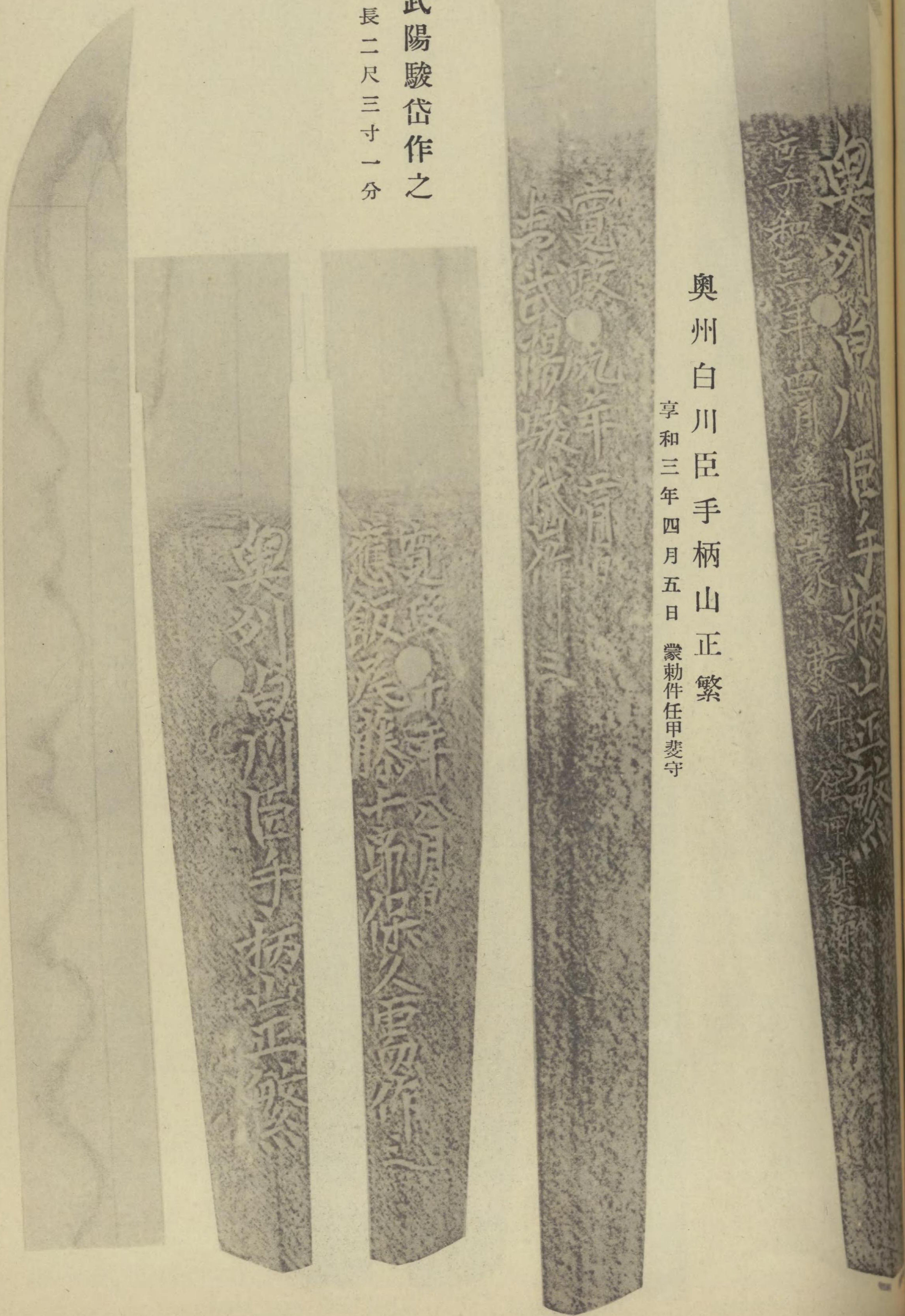
奥州白川臣手柄山正繁

享和三年四月五日 蒙勅件任甲斐守

於武陽駿岱作之

双長二尺三寸一分

双長一尺五寸一分、地肌細美にして無地の如く小鈍匂深し



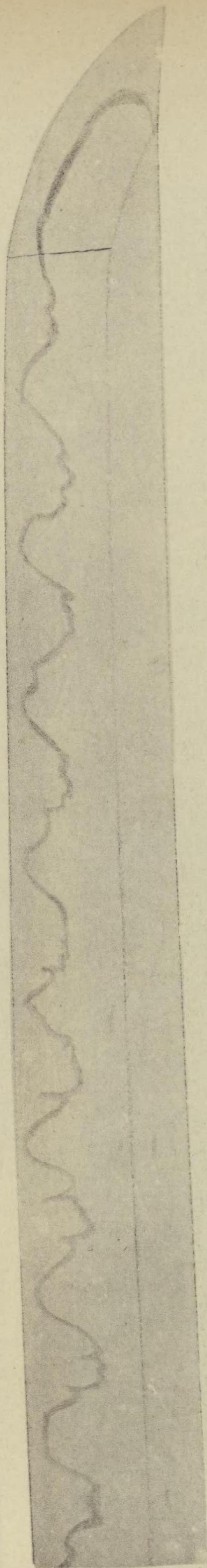
神妙手柄山甲斐守正繁

文政三年二月日 於浪華作之



平造、双長一尺一寸四分、双文不規則な大五の目亂、鈍匂深し、表裏に昇降龍を彫る、手法精妙也

鎬造、双長二尺六寸八分。双文丁子に五の目亂一様に揃ふ



備州長船住
長船住
祐定作

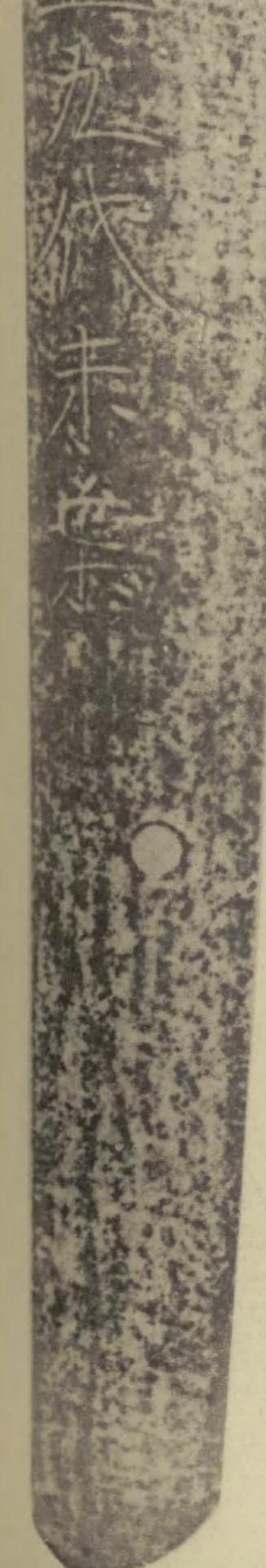
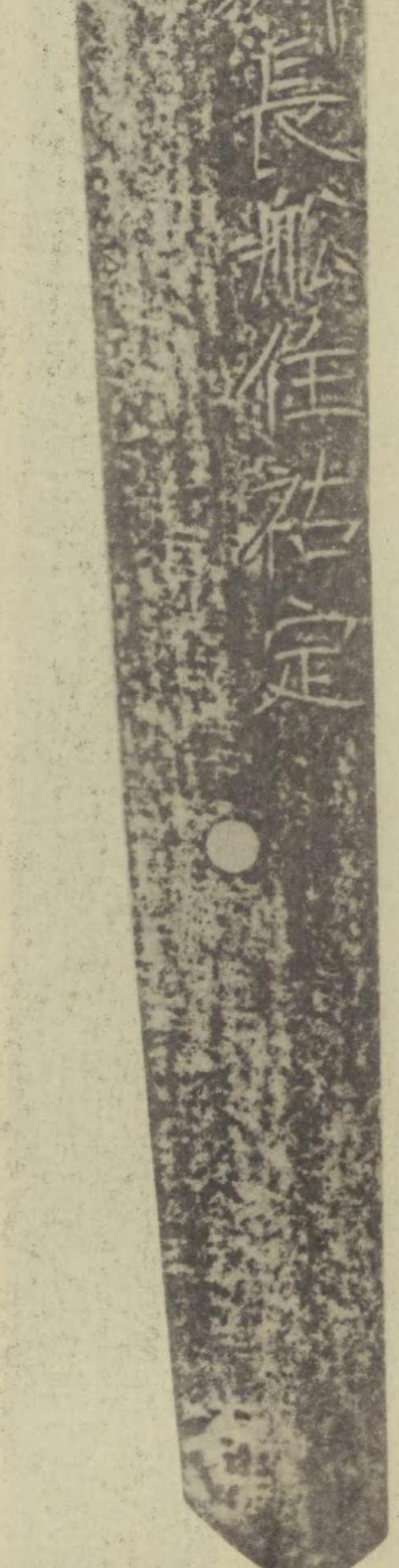
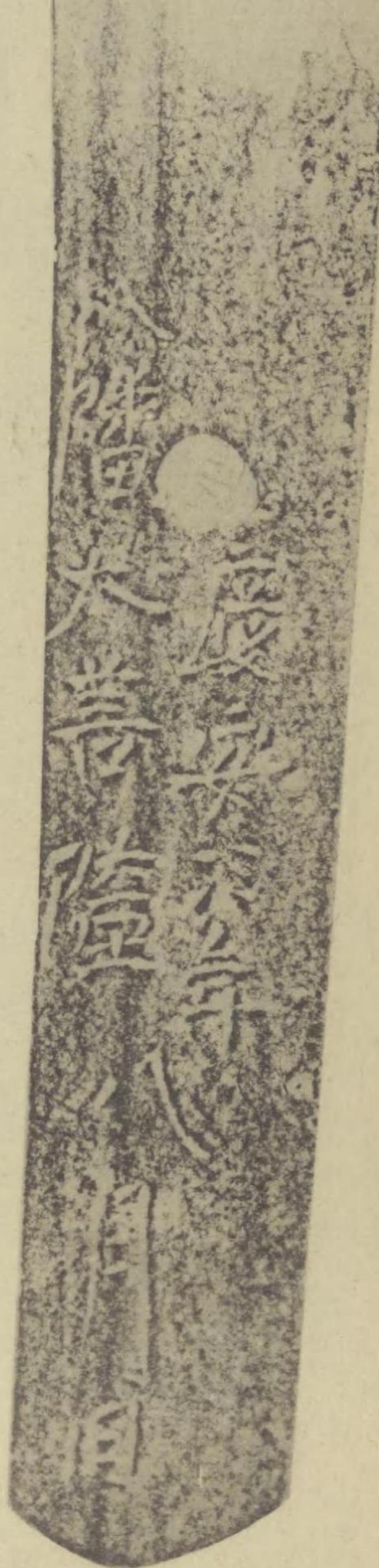
備州長船住
七兵衛尉
源左衛門尉
宗左衛門尉
祐定作

平造、双長一尺一寸四分、双文不規則な大五の目亂、鈍匂深し、表裏に昇降龍を彫る、手法精妙也

備前國住長船七兵衛尉祐定作

双長一尺五寸五分半

慶安四年八月日



地鐵小板目無地の如し、双文丁子亂所々尖りたる双あり匂出來

永正九代末葉

横山加賀介藤原朝臣祐永 天保四年八月日

横山加賀介藤原朝臣祐永

天保四年八月日

永正九代末葉

横山加賀介藤原朝臣祐永
天保四年八月日

川野義雄好之

備前長船住人
川野義雄好之

備前長船住人

備前長船住人

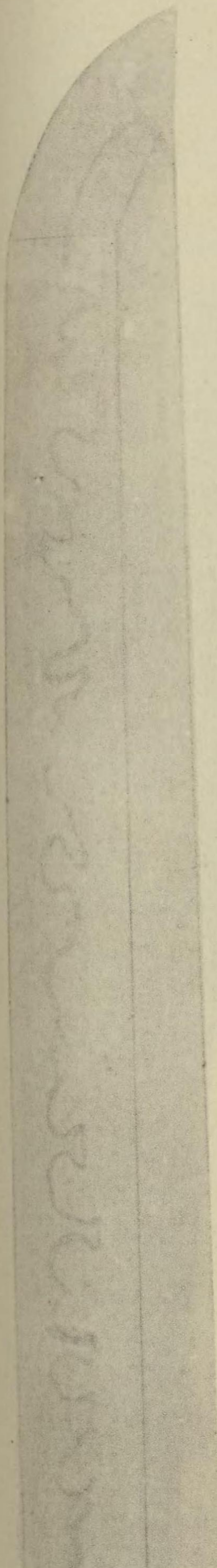
友成五十六代係

友成五十六代係

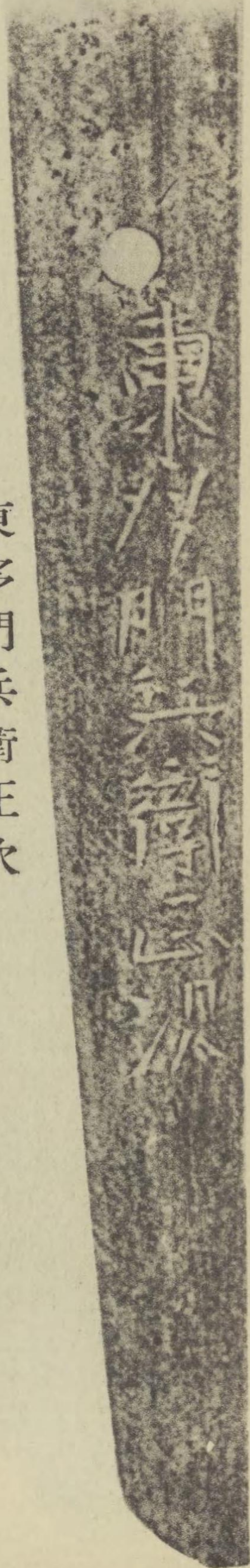
備前岡山住逸見源義隆

花押二十六歲切物同

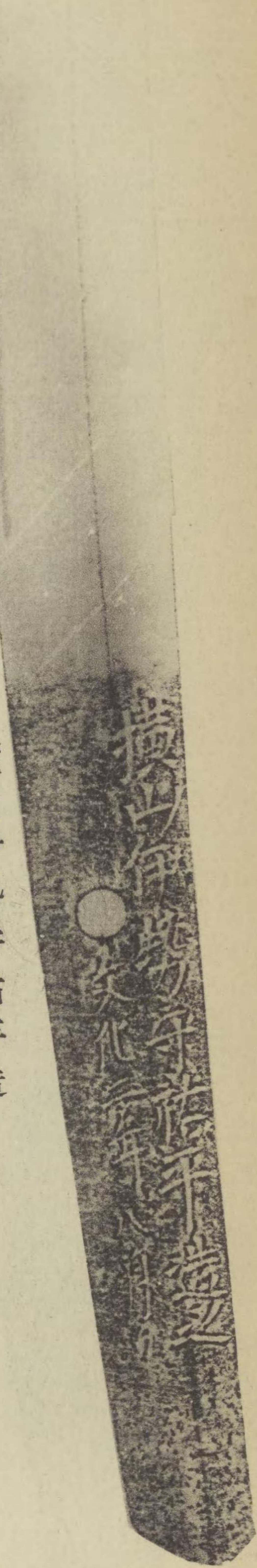
地鐵細美、双ぶち拂の中白出来

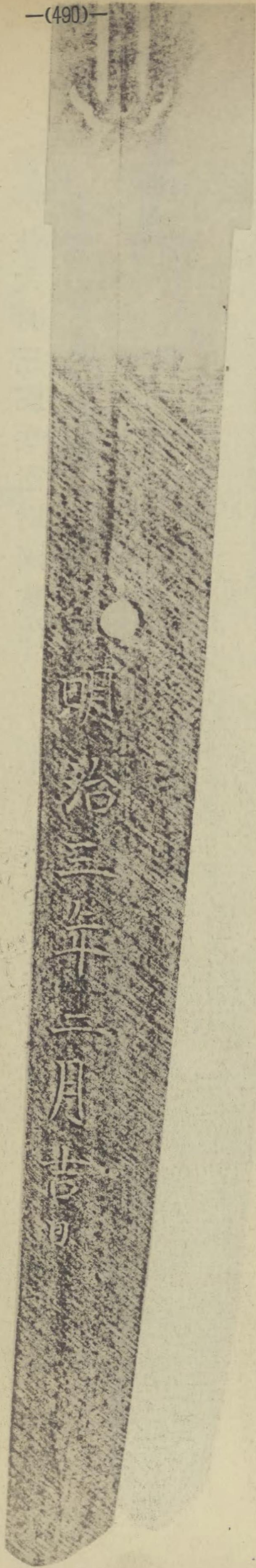


東多門兵衛正次

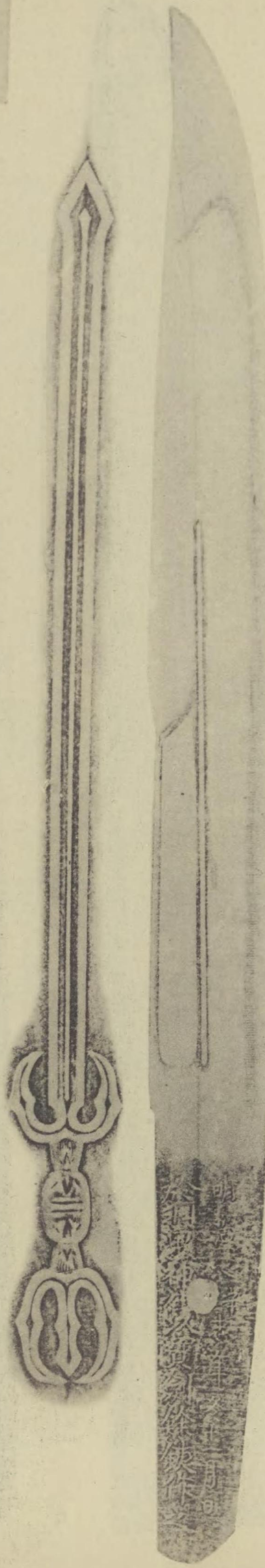
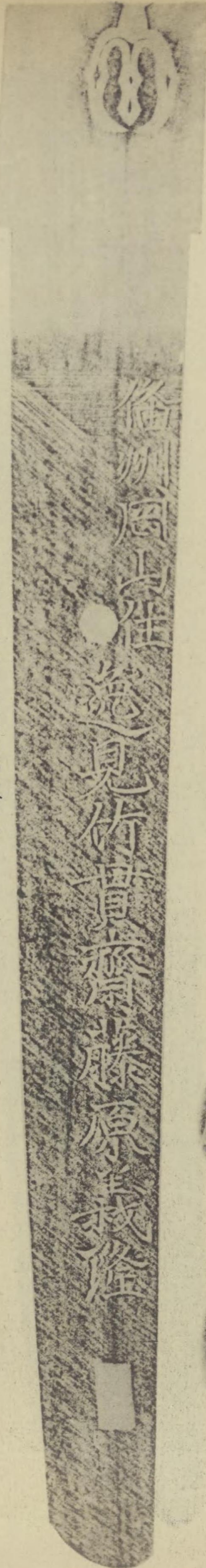


横山伊勢守祐平造

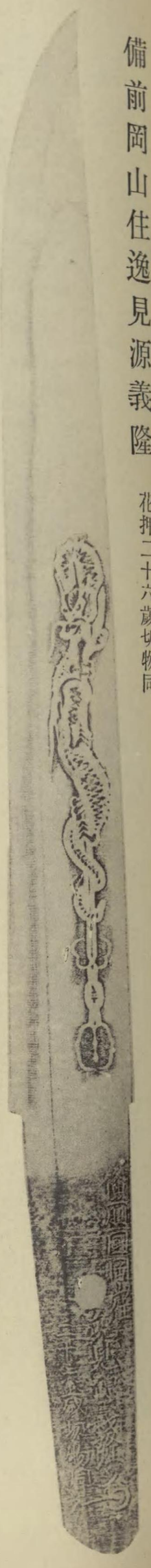




備前岡山住逸見竹貫齋藤原義隆明治三年二月吉日



龍の眼に黄金を入るるもの多し

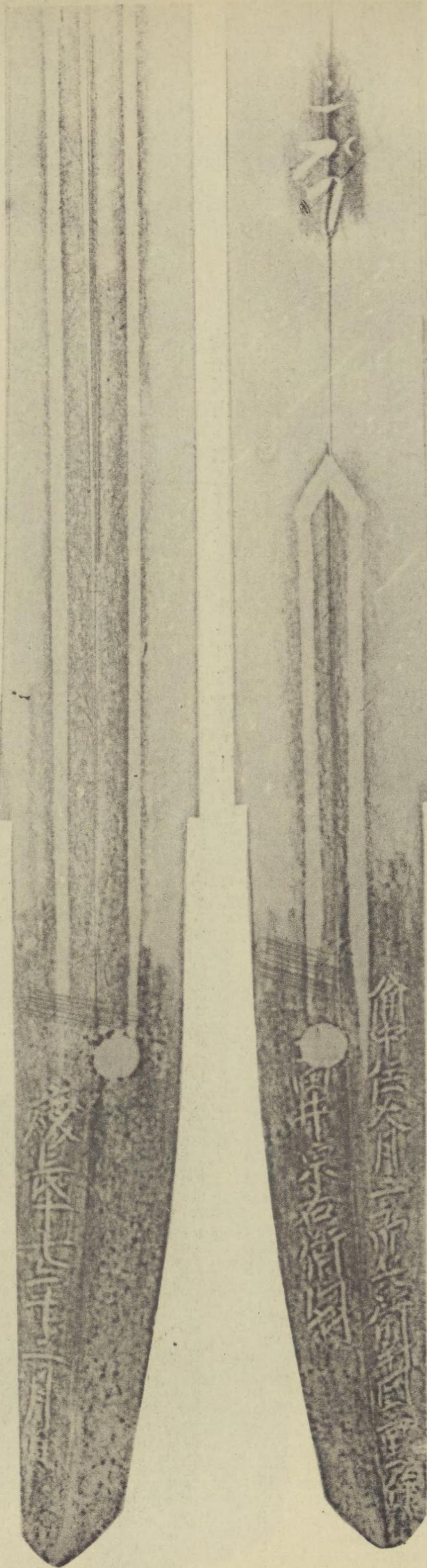
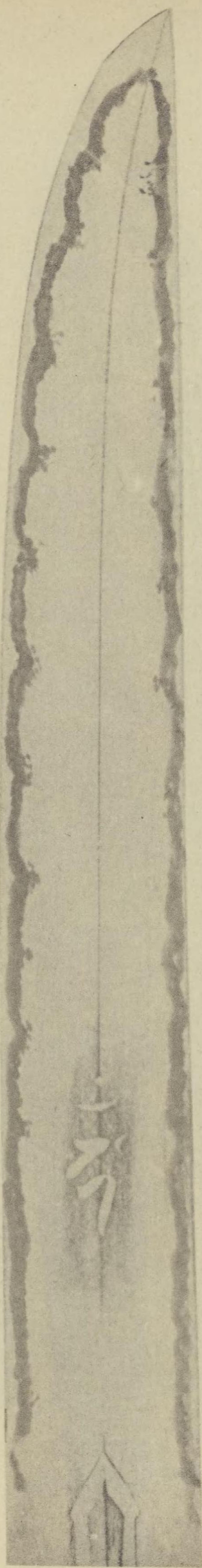


備前岡山住逸見源義隆 花押二十六歳切物同

地獄淵美、双ぶち拂ひや日出来

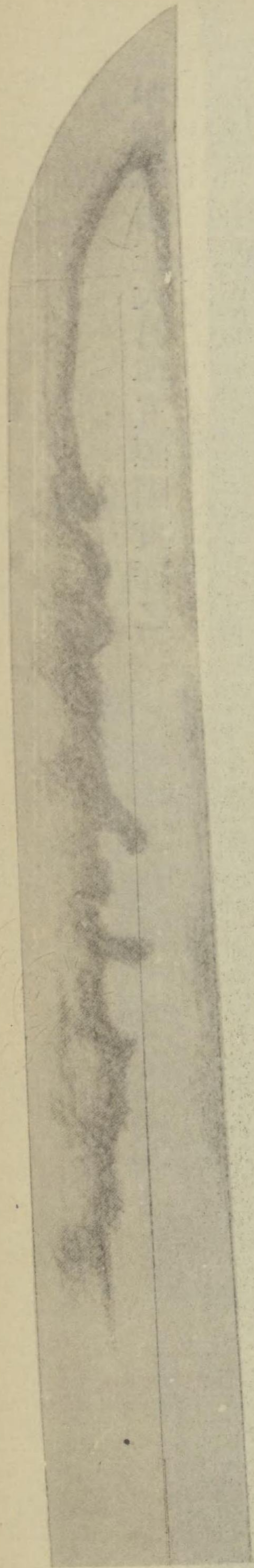
備中住大月三郎兵衛尉國重作

双文小銃附の小丁子双

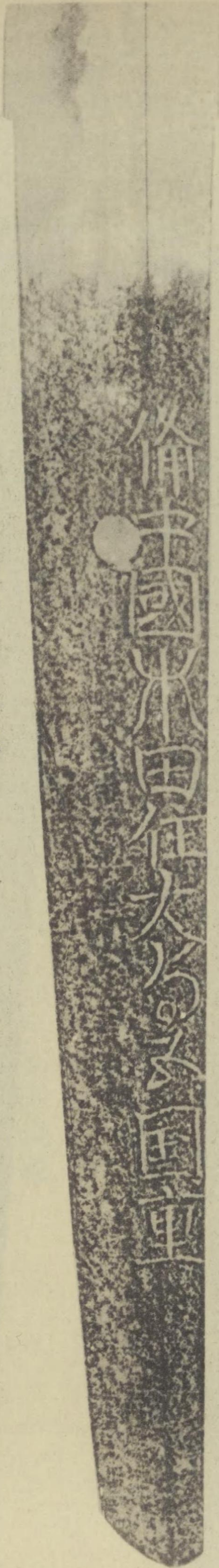


慶長十七年二月日

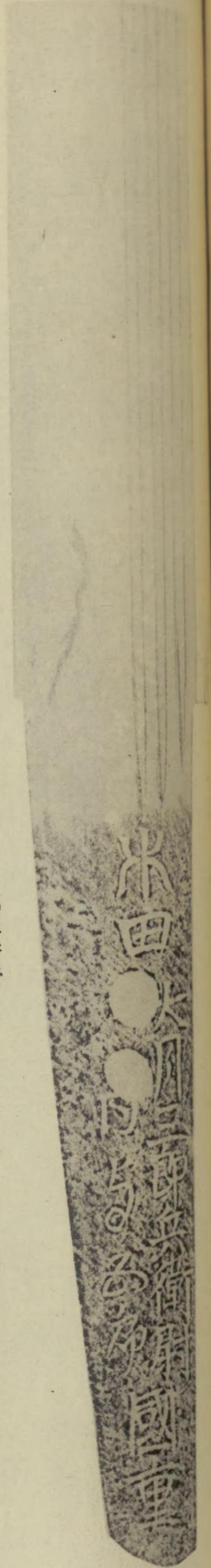
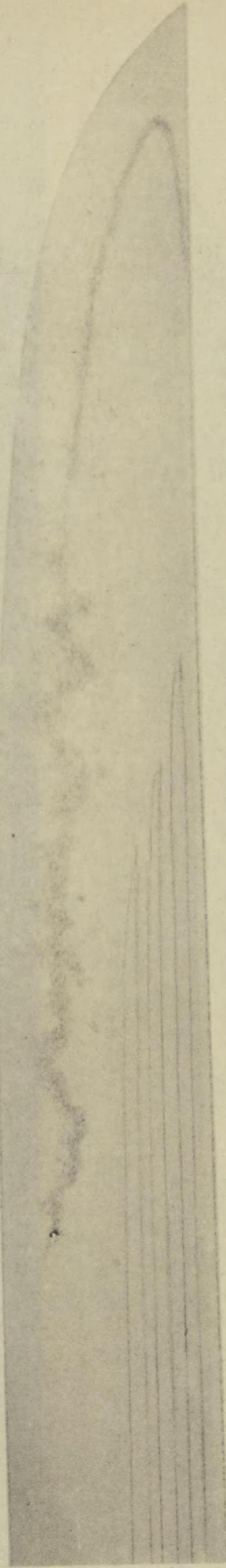




備中國水田住大與五國重



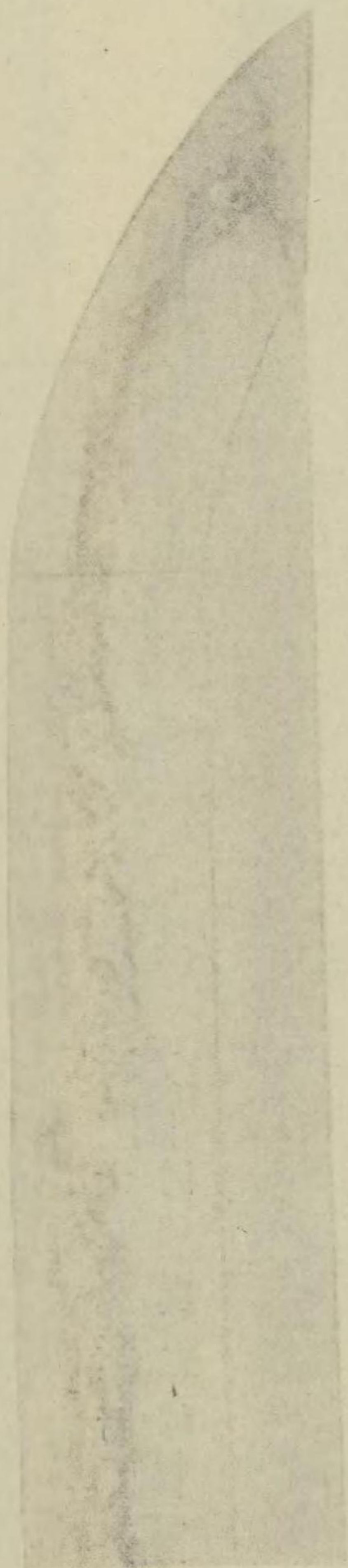
水田 大月三郎兵衛尉
同 與五郎 國重



備中國水田住大月與五源國重作之

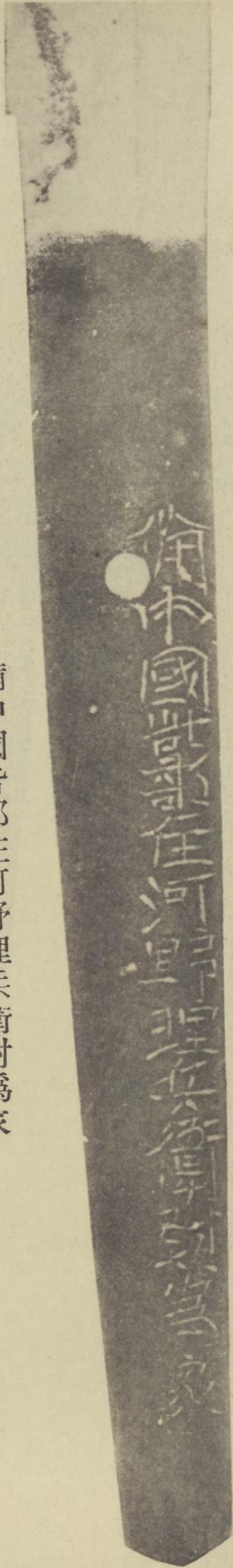
双長二尺三寸四分

地肌板目良く鍊れて美しく、双文盛に亂れて
繁慶を見る如し、殊に源氏を切りしは珍らし

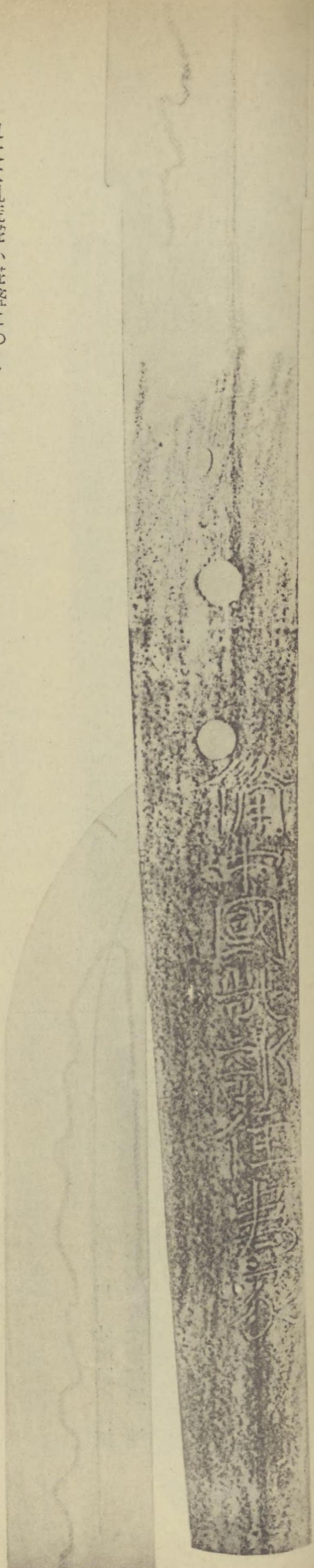


備中國皆部住爲家

双文大亂荒鉞小鉞盛につく



備中國皆部住河野理兵衛尉爲家



備中國水田住大月與五郎國重作



刃長二尺三寸地肌杢目
証がかかる、刃文皆焼風、棟
焼あり

備後三次住水田國重

備中國水田住大月與五右衛門作之

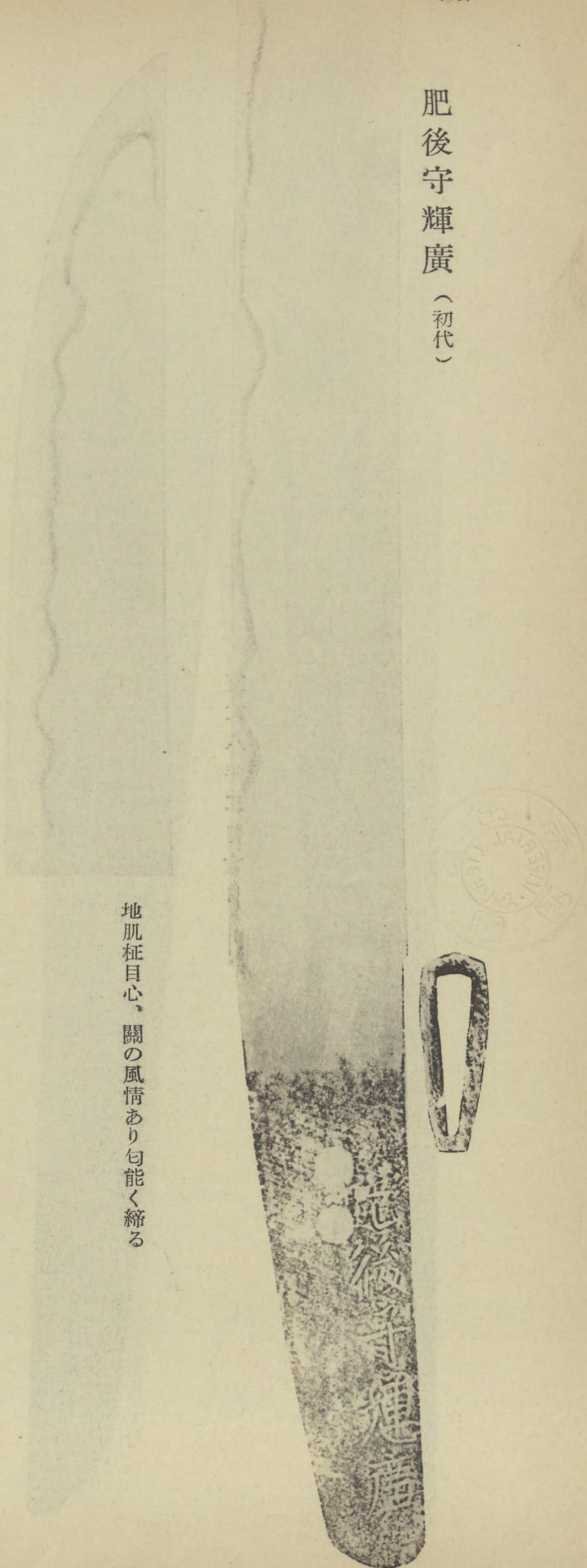
寬文八年二月吉日

備後三次住水田國重

備中國水田住大月與五右衛門作之

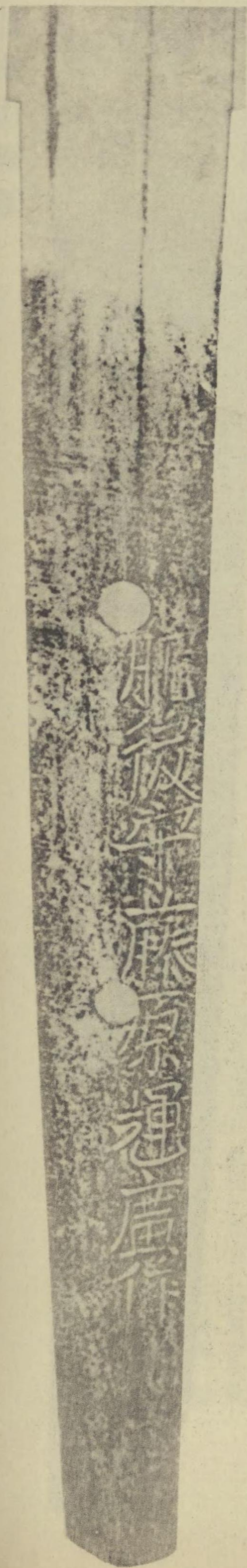
備後三次住水田國重

肥後守輝廣 (初代)



地肌柱目心、關の風情あり勻能く締る

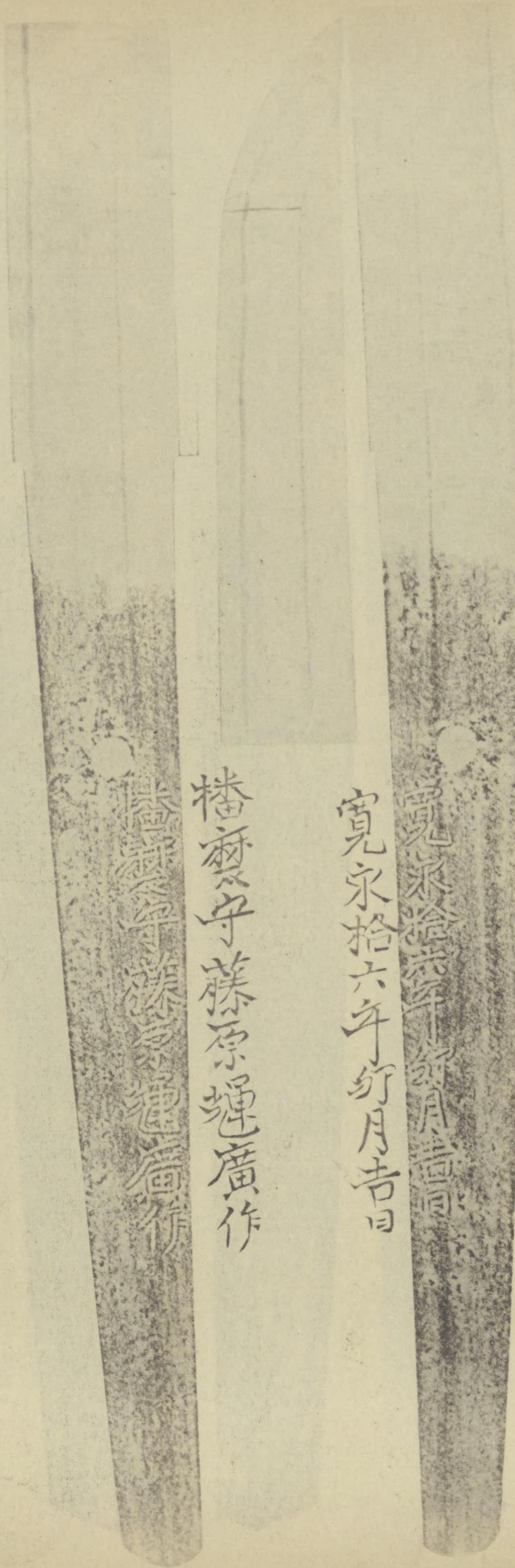
肥後守藤原輝廣作 (初代)



三六

播磨守藤原輝廣作 (二代)

鎬造、双長二尺三寸六分、地肌板目能く詰む、双文直双



播磨守藤原輝廣作

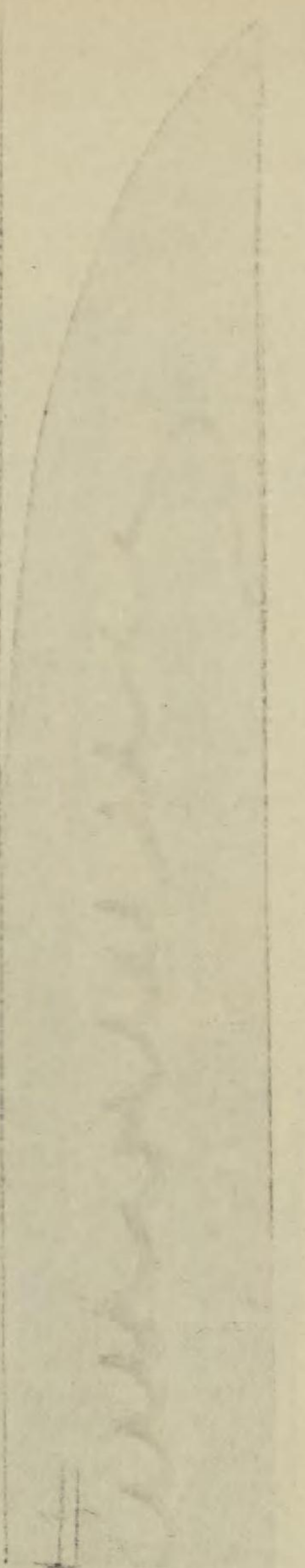
寛永拾六年卯月吉日

寛永拾六年卯月吉日

長州住二王方清作之



栗田口國吉之加鍛銑以造於之



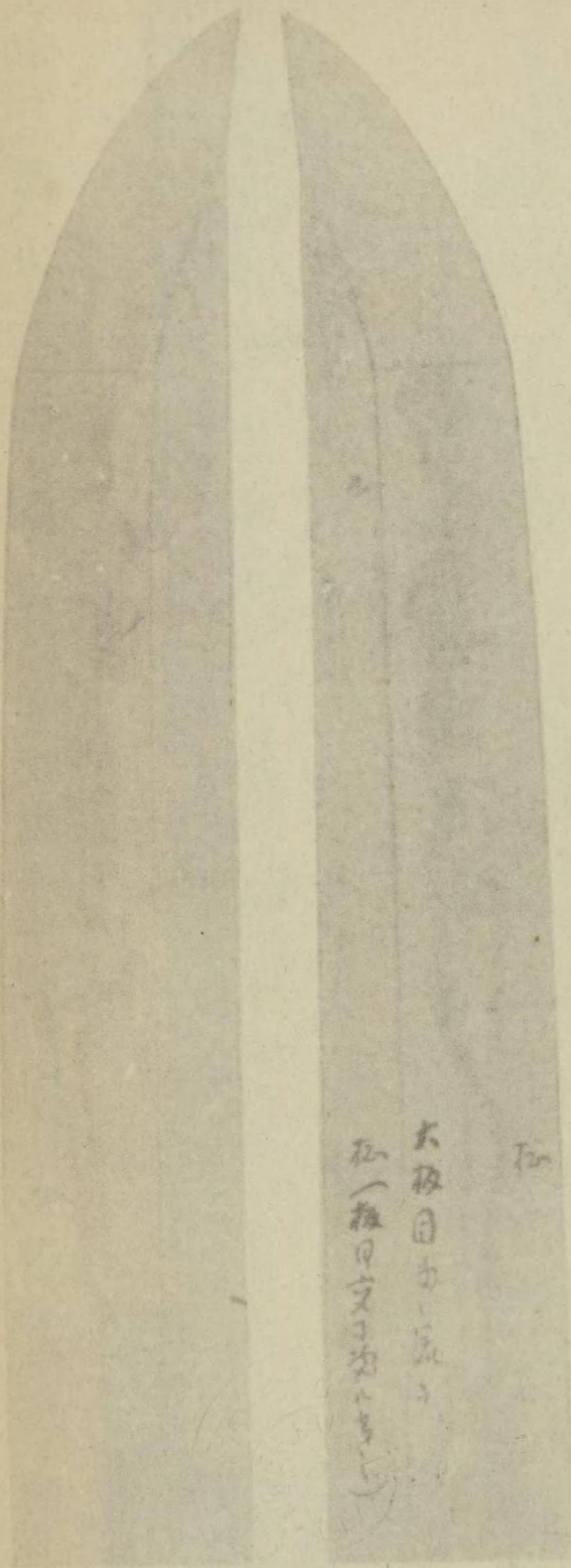
長州住盛秀作



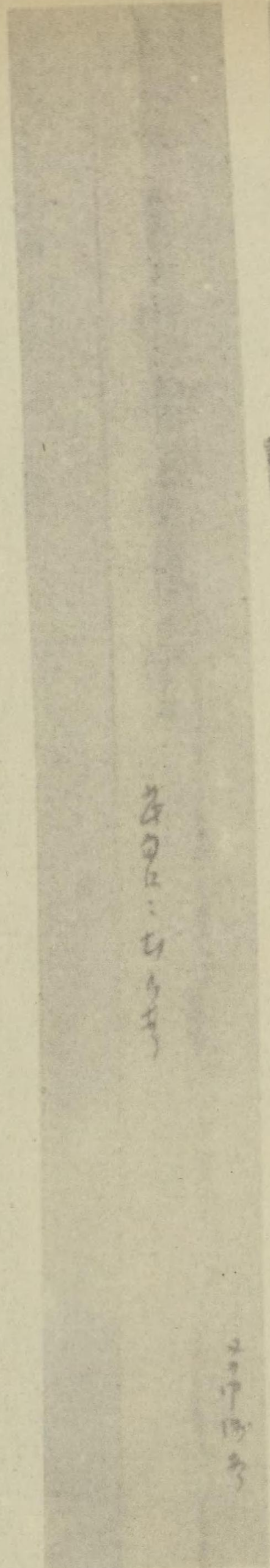
双長九寸八分、地肌小柰目詰む、双文匂出來の小丁子

駿州住重國造之 (南紀重國駿河打)

双長九寸八分、地肌小杓目詰む、双文匂出來の小丁子

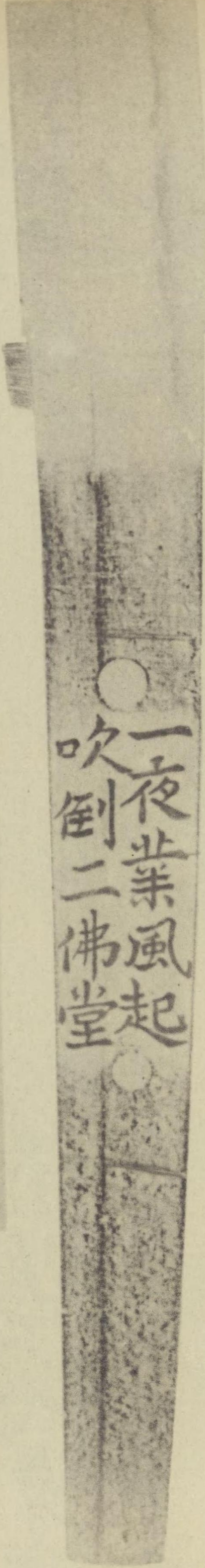


大板目
双一板目文子物

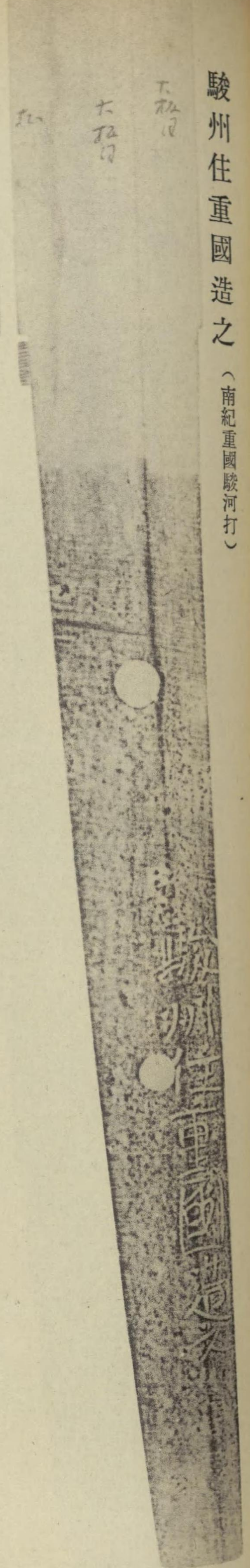


子物はこむり

子物あり



一夜業風起
吹倒二佛堂



大板目

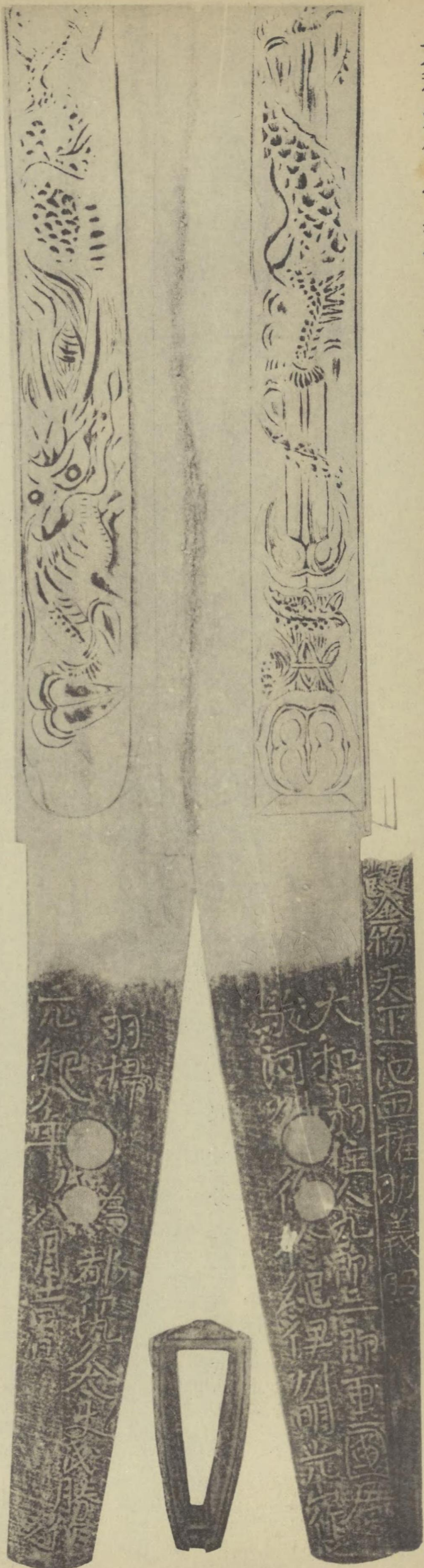
大板目

大板目

双長二尺四寸五分、地肌大板目地景あり
双文大亂双中鉢小鉢匂深く中程より上よ
く出來たり地双共に繁慶に似たるも、双
の中に洲あり

大和州住人九郎三郎重國居駿河州後於紀伊明光山作之

棟に鑿物天下一池田權助義照

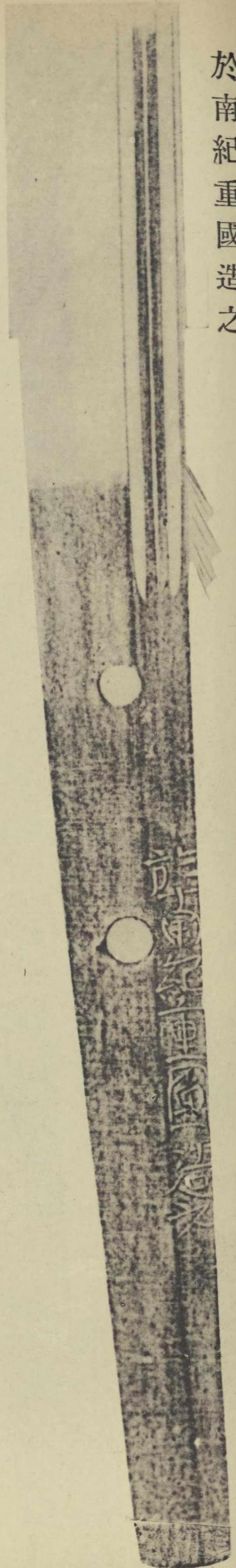
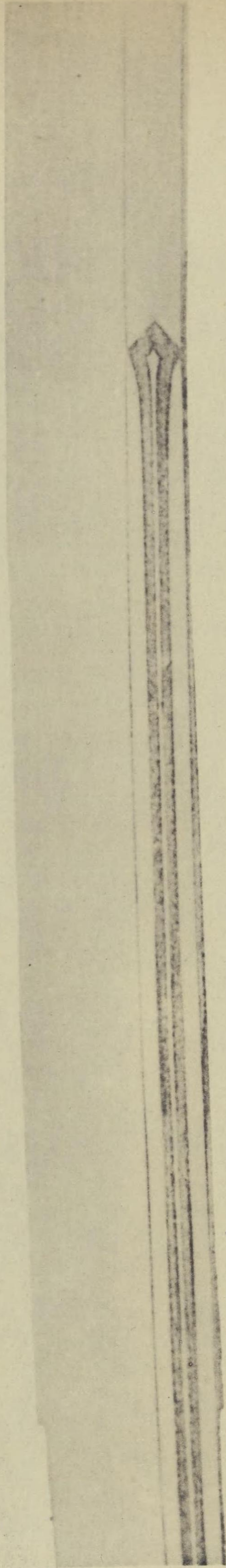


羽掃爲都筑久太夫氏勝作之 元和八年八月吉日

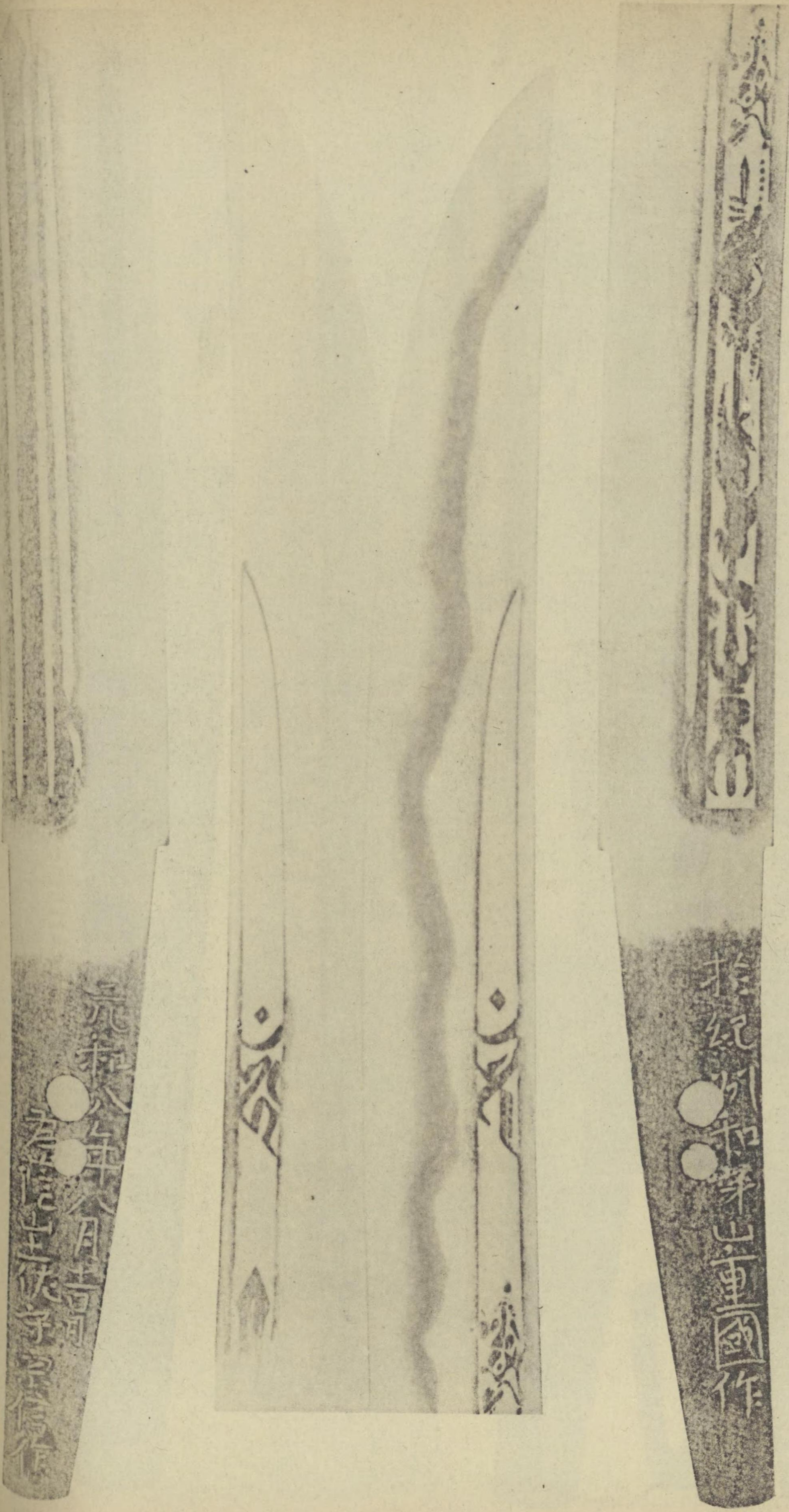


於南紀重國造之

刃長二尺三寸五分、姿頗るよろし、地肌杢目柃立ちてざんぐりとする、双文亂刃荒鉾小鉾光強く、湯走飛焼あり鉾子鉾にて崩れ心を持つ



於紀州和茅山重國作元和八年八月吉日爲蔭山土佐守宗信作



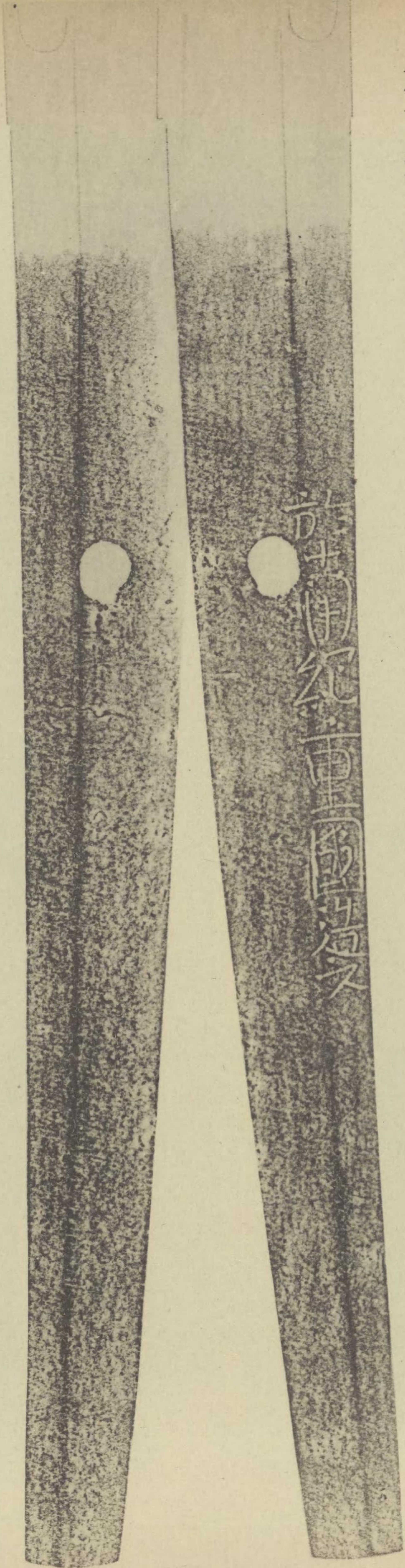
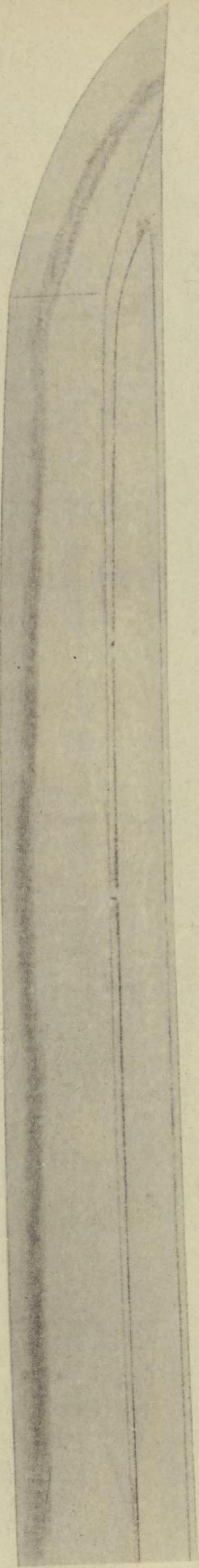
身幅稍廣く先反り、地肌板目に証がかりて能く詰む。双文鋺出來の亂刃盛なり

元和八年八月吉日
爲蔭山土佐守宗信作

於紀州和茅山重國作

於南紀重國造之

姿反り浅く地鉄板目に柁交る双文鉾付の直双包永の風情あり両面棒槌



身幅稍廣く先反り、地肌板目に柁がかりて能く詰む。双文鉾出来の亂双盛なり

於南紀重國造之

於南紀重國造之



双長一尺四寸八分反り四分地肌空目に見てねつとりと沈み細かに良く錬れたり、双文灣れ心の直双、句地双へ煙込み双境に金筋現はる

於南紀重國造之

双長一尺七寸七分半、地肌板目在交りて細美、双文直双小籠包深し



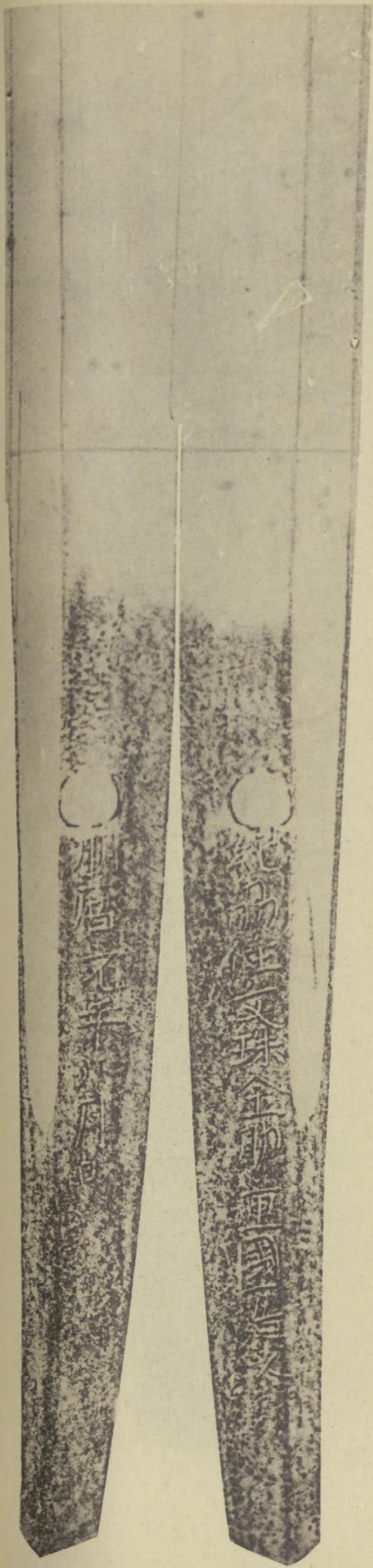
貳ツ胴土檀拂於千住山田源藏



於南紀重國造之

双長一尺四寸八分反り四分地肌本目に見れてねとみとみ細かには長金...

紀州住文珠金助重國造之
明曆元年八月日

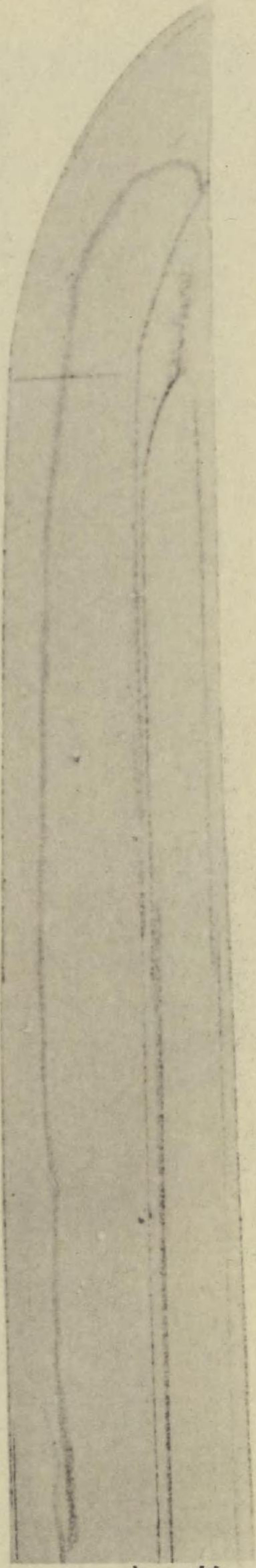


双長一尺九寸五分地肌空目に柁が
か、双文尖り目の亂双足長く入る

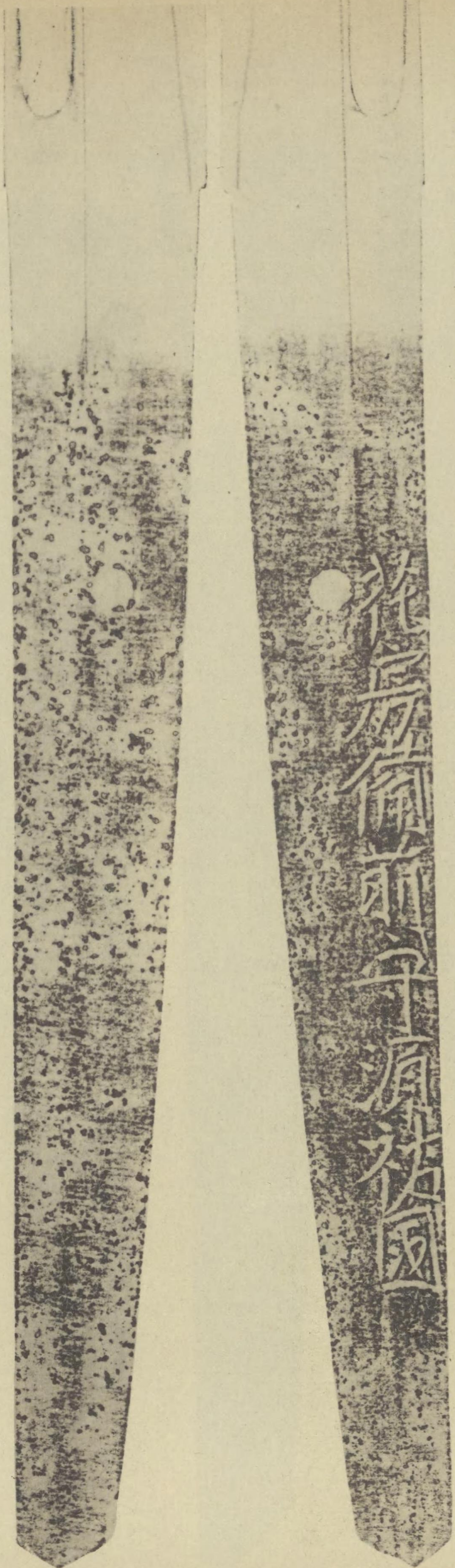


於紀州文珠重國造之（二代）

花房備前守源祐國

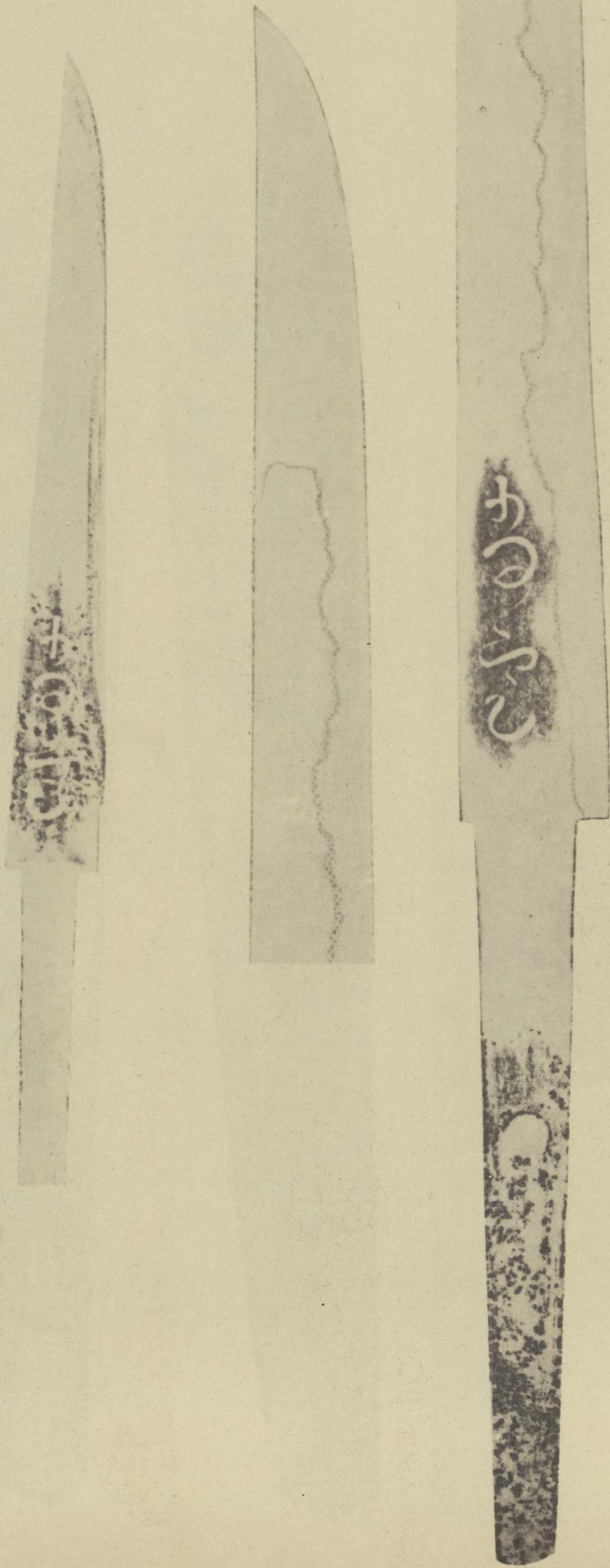


地肌杻目肌立つ處あり
双文小籠締る

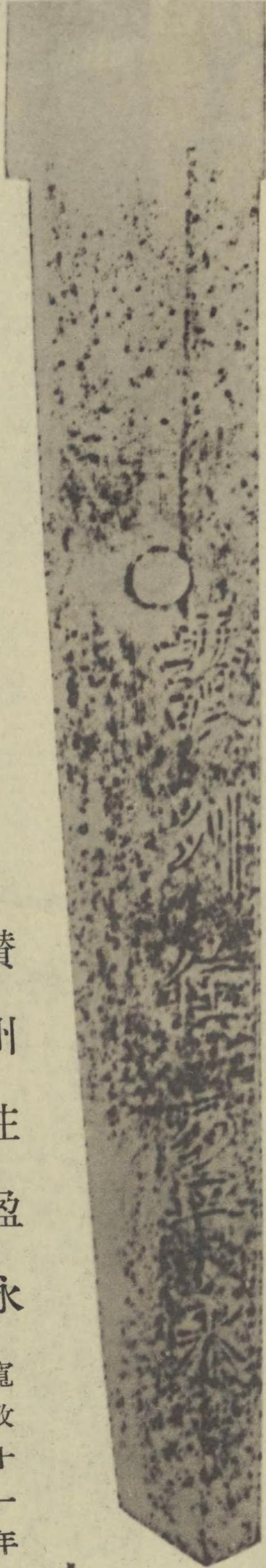
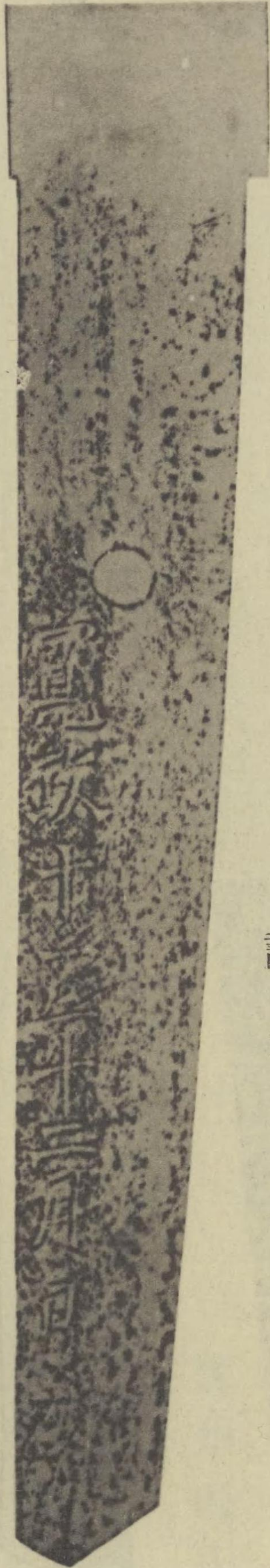


紀州住文珠金助重國造之 明曆元年八月日

尙
定
(紀州住藤原尙定)

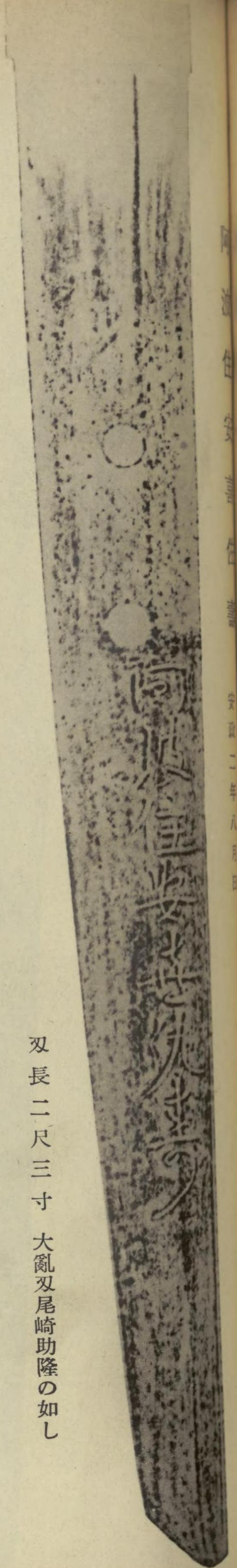


阿波住安藤氏
安貞二年八月日



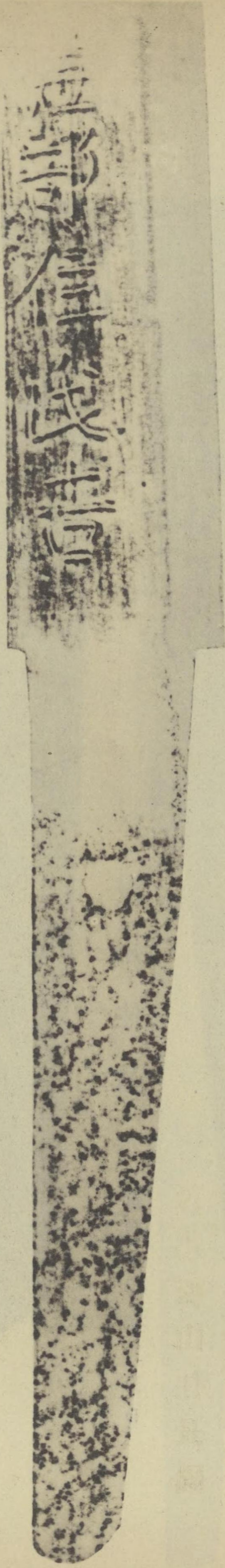
讚州住 盈 永
寛政十一年二月日

双長一尺六寸、中直双

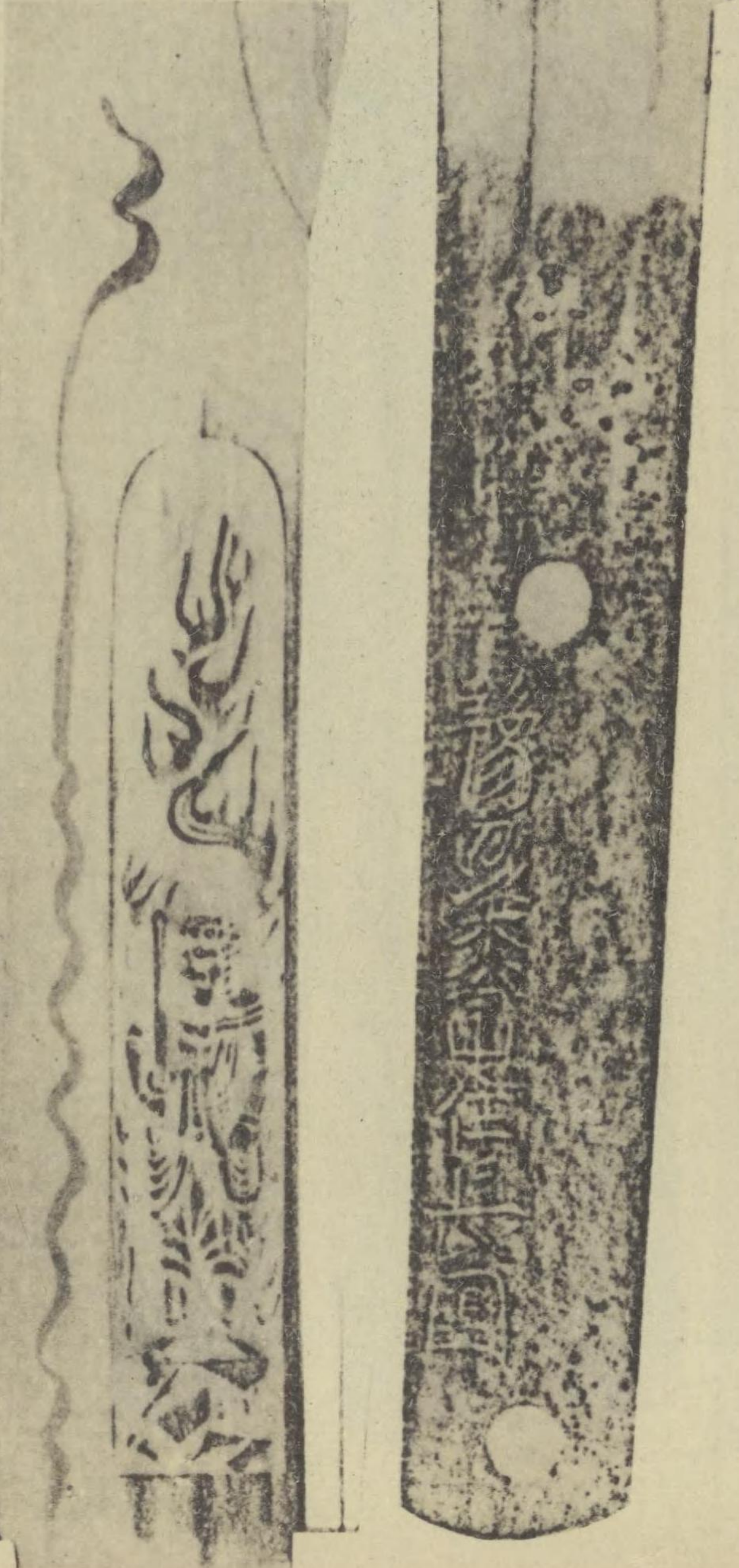
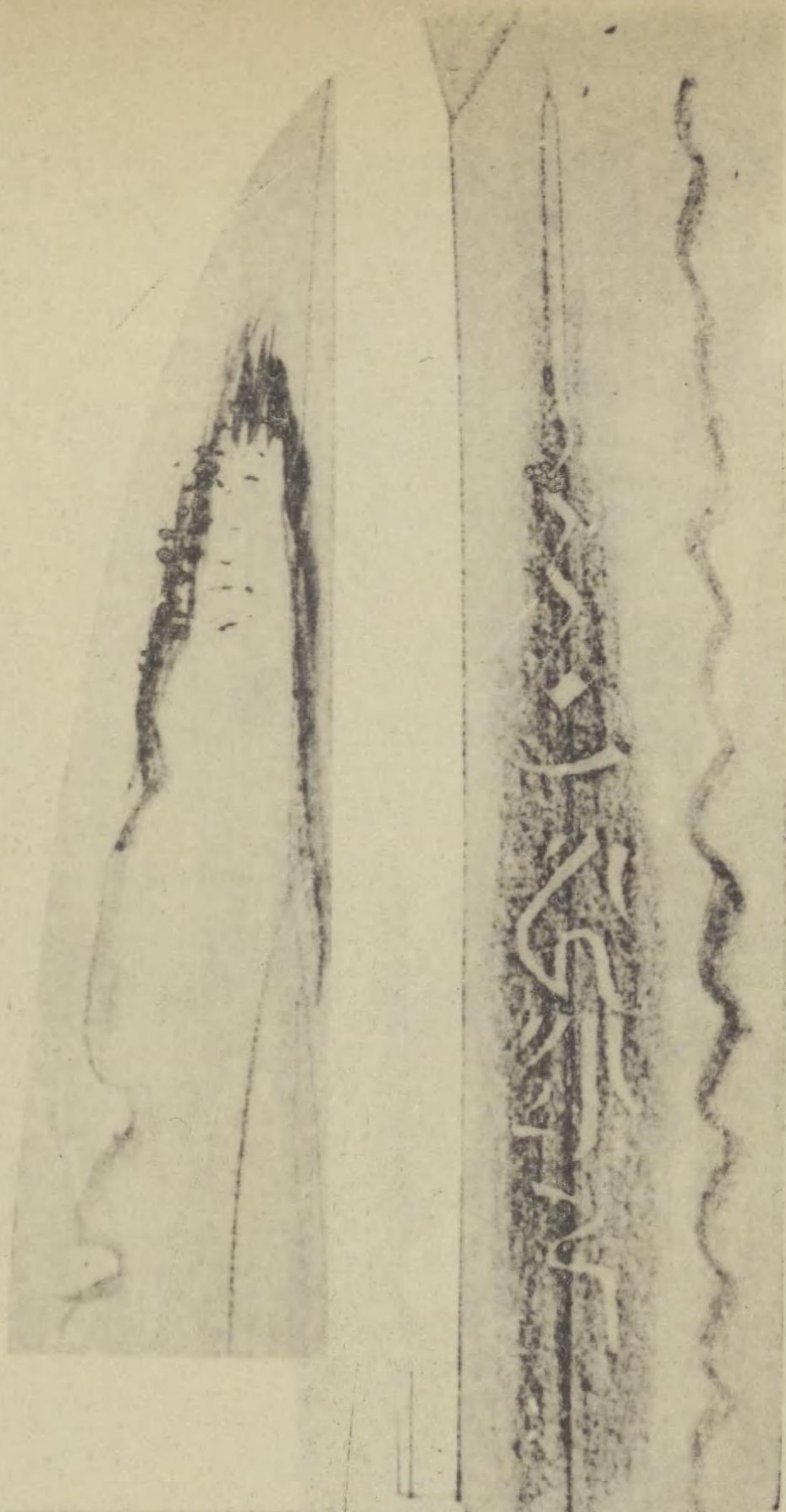


双長二尺三寸 大亂双尾崎助隆の如し

阿州海部住氏吉



豫州松山住長國



刃長一尺三寸三分餘、鵜首造刃文五の目亂荒鈍所々につく、銚子掃掛け棟焼

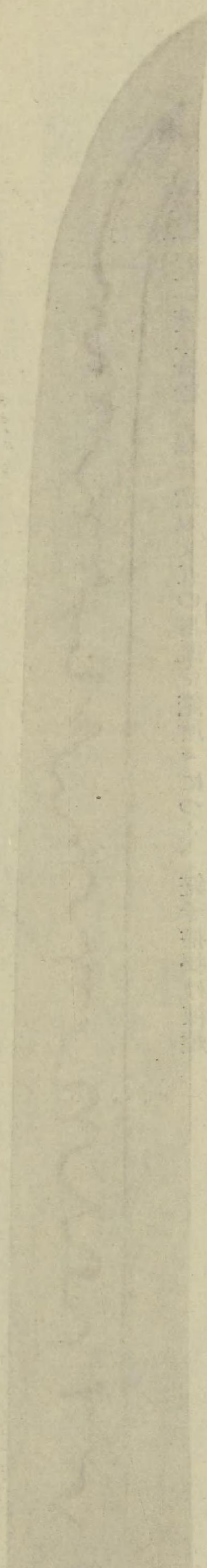
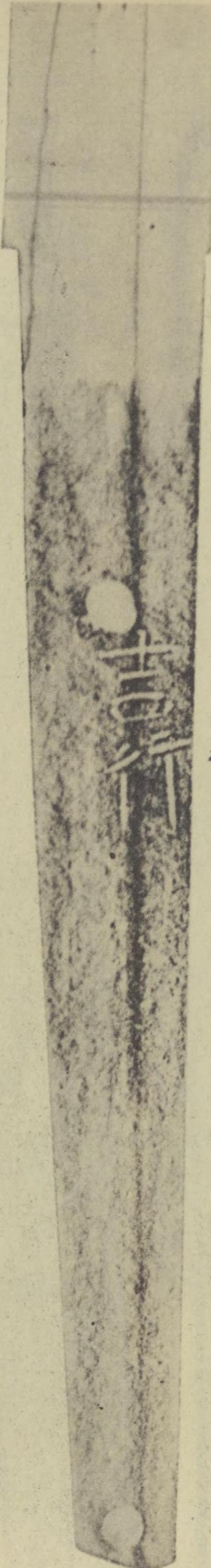
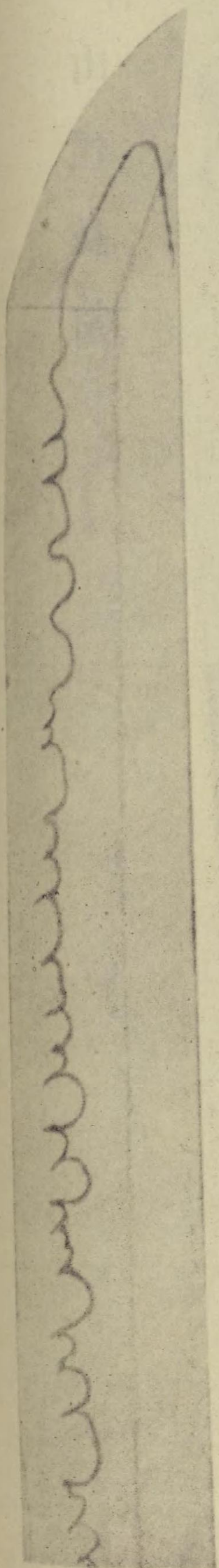
豫州松山住長國



(512)

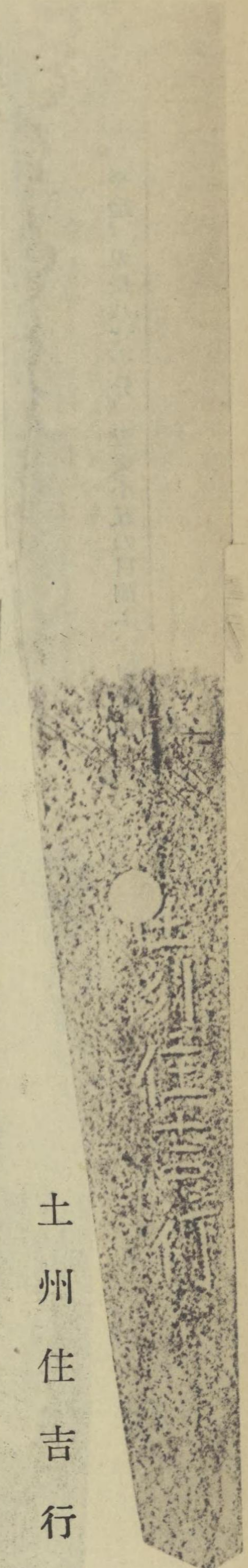
平造、刃長八寸一分、刃文小五の目揃ふ、匂堅し

双長一尺四寸五分、双文匂出來の丁子双所々玉を焼く



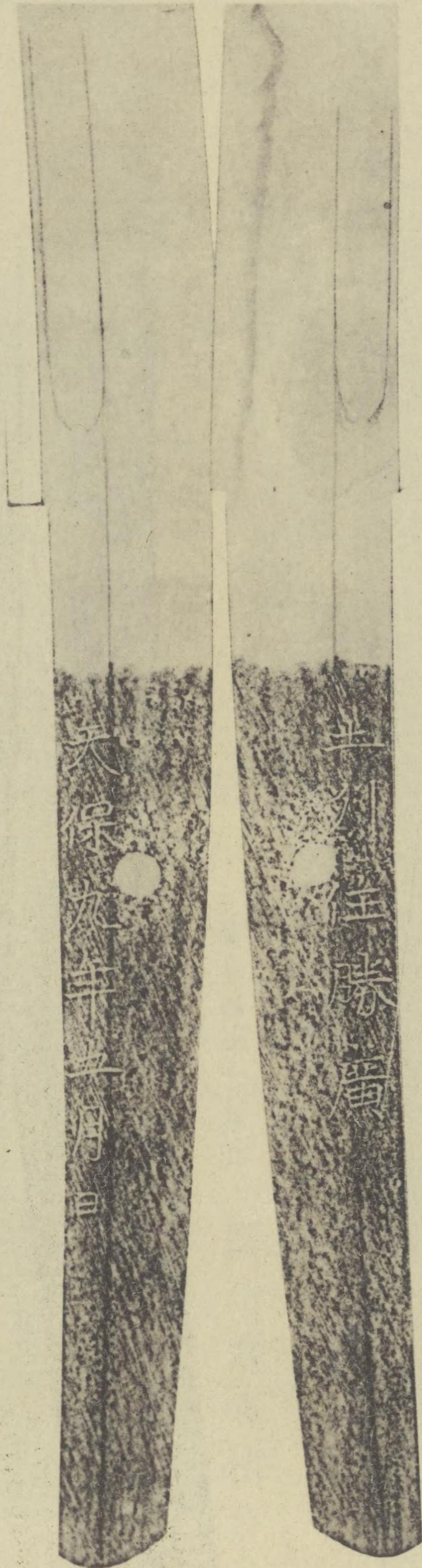
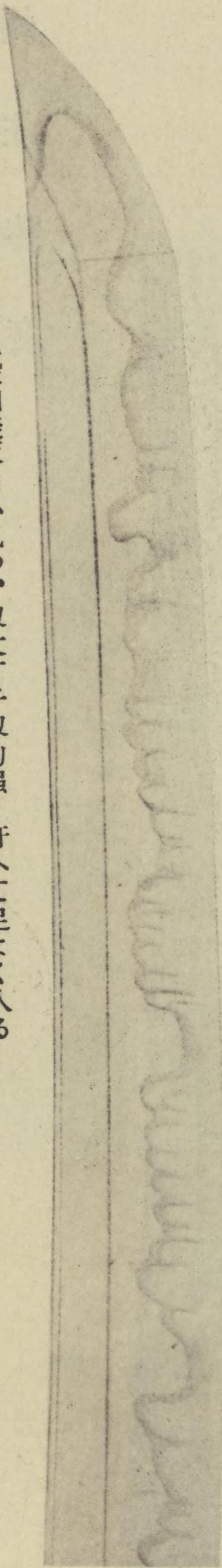
双長一尺七寸七分

土州住吉行



土州住勝廣

双長一尺二寸一分、地肌無地鍛細美板目心見ゆ、双文丁子双匂強く冴へて足よく入る



双長一尺四寸五分、双文匂出來の丁子双所々玉を焼く

土州住勝廣



刃長二尺七分半、地肌無地底に板目細かく見ゆ、
 又文細直又小鈍所々につき、匂堅く締る、
 銚子小丸品よく返る

双長二尺七分半、地肌無地底に板目細かく見ゆ、双文細直双小錠所々につき、匂堅く締る、錠子小丸品よく返る

筑州住左行秀

嘉永四年二月日
應小倉正治好

嘉永四年二月日

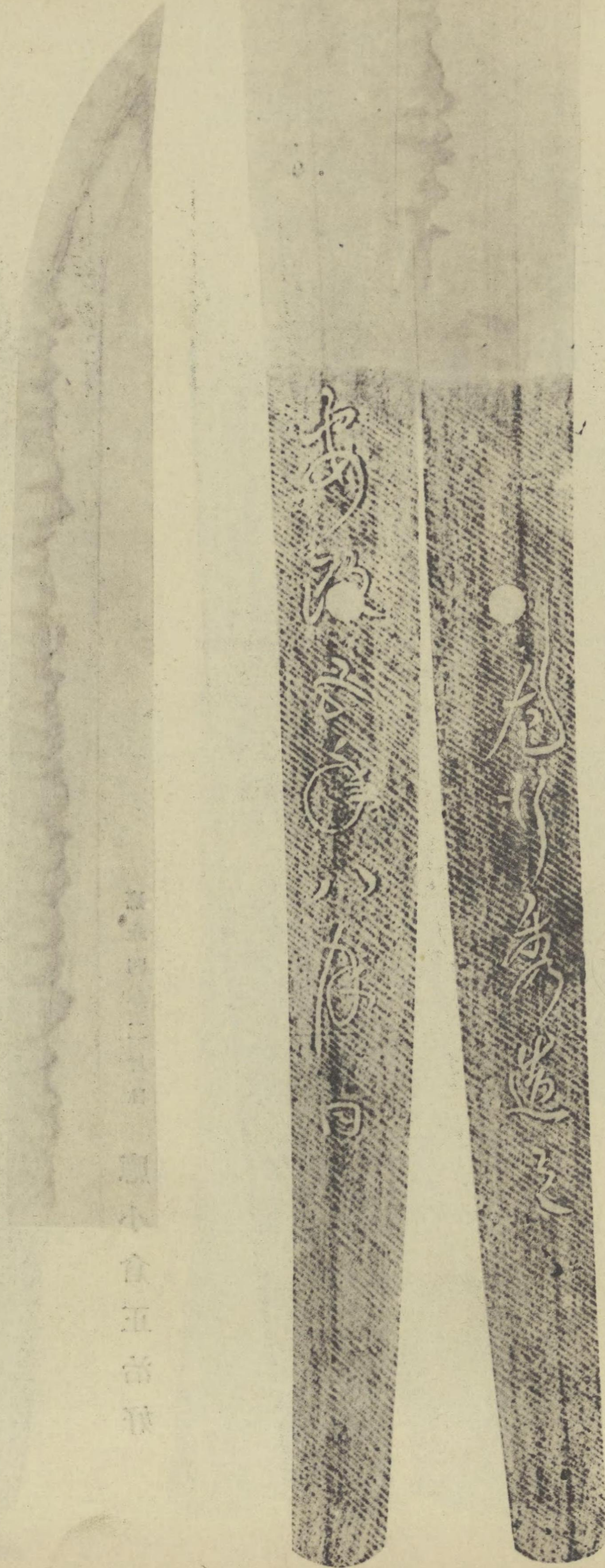
應小倉正治好

筑州住左行秀
鍛之

(516)

双長一尺三寸四分、地肌大板目流れ杳の如くなる、磨地柁目也、地錠一面につく、双文大五の目亂足深く入る

左
行
秀
造



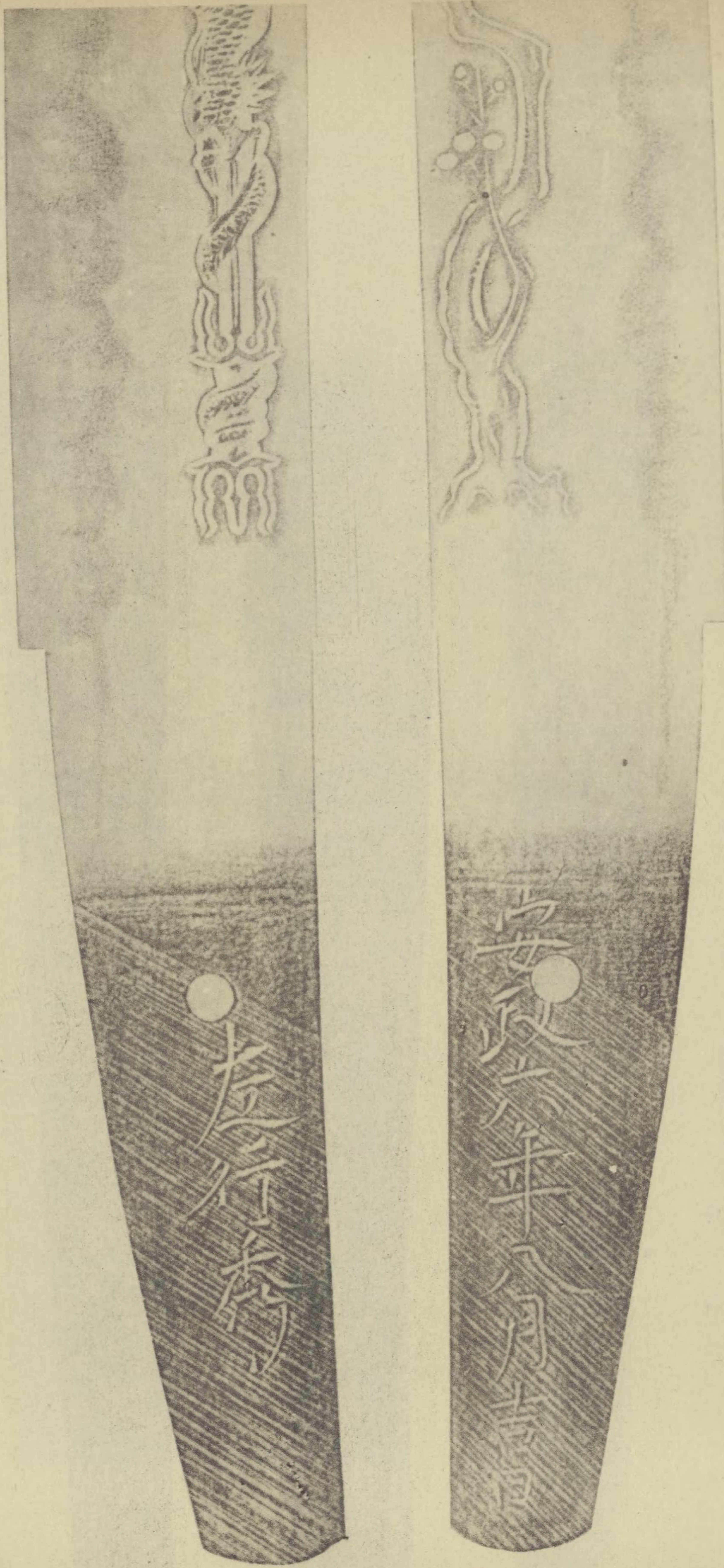
刃長二尺四寸五分

海防

小倉五番

左 行 秀

包丁正宗寫、双長一尺一寸二分、大平造身巾の廣さ末にて一寸五分物打にて一寸四分あり、先反り重ね厚し、地肌板目細かく地鍔ありて潤ふ双文大亂に丁子交り、双中一面に銚つき匂極めし深く太き足隈なく入りて、砂流しと交叉し、双色飽くまで白く冴ゆ



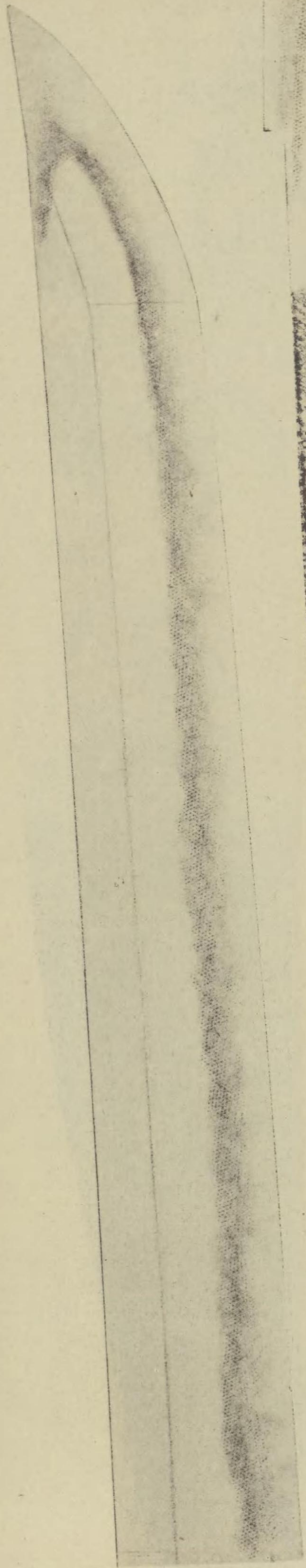
左行秀

安政六年八月吉良

於東武士佐藩工左行秀造之

於東武士佐藩工左行秀造之

慶應三年八月吉日



刃長二尺三寸六分、姿釣合よろし、地肌無地頗る細美、双文は助廣の如く小鑑匂極めて深し

双長二尺三寸六分、姿釣合よろし、地肌無地頗る細美、双文は助廣の如く小鑑匂極めて深し

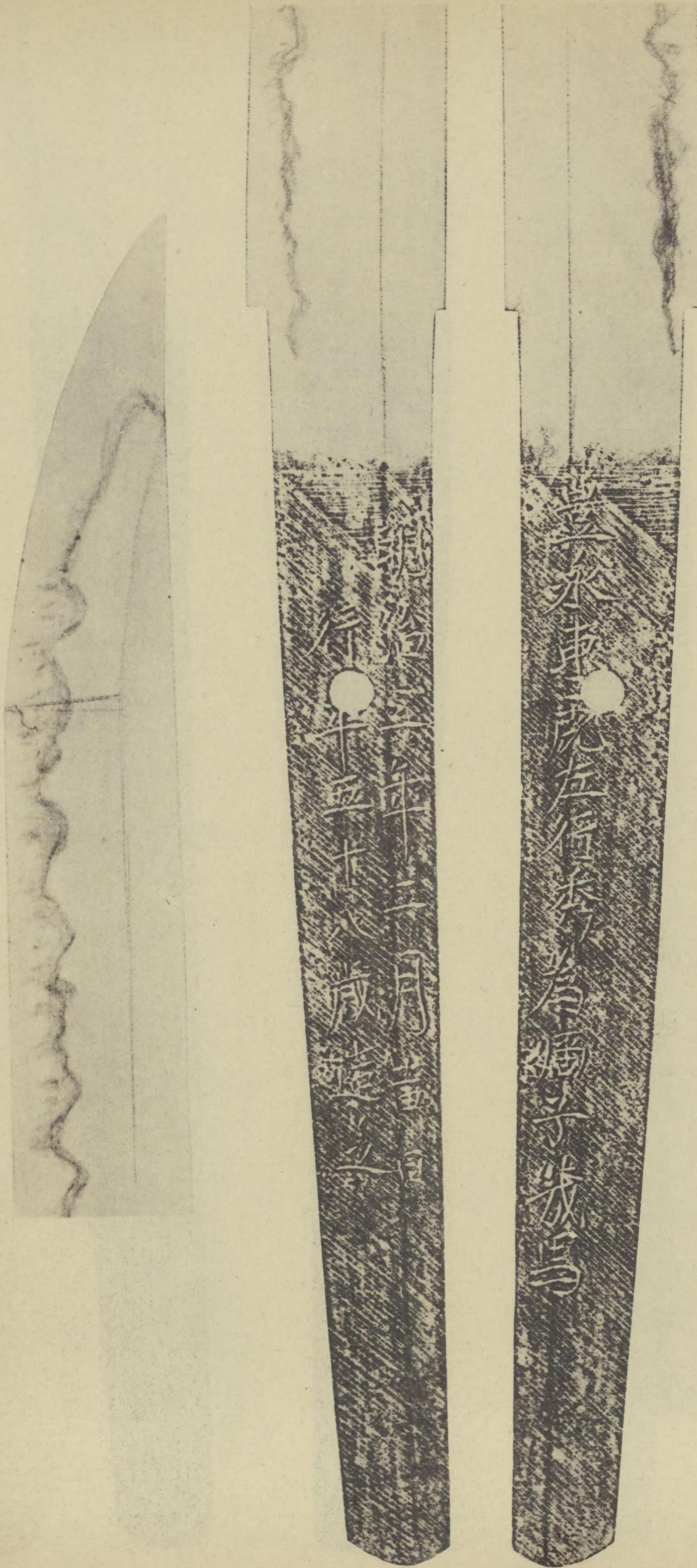
於東武士佐藩工左行秀造之

於東武士佐藩工左行秀造之

慶應三年二月日

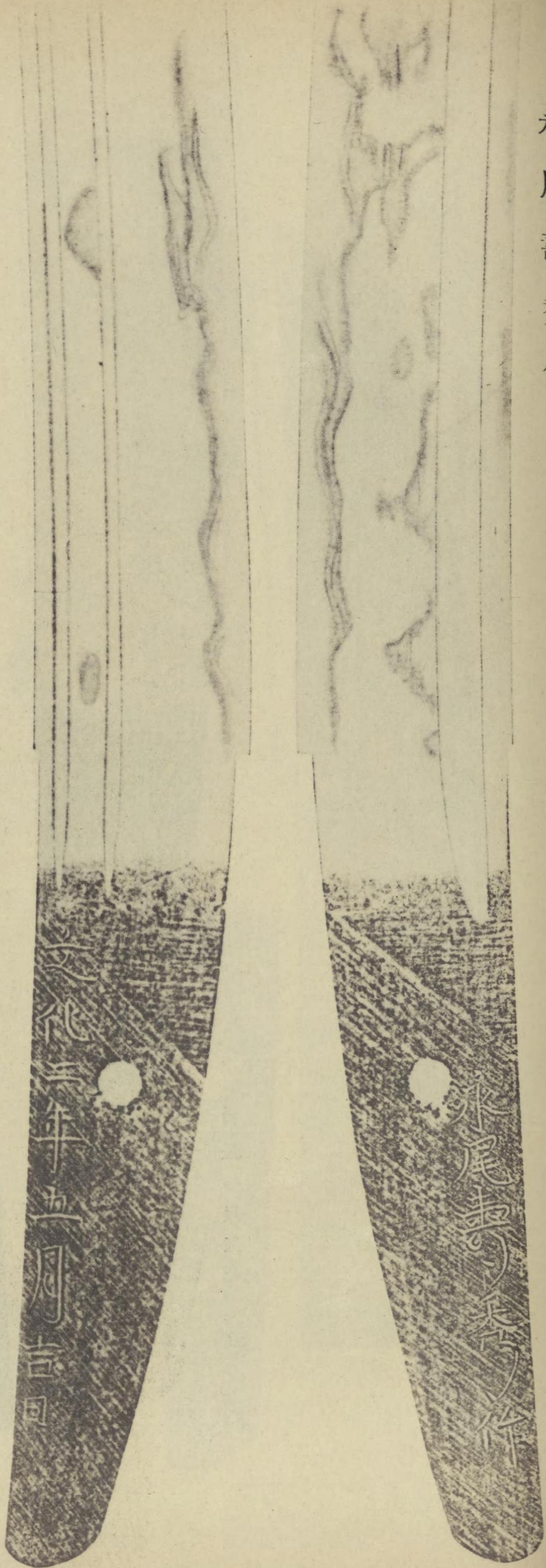
双長二尺五寸一分地肌盛につく小鑑匂深く双の中左の如き働きあり

豊永東虎左行秀爲嫡子幾馬



双長一尺一寸六分、地肌無地細美、双文丁子亂小鈍に匂交りて出来頗るよろし

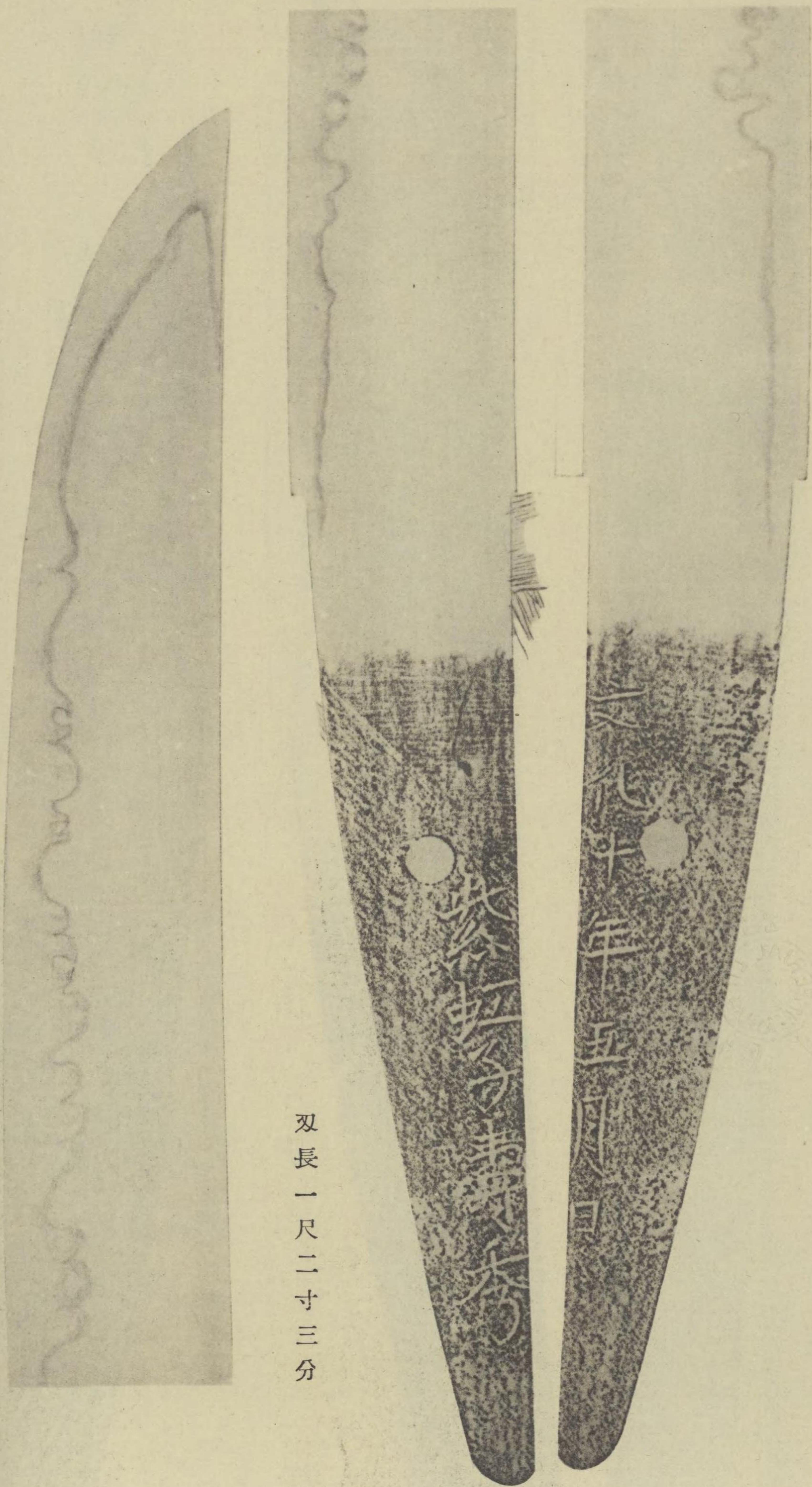
双長一尺三寸、大平造、地肌大板目に柁交り、地鑑烈しくつく、双文大亂、荒鑑中鑑砂流し盛也、鑑にて日月を焼く



永尾壽秀作

双長二尺一寸六分、地肌無地細美、双文丁子亂小鑑に匂交りて出来頗るよろし

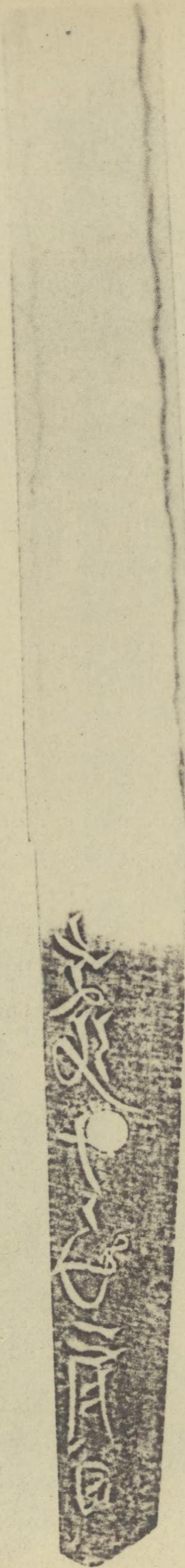
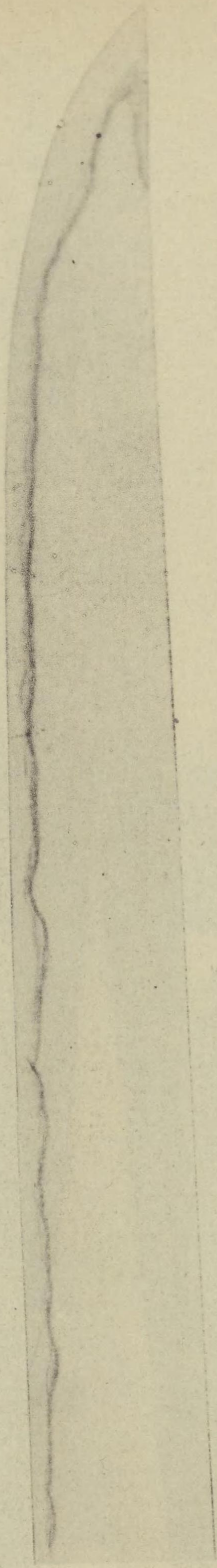
紫虹子壽秀



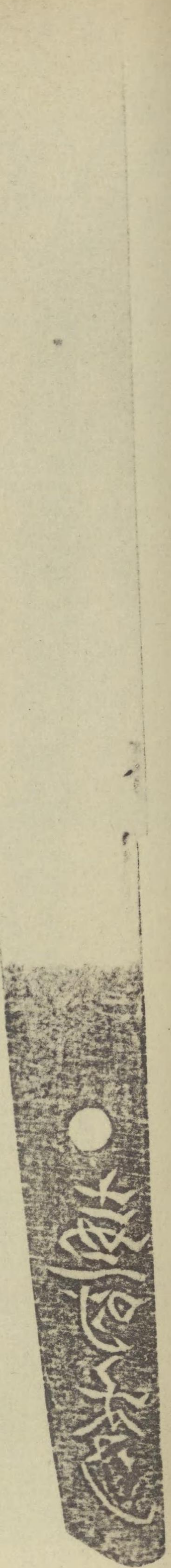
刃長一尺二寸三分

壽
秀

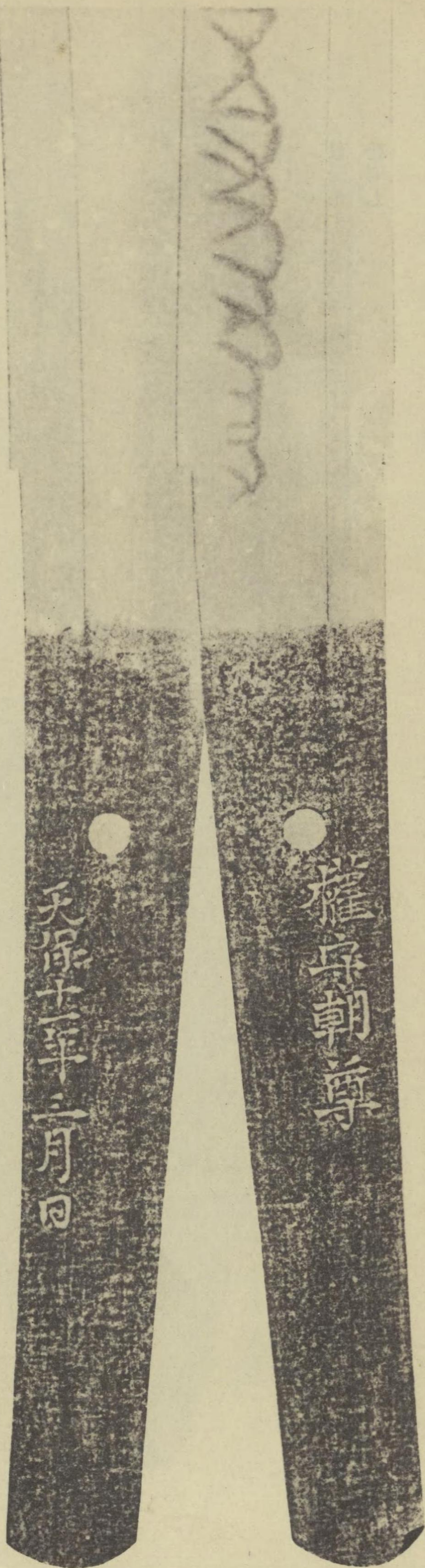
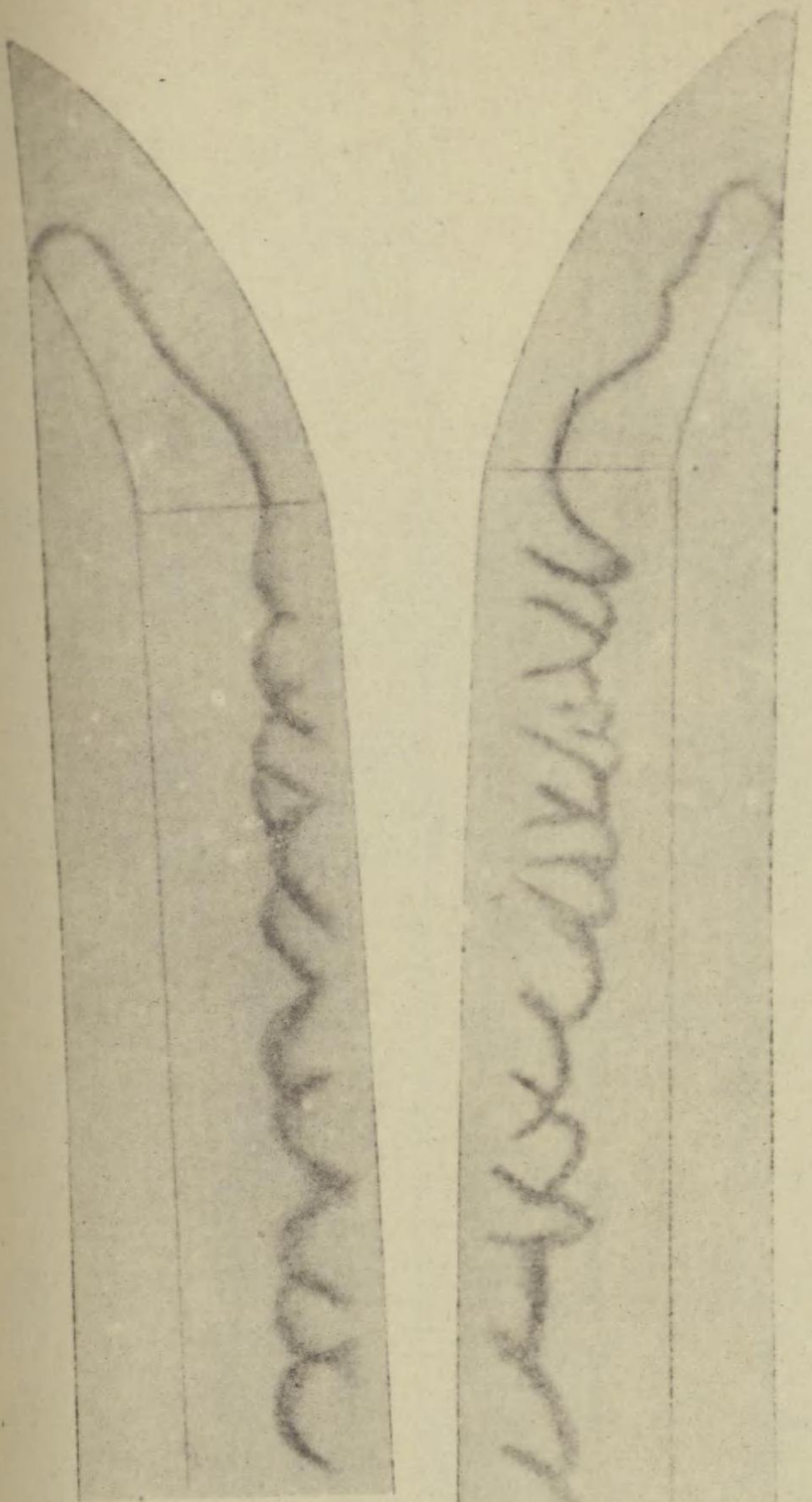
珍らし
双長九寸三分、平造筭反り、地肌板目細美、双文直双ほつれ氣味にて、双中能く沸えて匂深し左文字に切ること



文化十年二月日



權
守
朝
尊



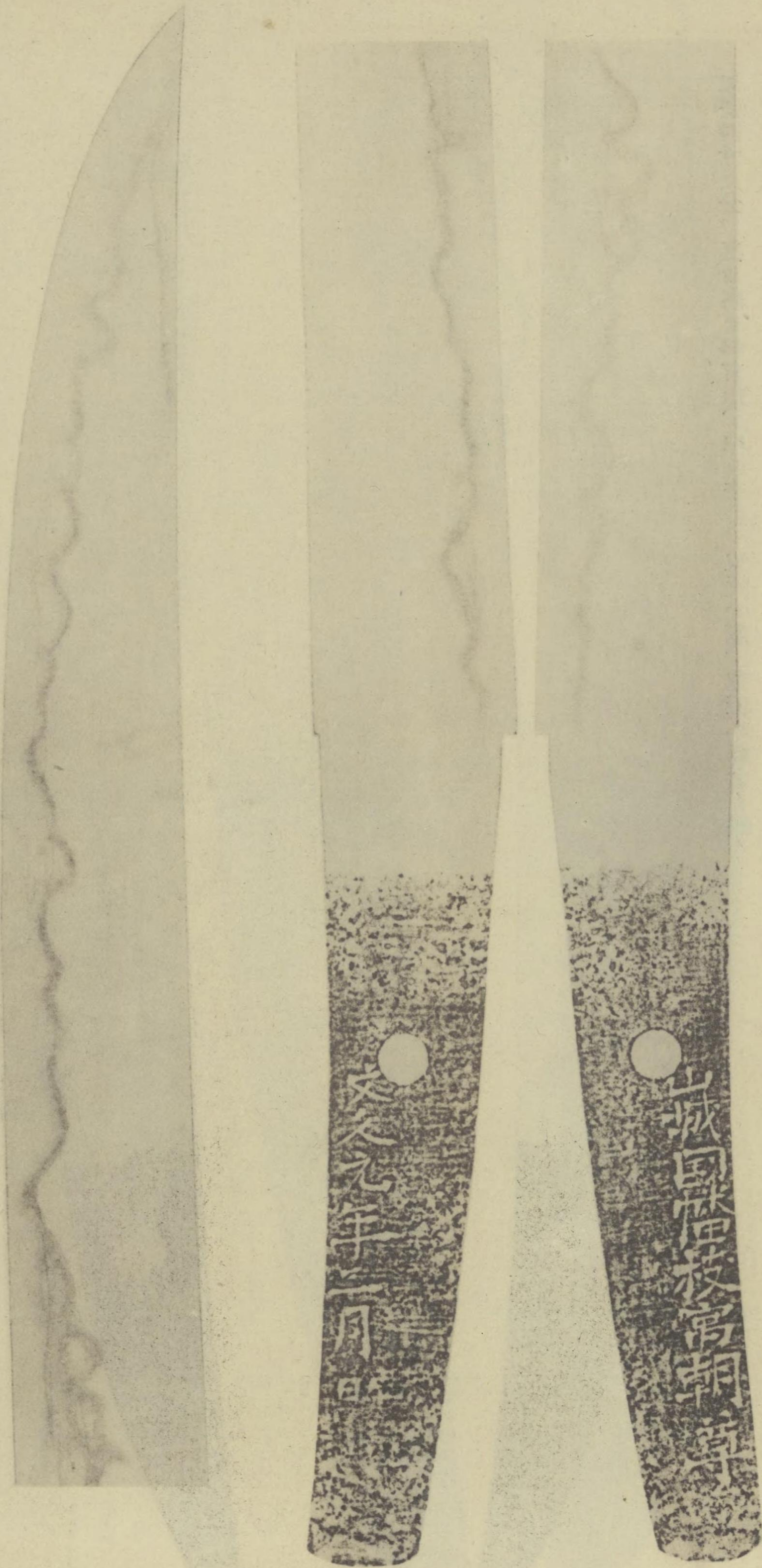
双長一尺七寸二分、地肌全目常の作より強く、
 双文丁子亂重花の足盛に入る一文字を摸せしものなるべし

權
守
朝
尊

天保十一年三月日

山城國幡枝寓朝尊

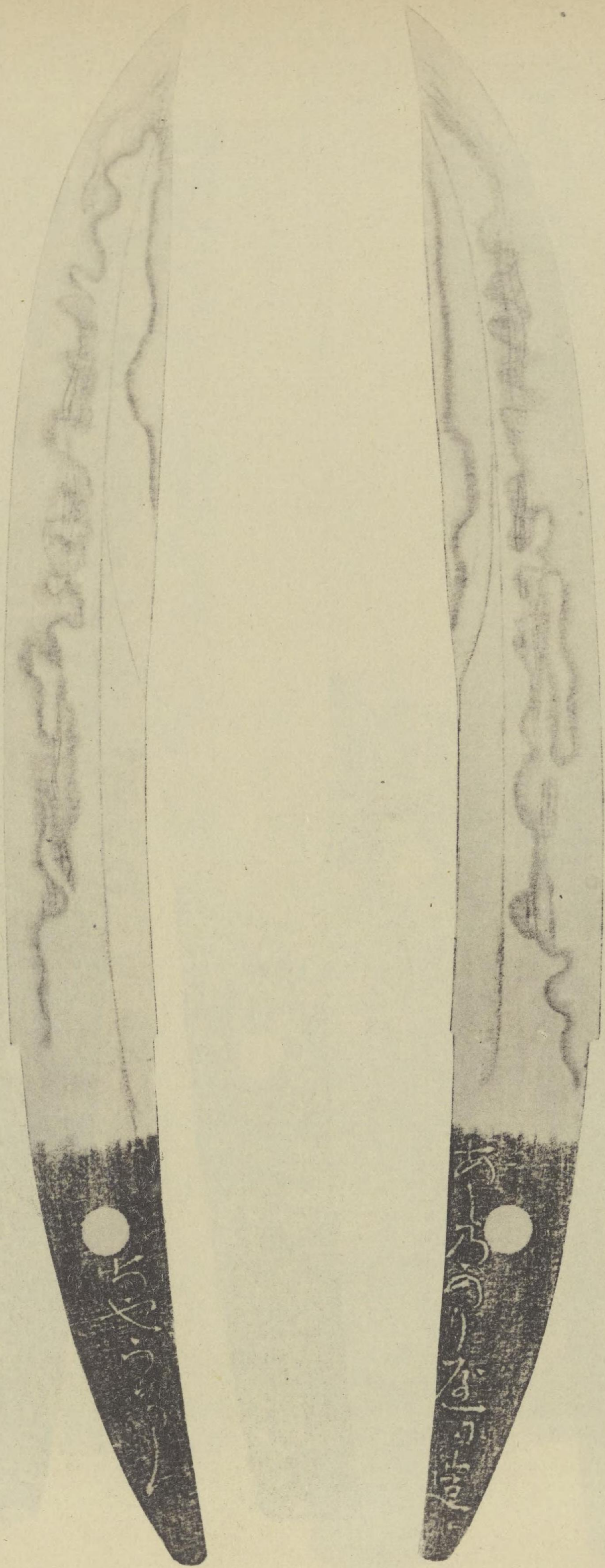
刃長八寸九分半、地肌板目に疋交る、双文灣れ亂、小鉾匂深し



のなるべし

あまのかり屋に造ちやうそん

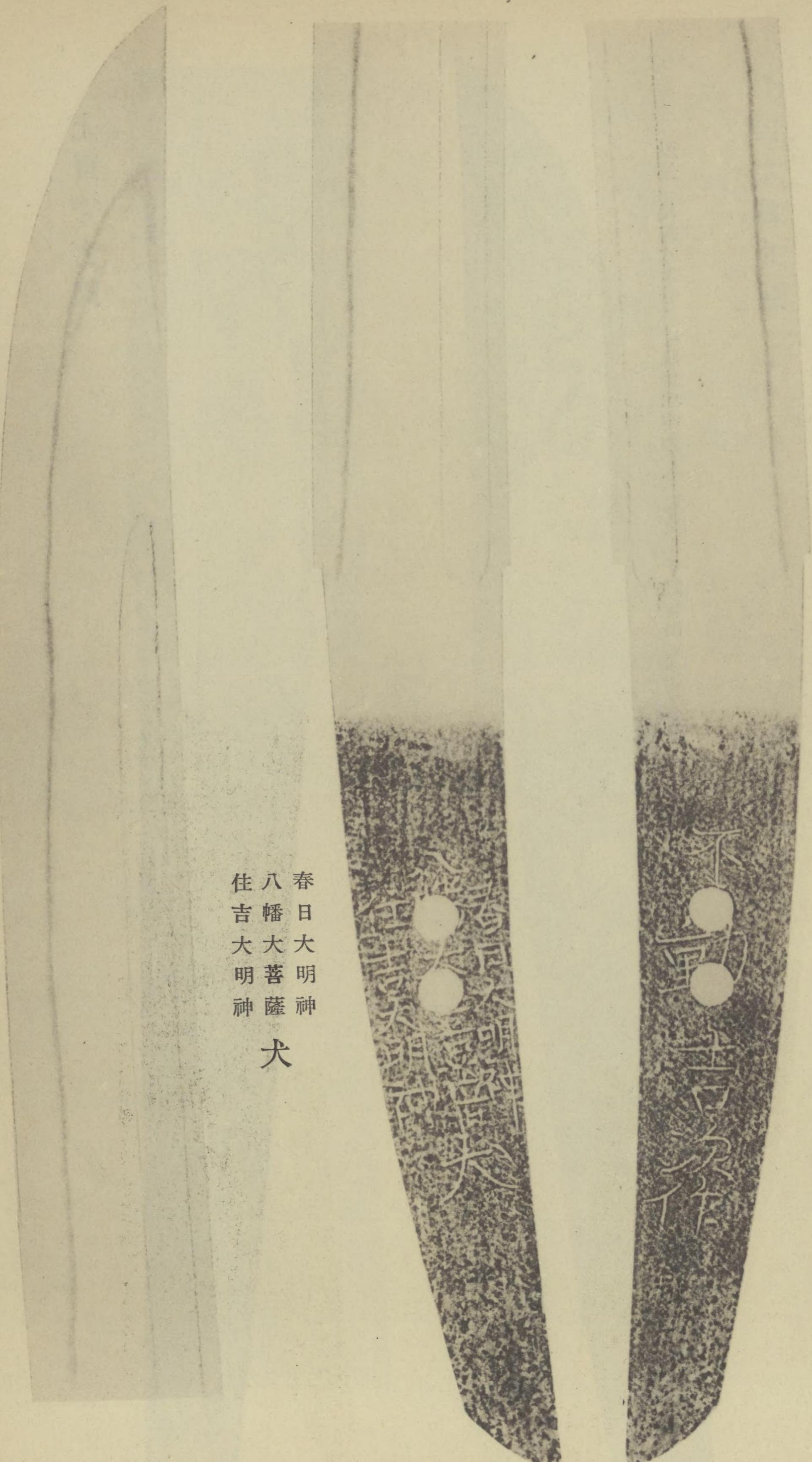
双長四寸九分、反り高き鶴首造、地肌杳目、双文大亂、荒鑑小鉾よく働く



不動吉次作

双長一尺三寸三分地肌小空無地の如く双文中直双小鈍つきて匂深し、銚子小丸沸崩れ心あつて返へる。

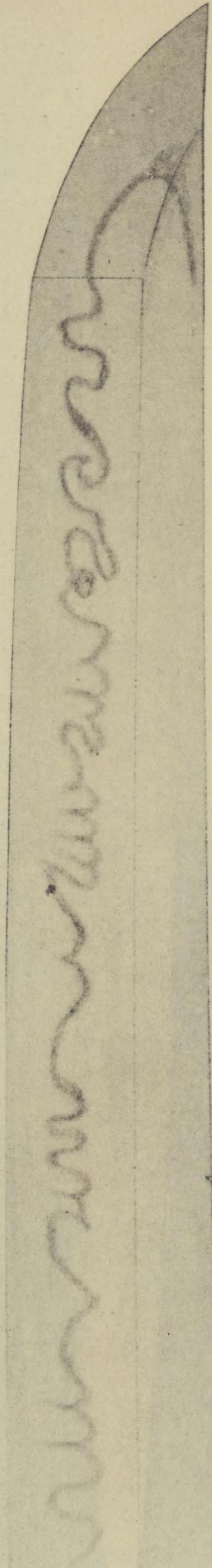
春日大明神
八幡大菩薩
住吉大明神
犬



上野守吉國

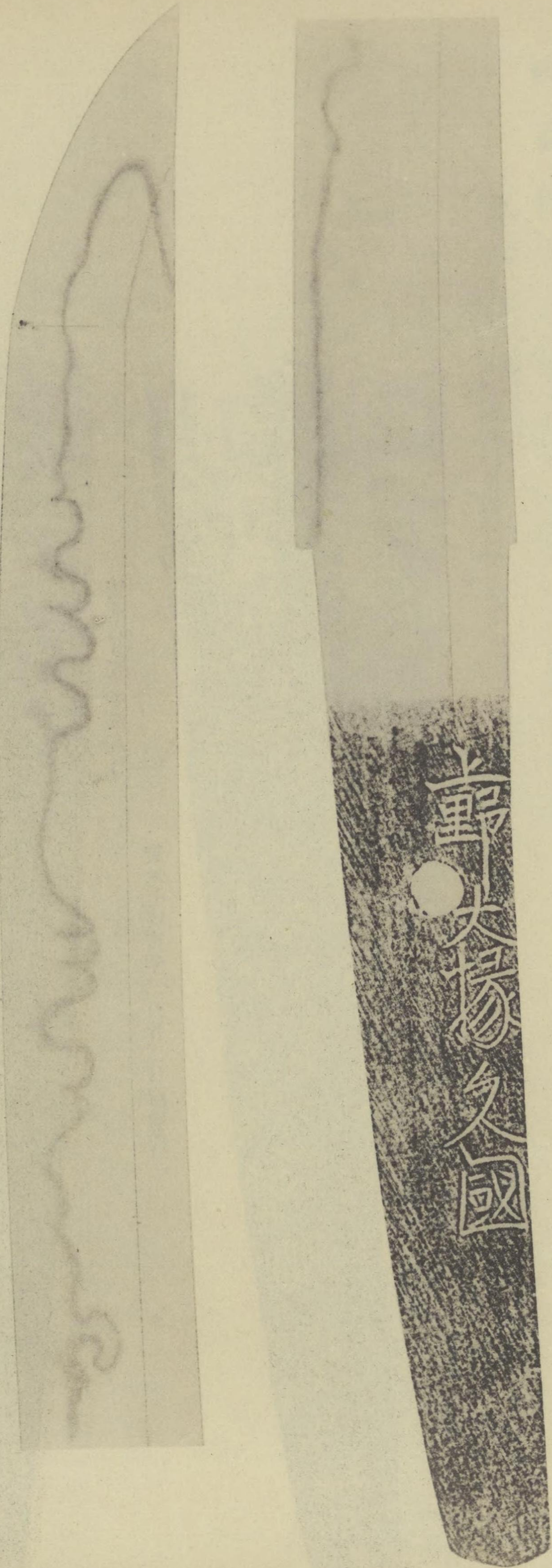


双長一尺四寸九分、地肌無地の如く、双文丁子亂匂出來。



上野大掾久國

双長一尺六寸一分、地肌杢目柁交りて鈍つく刃文五の目亂丁子双交る



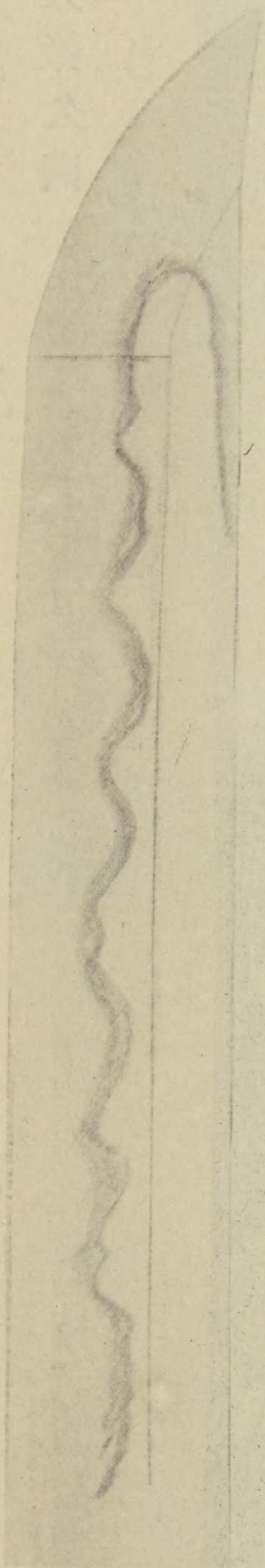
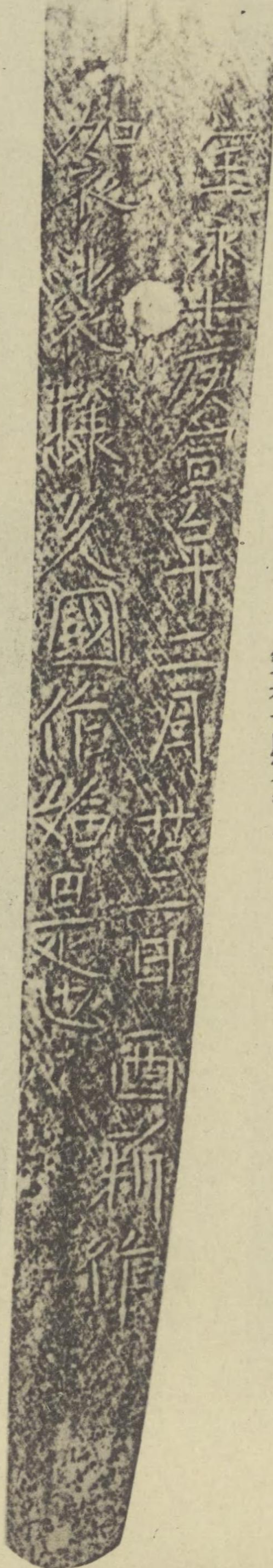
上野守久國善改鍛之故明德有



寶永六己丑年八月日

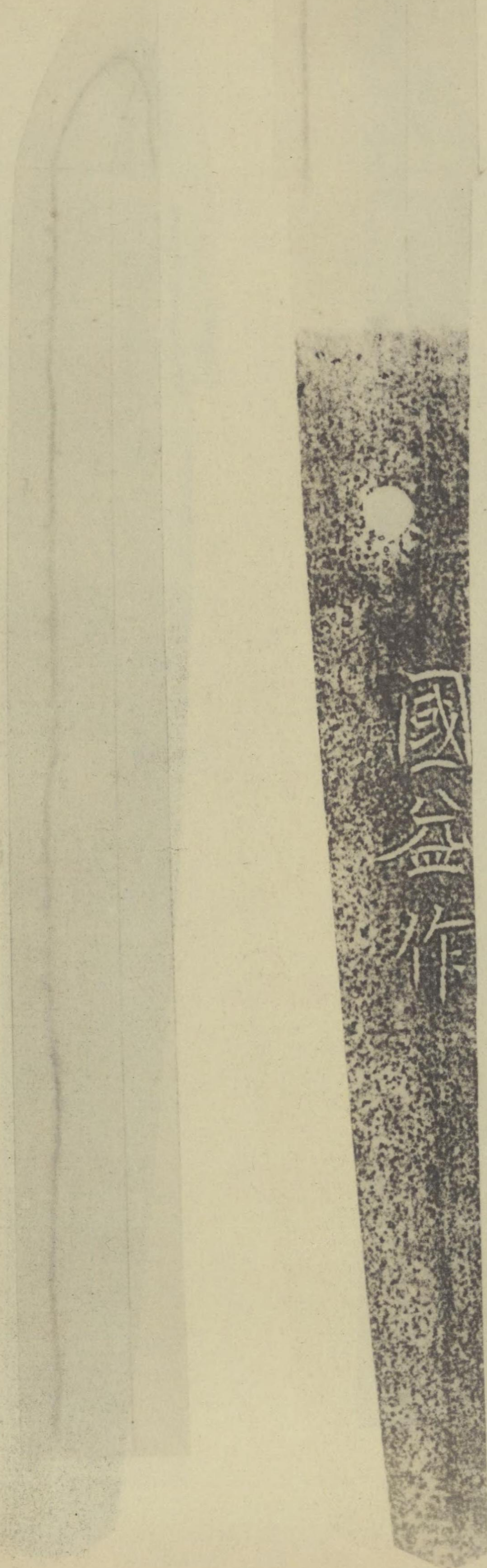
寶永七庚寅年二月廿二日酉新作

袈裟様久國作始是也



刃長二尺三寸一分、地肌小柰目良く鍊れて美しく双文鑑つきの逆亂双上出来。

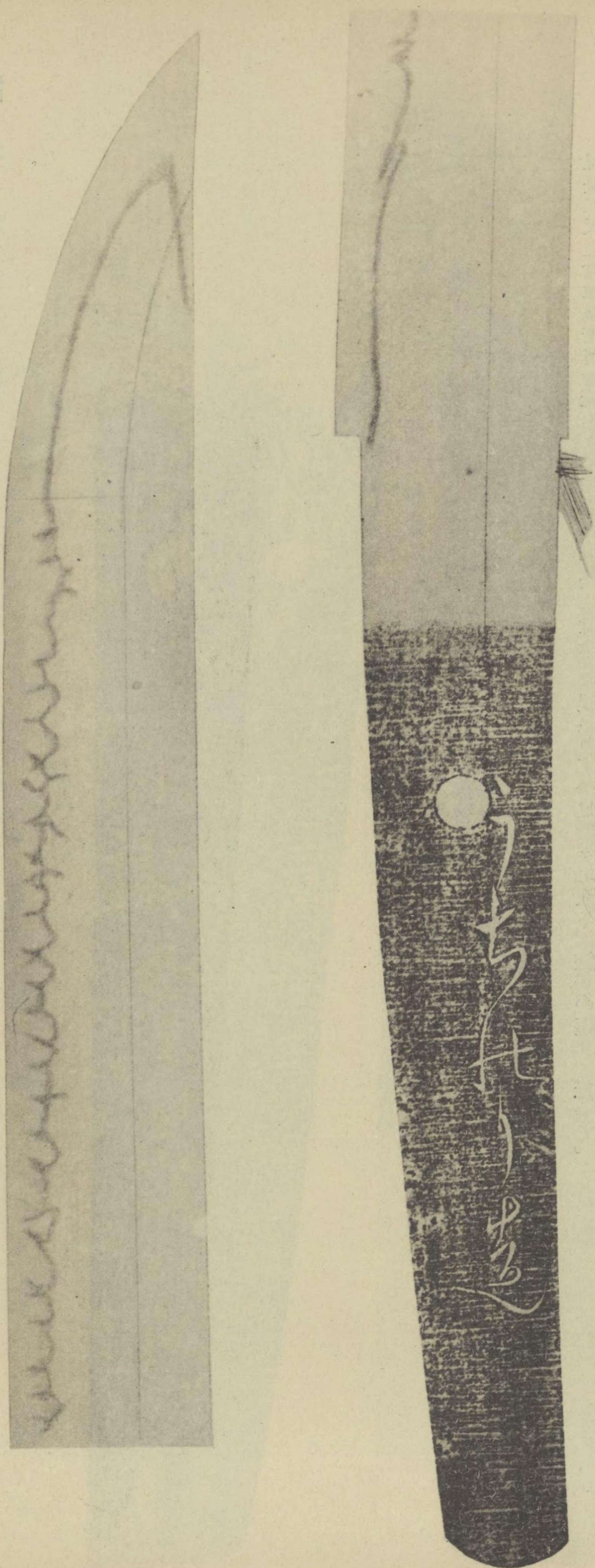
刃長二尺二寸地肌杳目地鑑ありて稍弱き氣味、
双文直双鼠足及丁子足所々に入る、
銚子の返りに鑑つく。



國益作

刃長二尺三寸一分、地肌小杳目良く鍊れて美しく双文鑑つきの逆亂刃上出来。

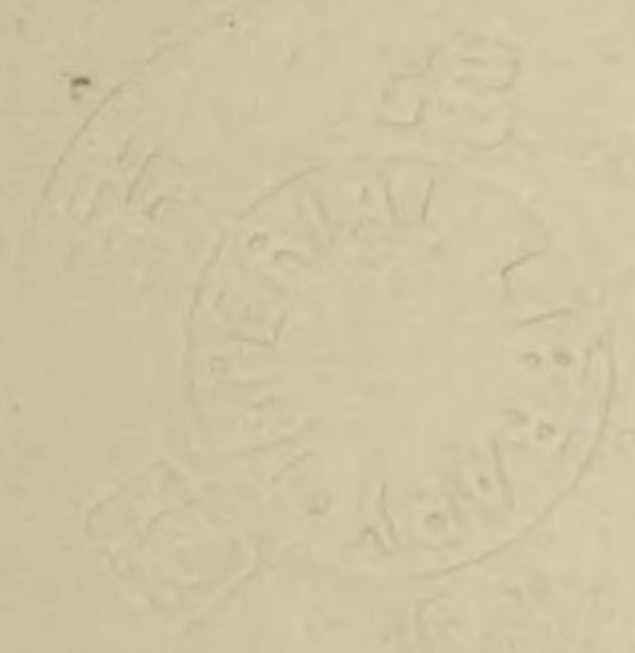
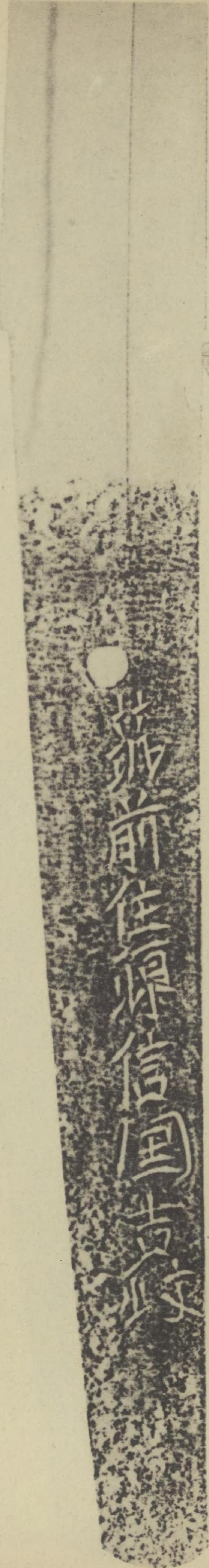
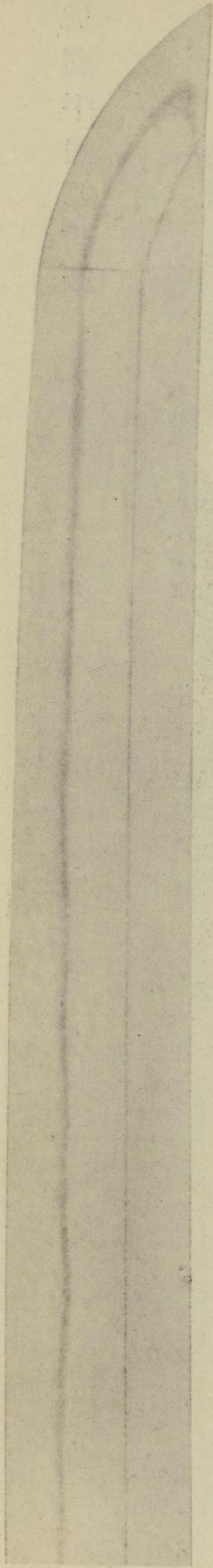
うちのり造 (中島氏証)



刃長一尺八寸六分無反強し、地肌柃目に空交る、双文小丁子、焼頭尖つて足入る、銚子稍尖つて返る

筑前住源信國吉政

刃長二尺二寸地肌備前風の杓目美しく、刃文尋常なる中直刃、匂縮らず沈み心也

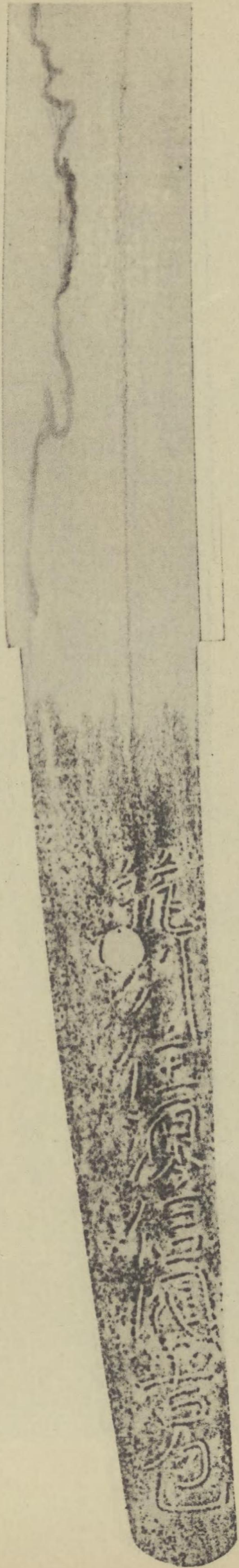
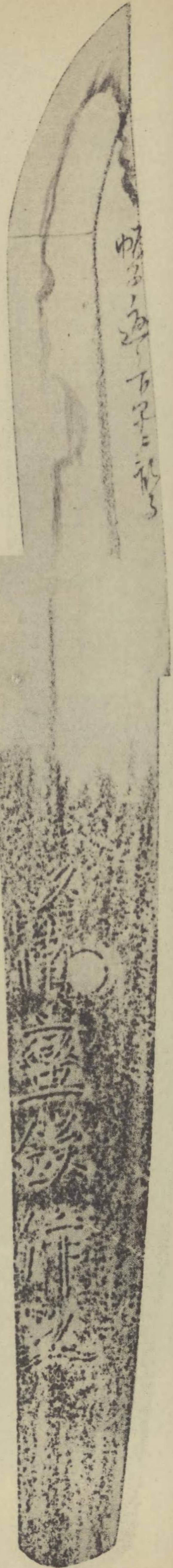


源信國平四郎吉政

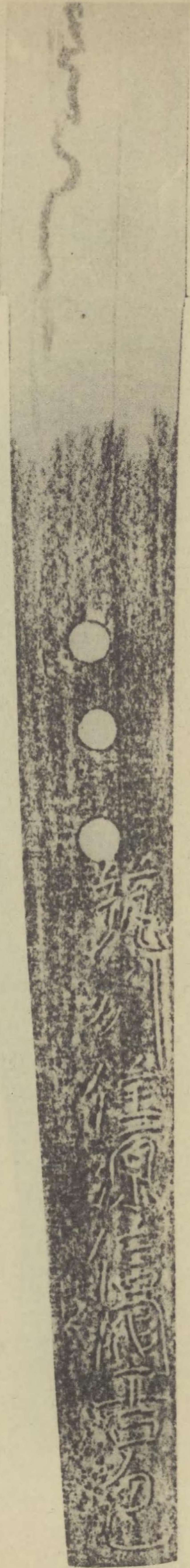


刃長二尺三寸二分、姿華表反り稍淺し、地肌小杓目能く詰みて淳美、元少し大杓目となる、磨地は柃目、双文直刃尋常なる小鈍出來、匂深くして所々足入る、銚子小丸少しく火焰の氣味あり

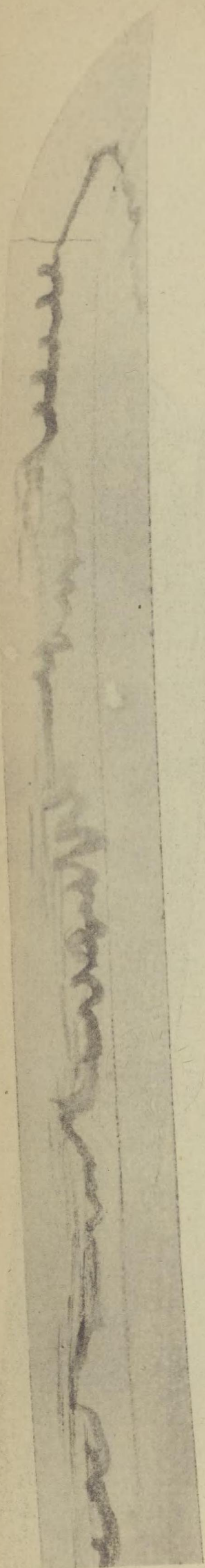
筑州住源信國吉包以南蠻鐵作之



双長一尺八寸一分、地肌柱目双文濤瀾亂双ぶち一体に掃目つく



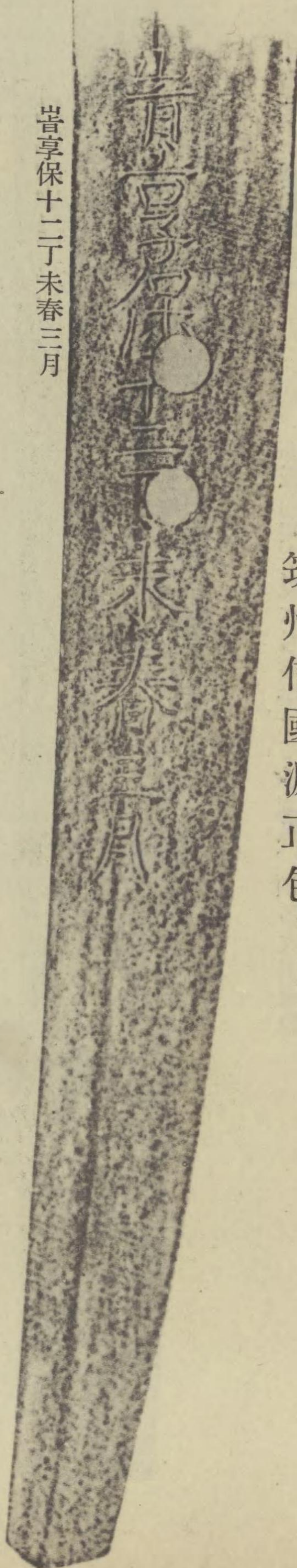
双長二尺三寸地肌柱目、双文大灣れ五の目亂、小鉞勻深く双ぶち掃掛けて砂流風、頗る大出来也





筑州信國源正包

筑州信國源正包



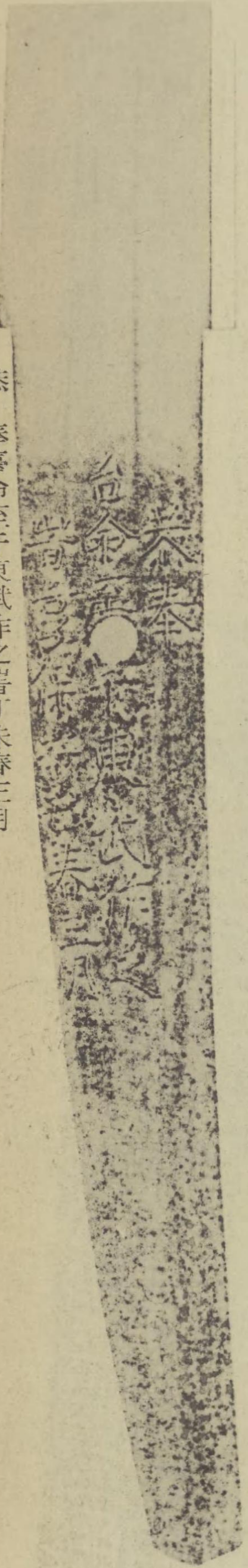
崇享保十二丁未春三月

源臣是佐長門守四代苗裔是松新左衛門尉所持焉

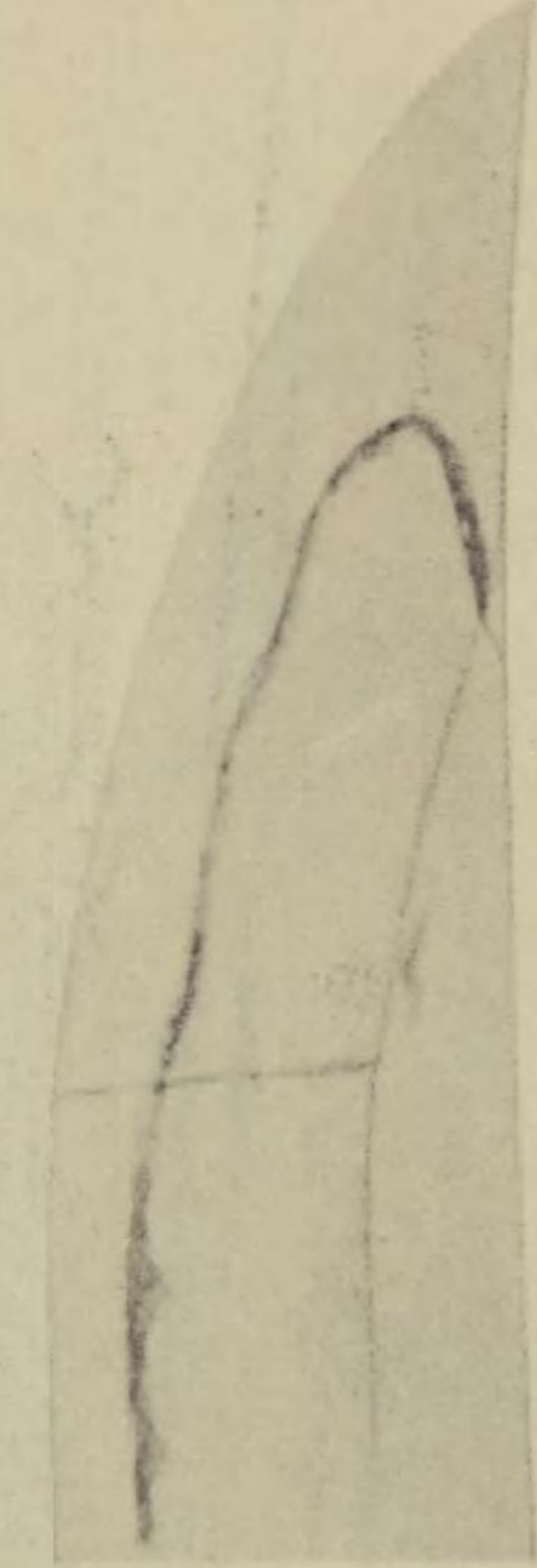
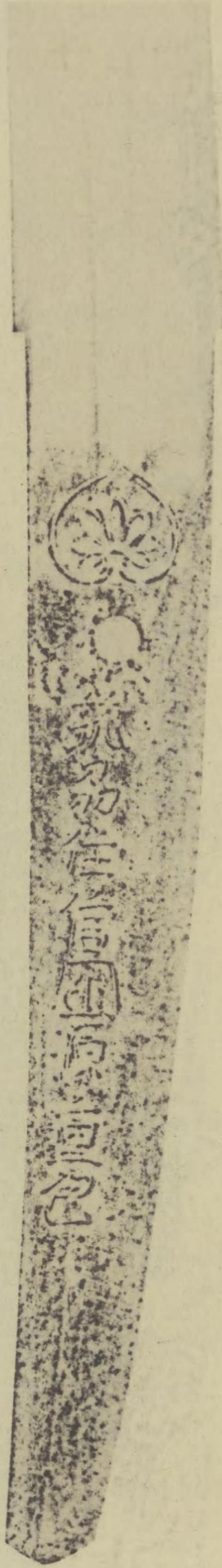


筑前住源信國吉包 双文灣丸亂

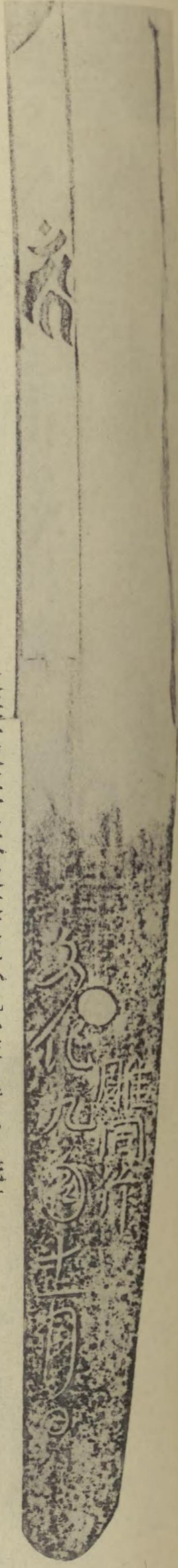
恭奉臺命至于東武作之豈丁未春三月



筑州住信國源重包



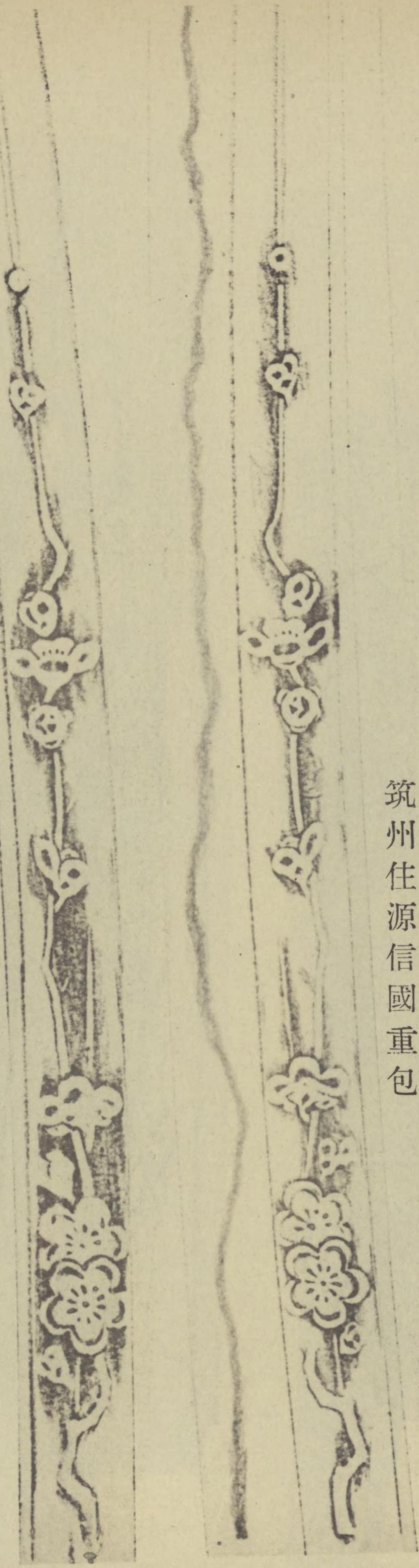
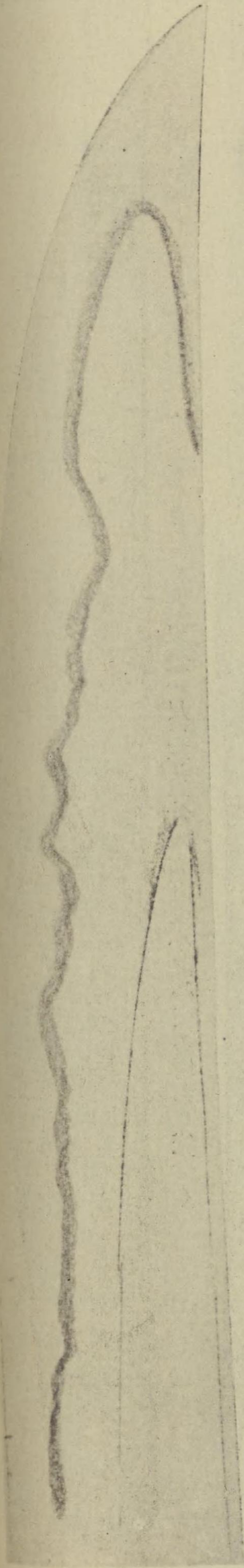
双長一尺二寸二分双文直双小亂心交る所あり鉞付く



筑前住源信國吉包 双文灣九亂

文化九年十一月日...

双長一尺五寸七分、地肌小奈双文小灣双



筑州住源信國重包

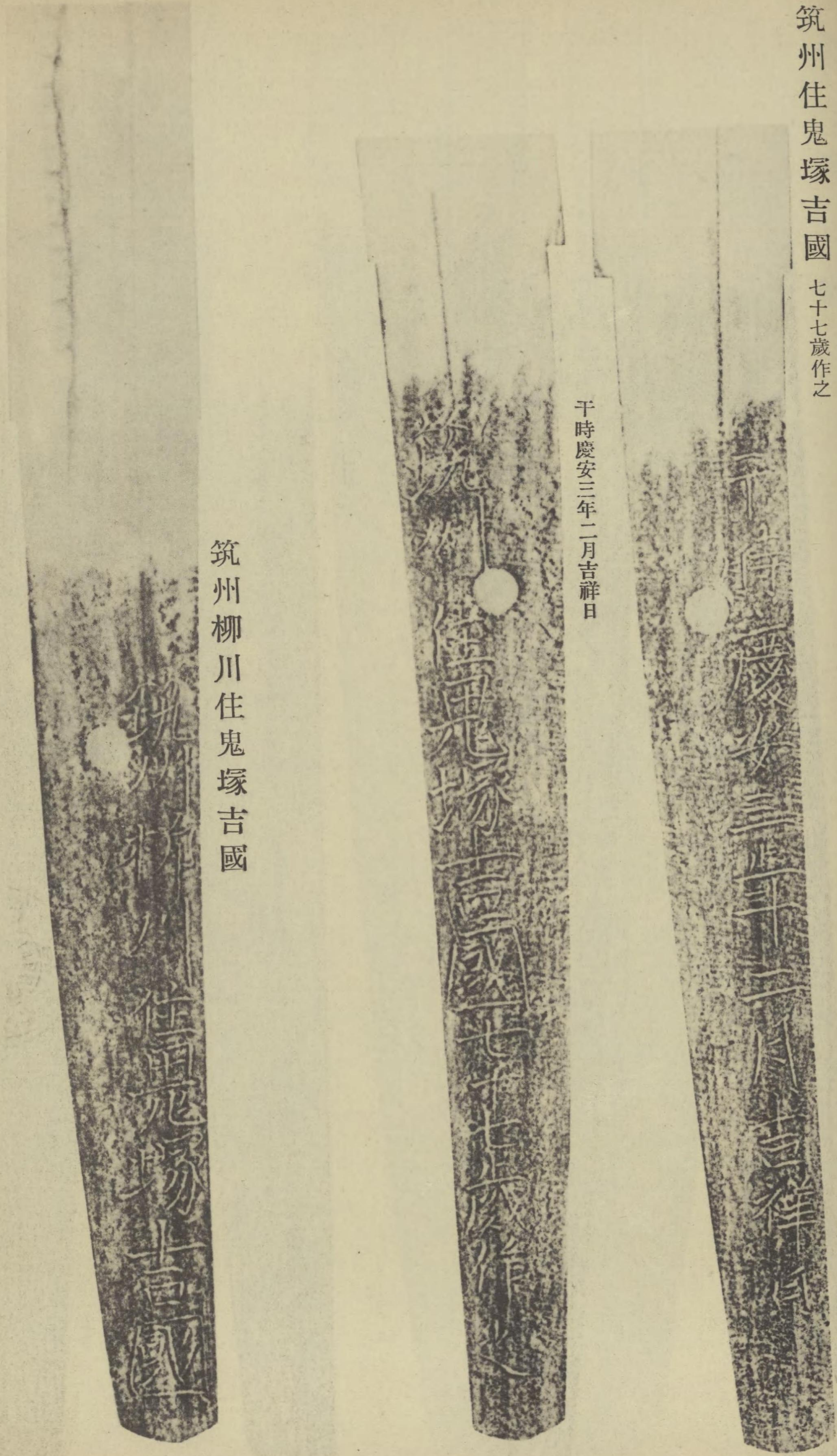


筑州住鬼塚吉國 七十七歲作之

平時慶安三年二月吉祥日

双長一尺五寸七分、地肌小空双文小灣双

筑州柳川住鬼塚吉國



筑後久留米住青木清兵衛清秀

天保二年三月日

天保二年二月日

豊前中津住長利作之

豊前中津住長利作之

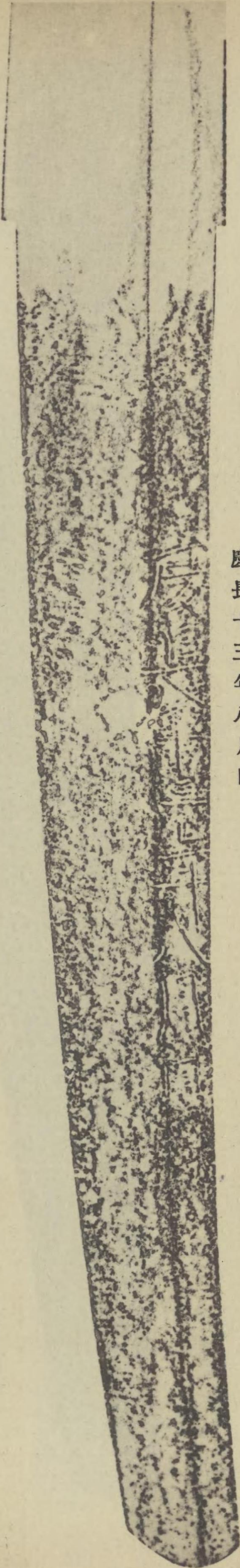
元禄三年十二月吉日

元禄三年十二月吉日

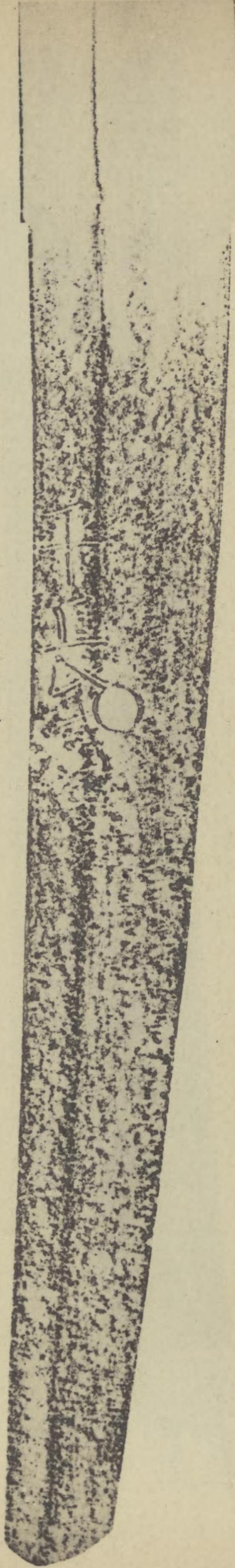
平
長
盛



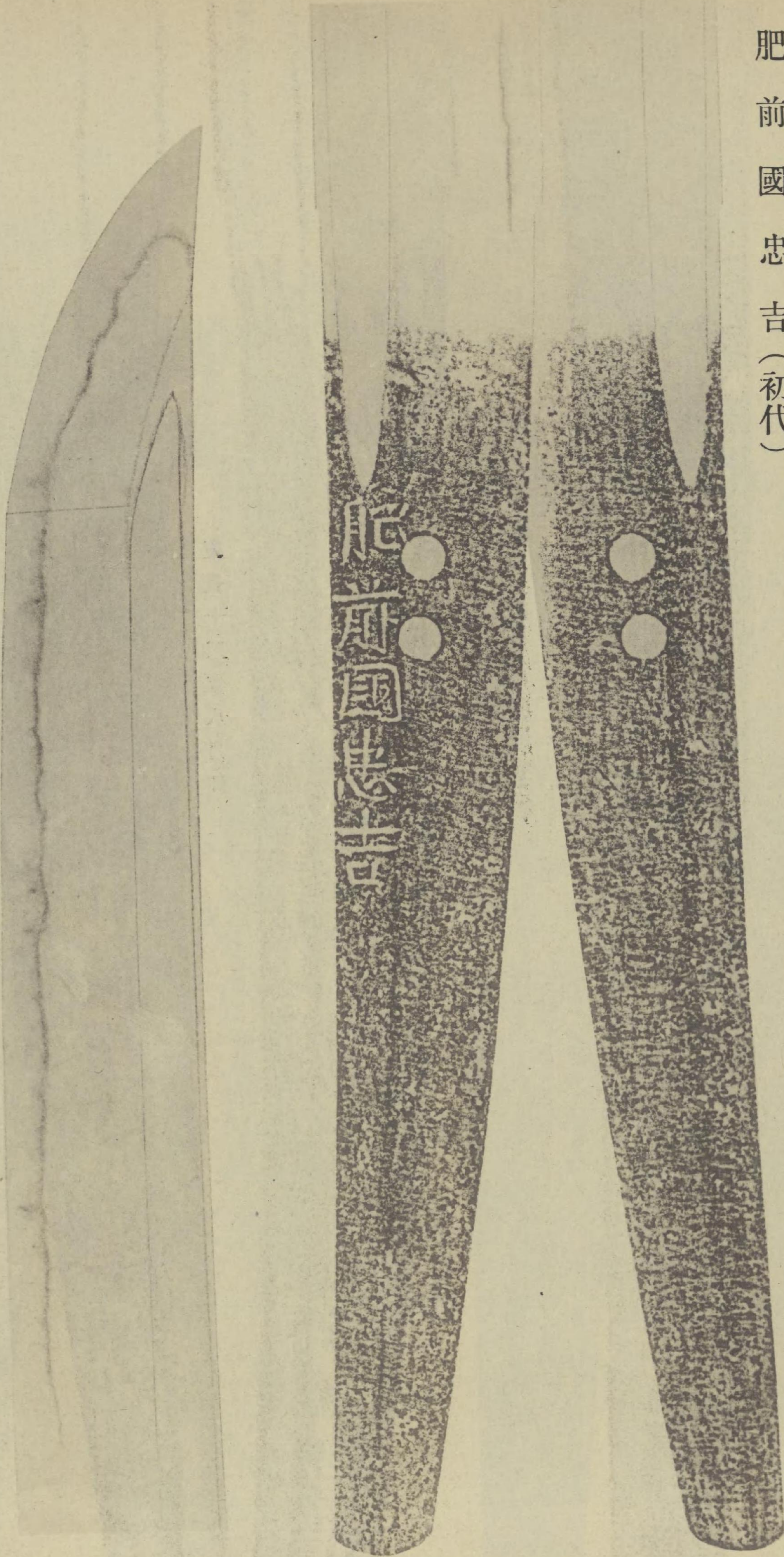
豊州高田住藤原實行



慶長十三年八月日

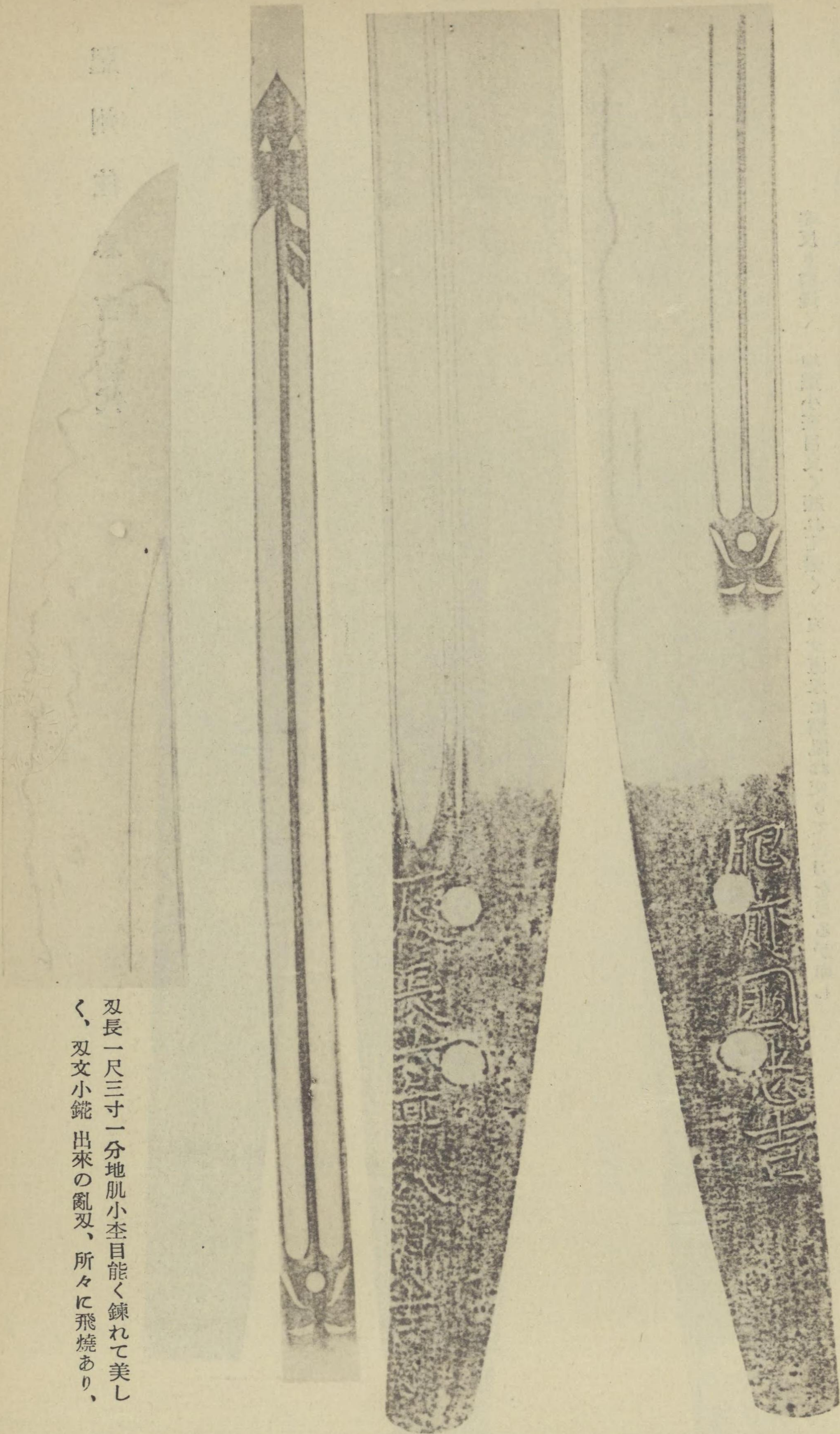


肥前國忠吉(初代)



刃長二尺三寸八分 身巾廣く重ね普通 剛壯なる姿也、
 双文小鋸付の直双亂交る兩面棒樋 地鐵小杓目に稍肌立ちし處あり

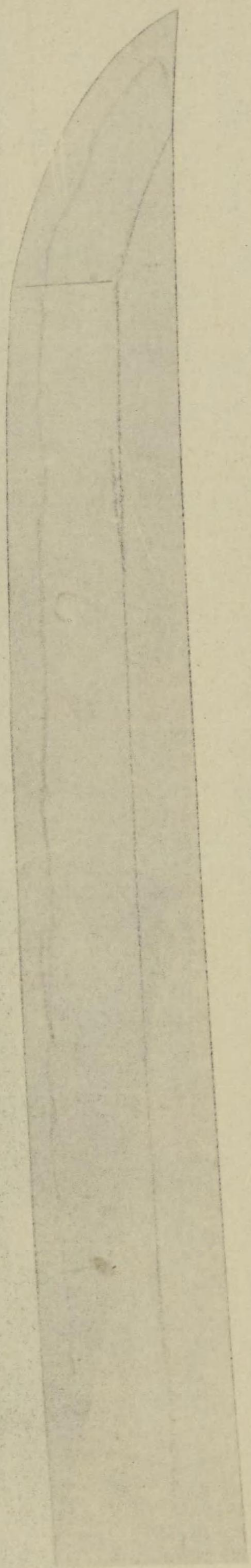
肥前國忠吉(初代) 慶長六年八月日



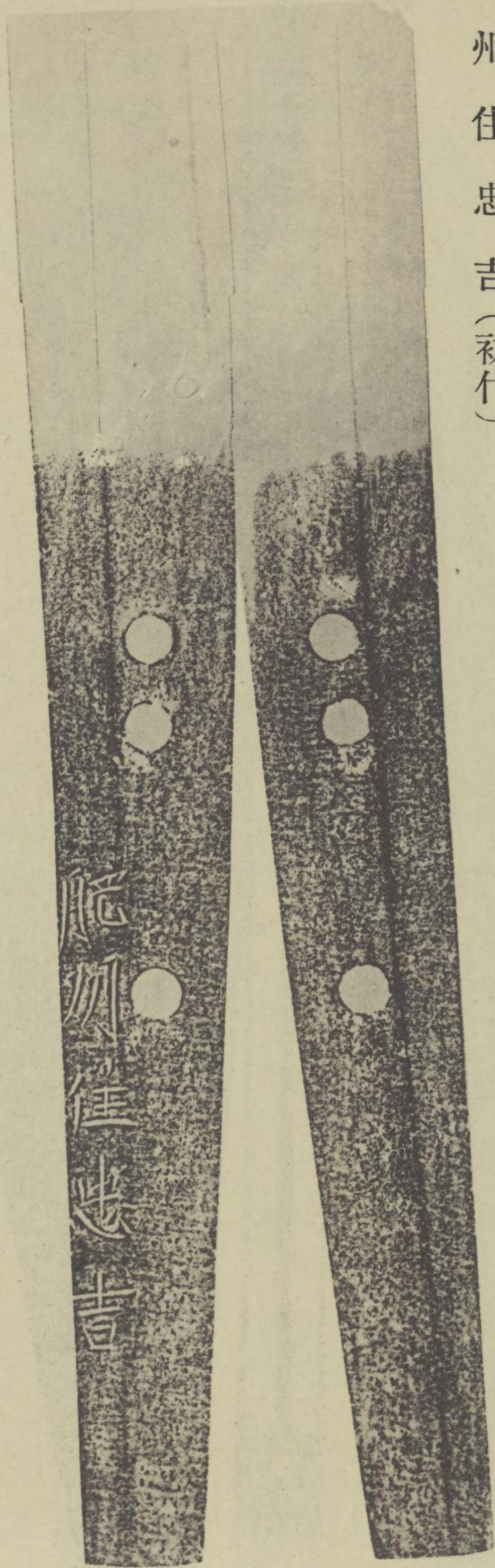
双長一尺三寸一分地肌小奎目能く鍊れて美しく、
 双文小鋸 出來の亂刃、所々に飛燒あり、

双長二尺三寸八分 身巾廣く重ね普通 剛壯なる姿也
 地鏡小奎目に利刃立し處あり
 双文小鋸付の直双亂交る兩面棒樋

肥州住忠吉(初代)



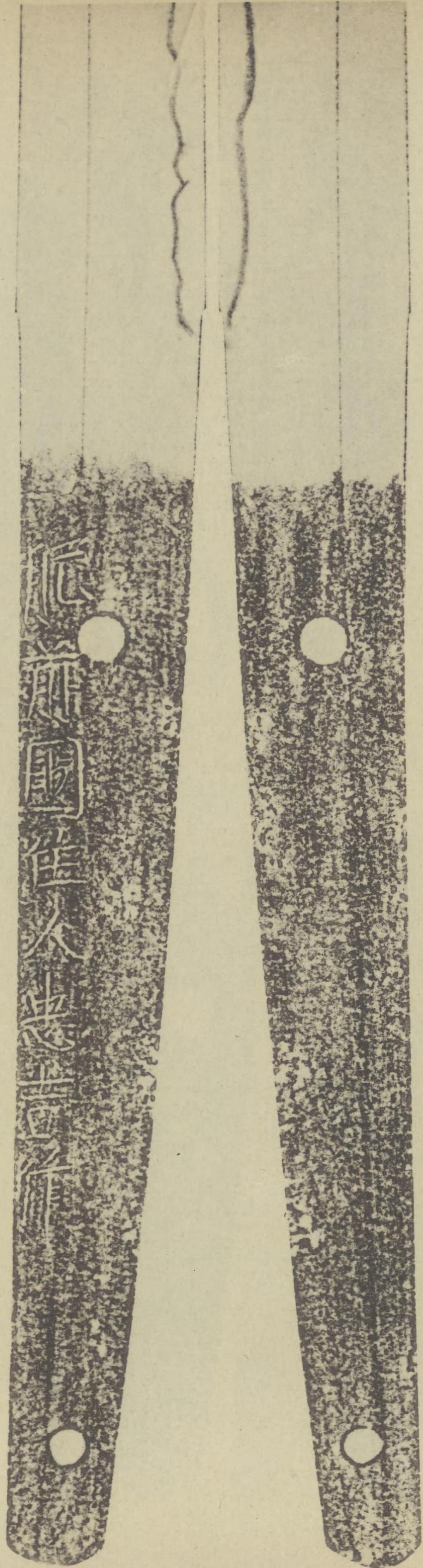
姿反り稍淺く 地鐵小柰目良く練れて強く 刃文直刃に稍亂れ交りて古刀を見るが如し



肥州住忠吉

肥前國住人忠吉作(初代)

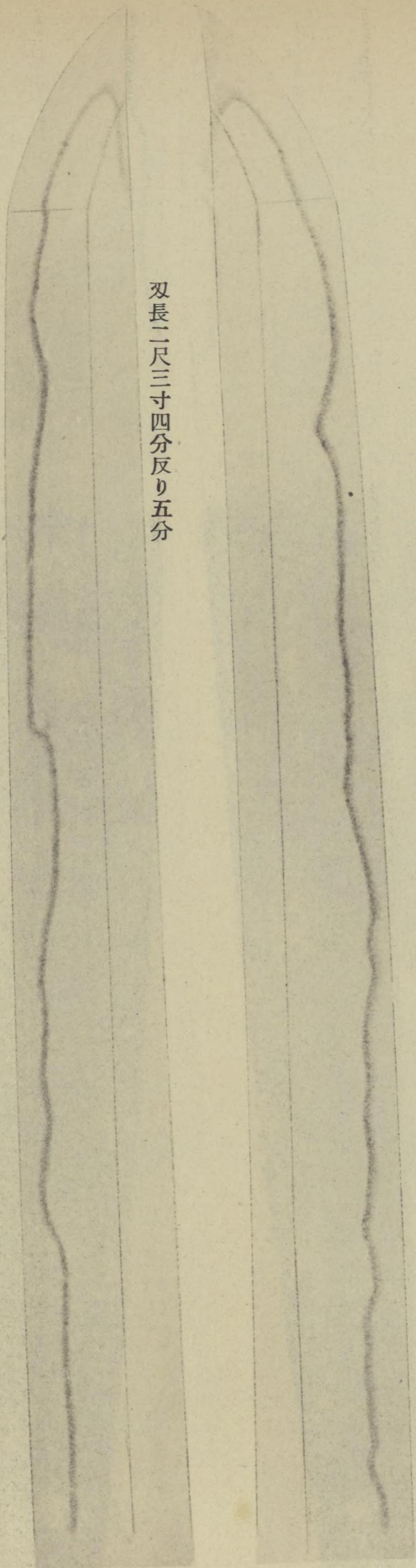
刃長二尺三寸、地肌小柰目、双文直双五の目亂志津の如し



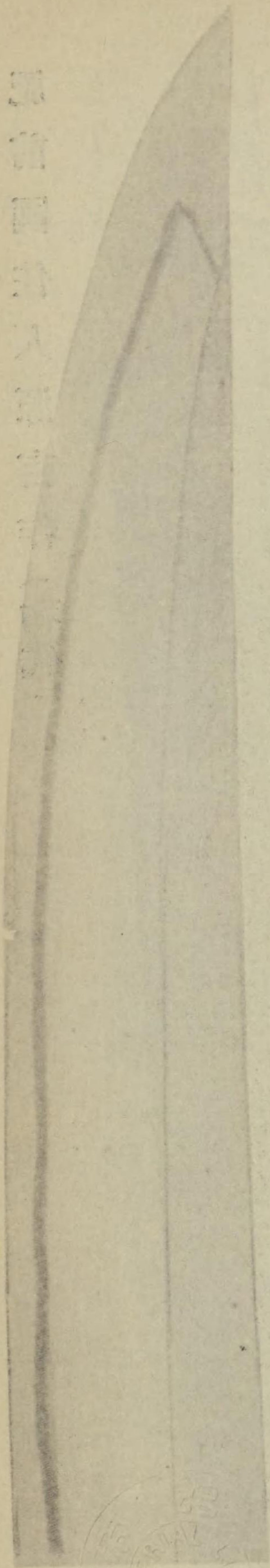
肥前國住人忠吉作(初代)

肥前國住人忠吉作

双長二尺三寸四分反り五分



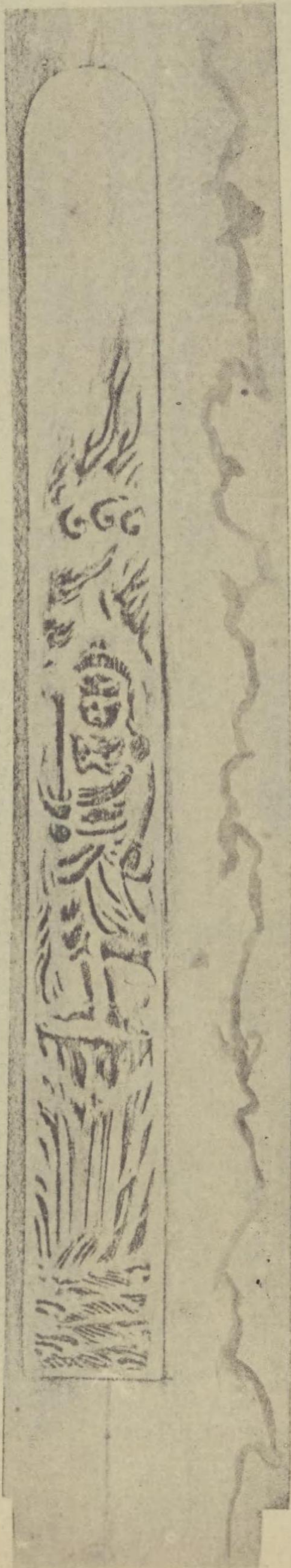
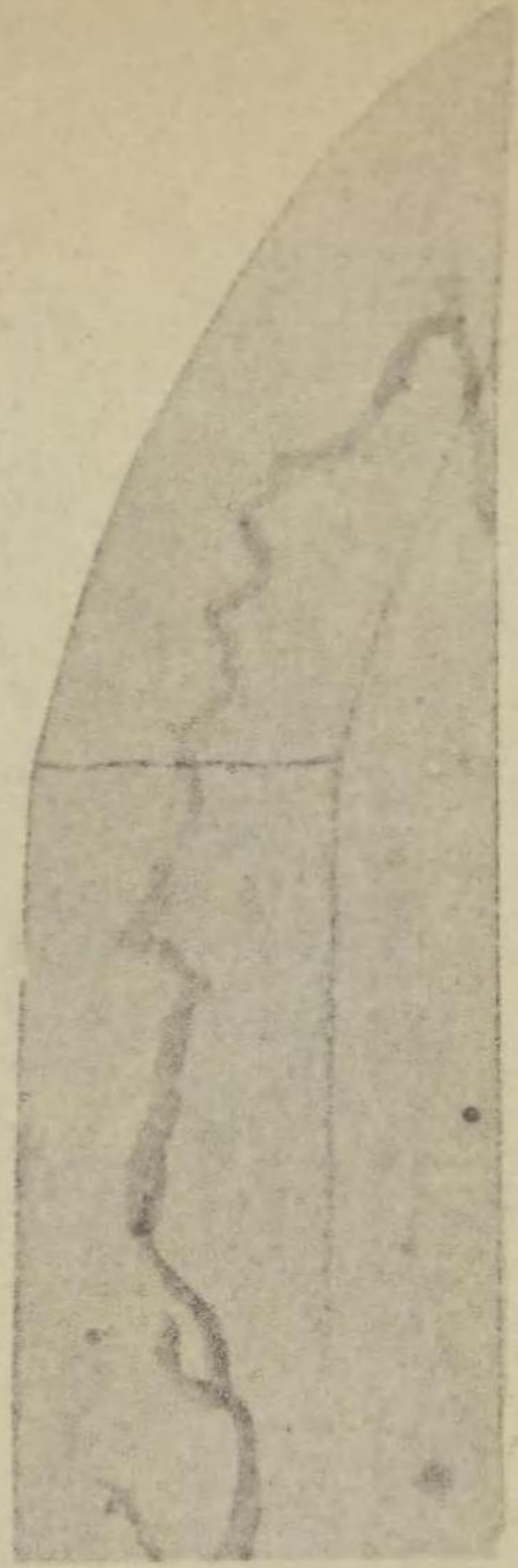
肥前國住人忠吉作(初代)



肥前國住人忠吉作(初代) 切物藤原宗長

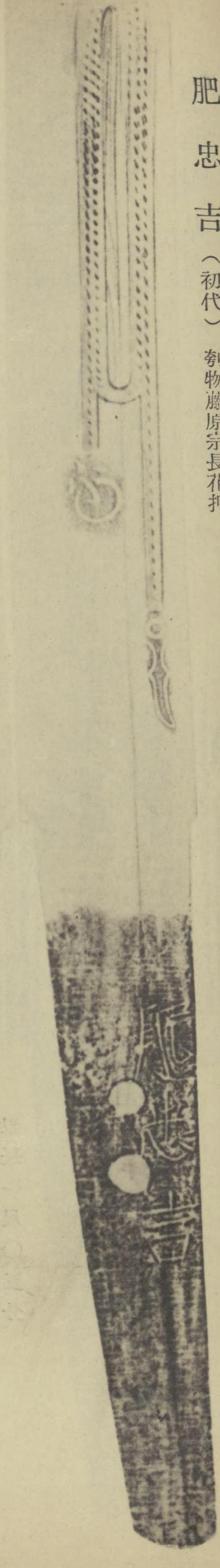
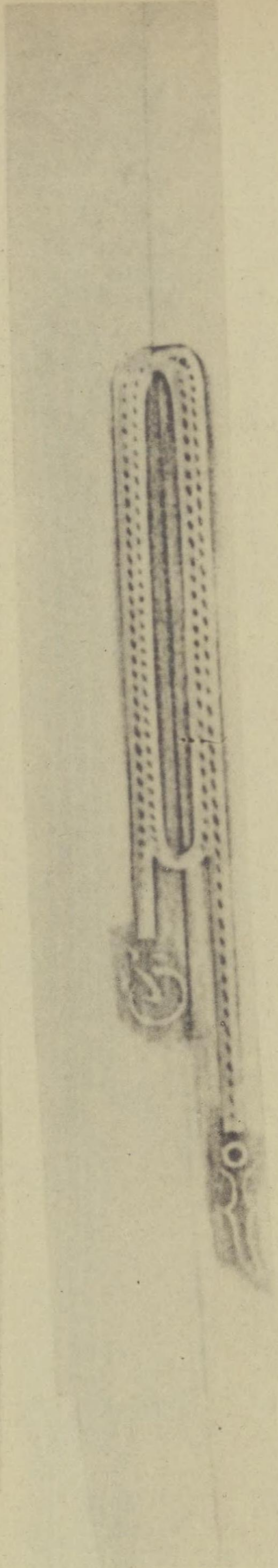
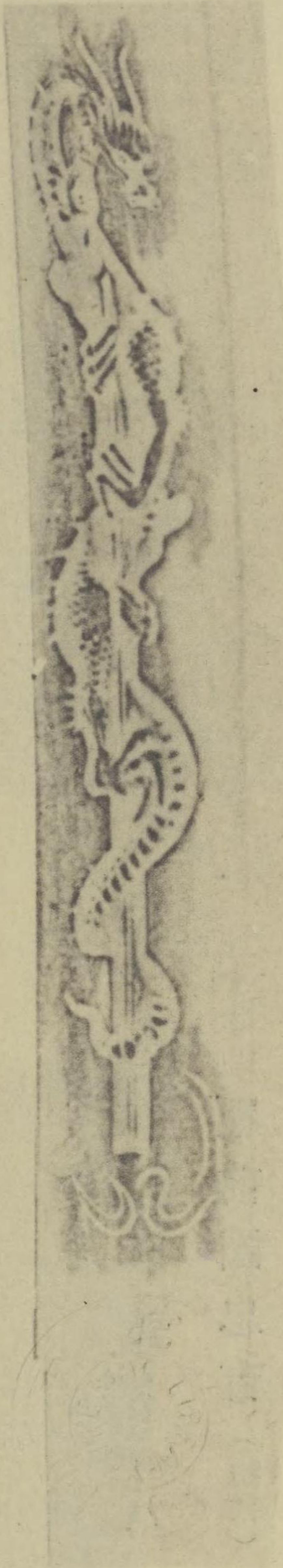
双長一尺一寸三分半地肌小
杓目、双文小鋸 出來の直双

肥前國住人源吉作(初代)



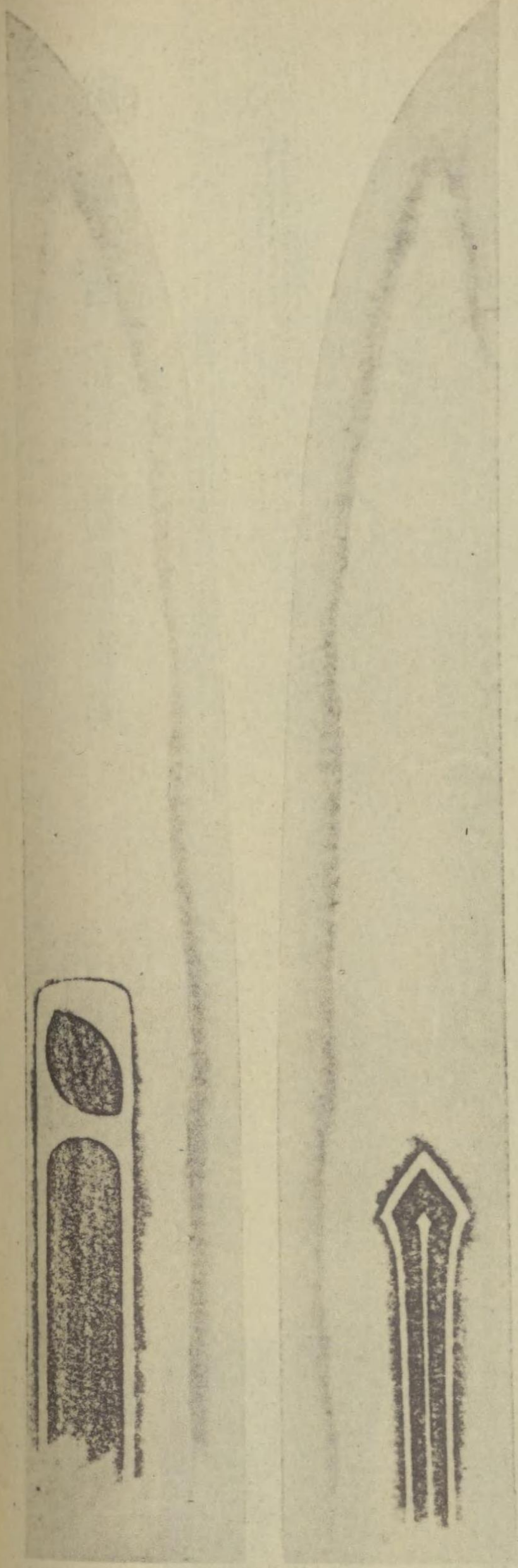
鎬造、双文大亂双、銚子亂れて双ぶち一面に銚つく、地肌無地の如く美し彫刻見事也

肥前國住人源吉作(初代)

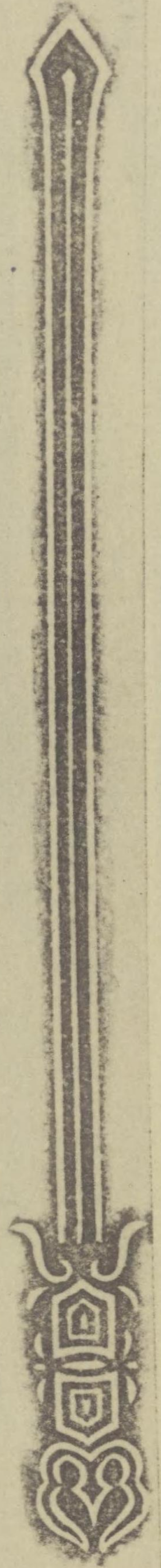
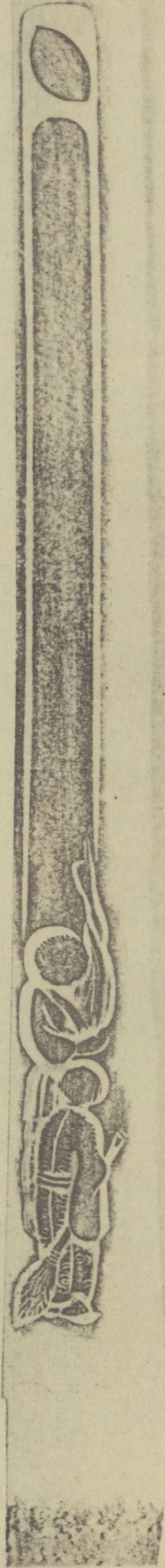


肥忠吉（初代）剗物藤原宗長花押

両面の彫刻鮮麗也



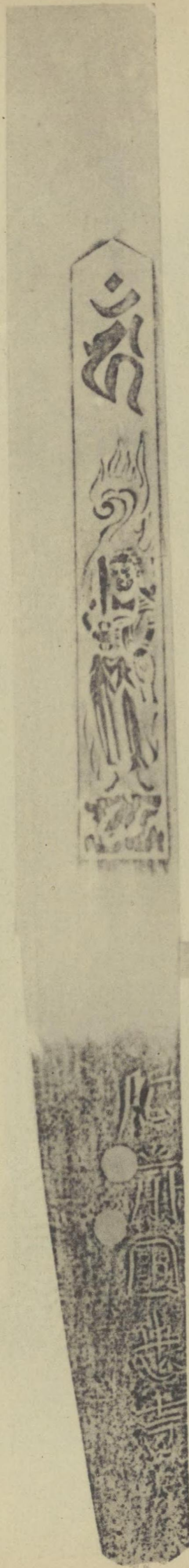
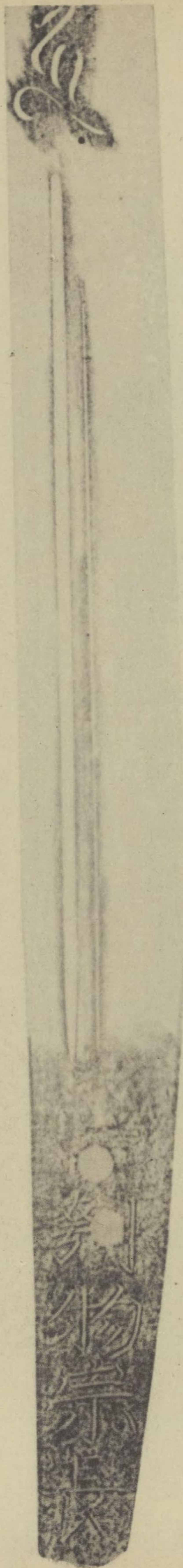
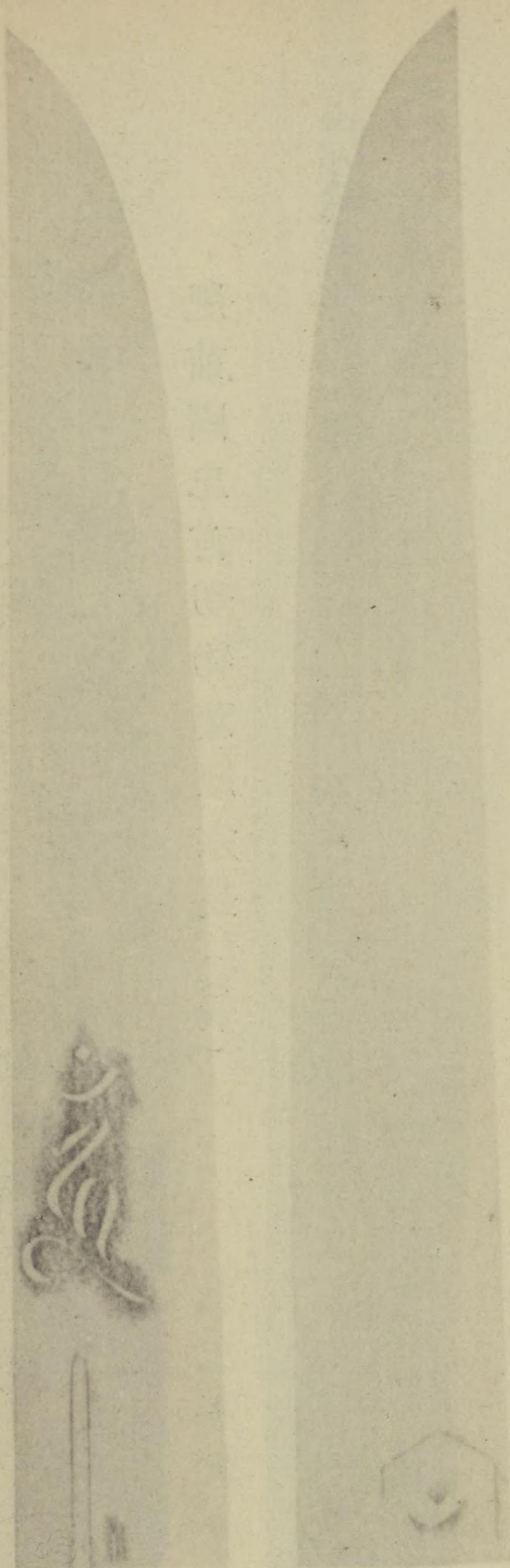
双長一尺〇五分



肥前國忠吉（初代）



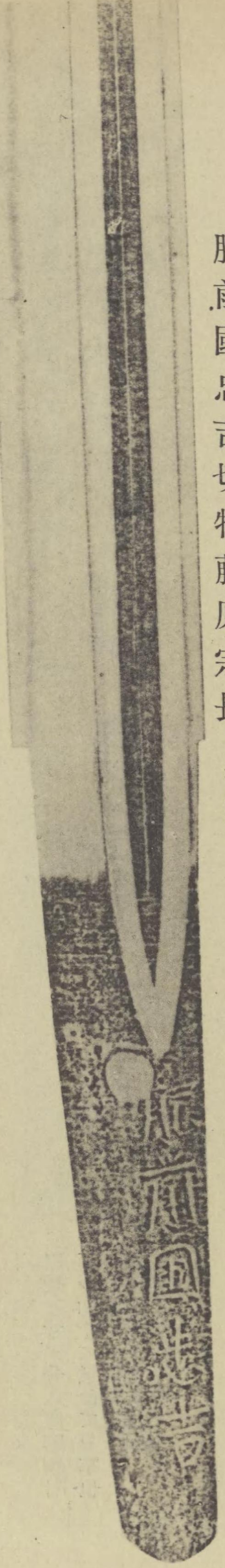
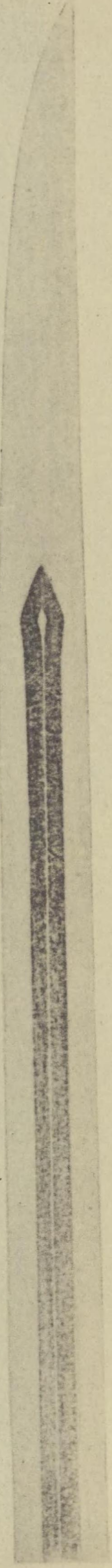
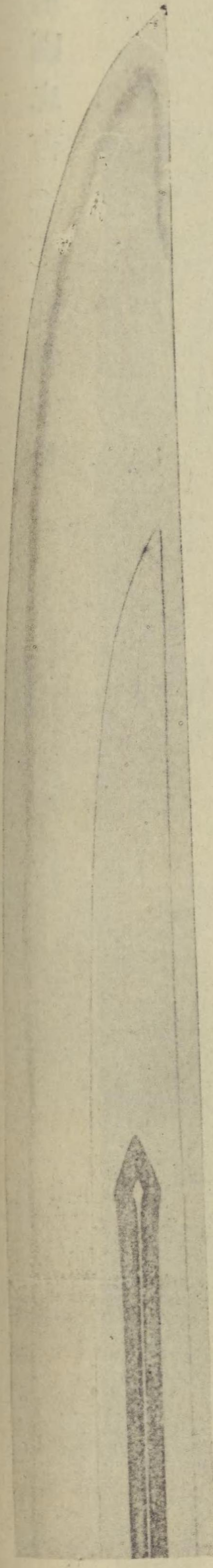
肥前國忠吉（初代）
剗物宗長



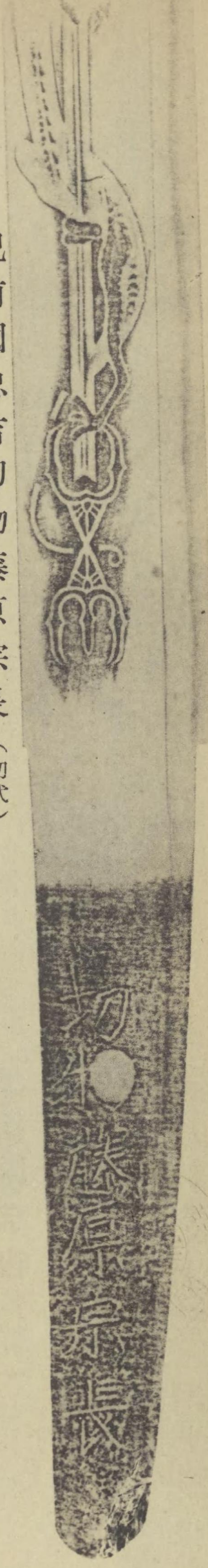
刃長九寸三分八厘彫物明
壽の如くに見れて見事也
樋も頗る手際よろし

肥前國忠吉（初代）剗物宗長

双長一尺〇七分地肌小空目、双文直双、銚子の返り少し長し。

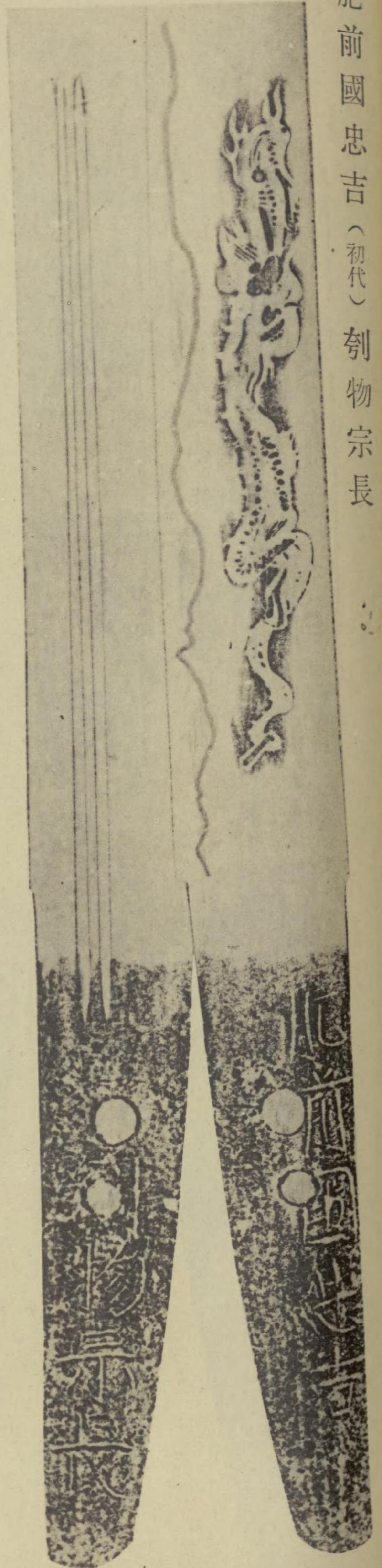


肥前國忠吉切物藤原宗長（初代）



双長一尺〇七分地肌小李目、双文直双・銚子の返り少し長し。

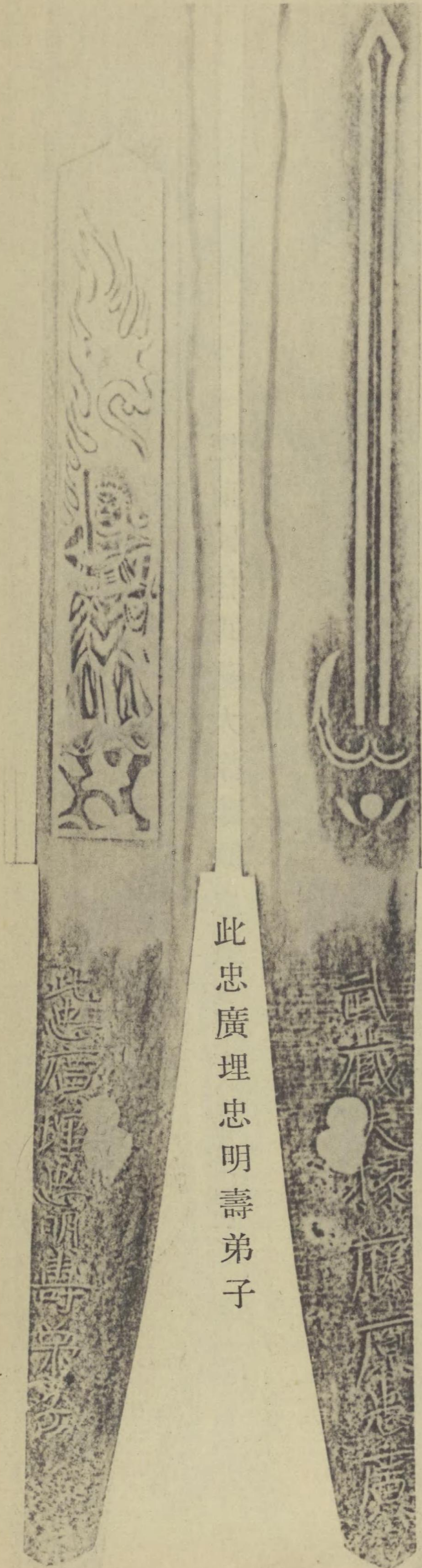
肥前國忠吉（初代）劔物宗長

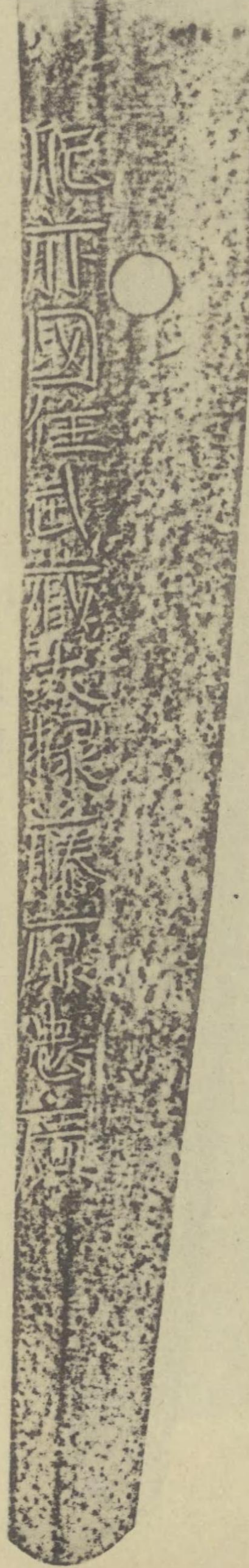
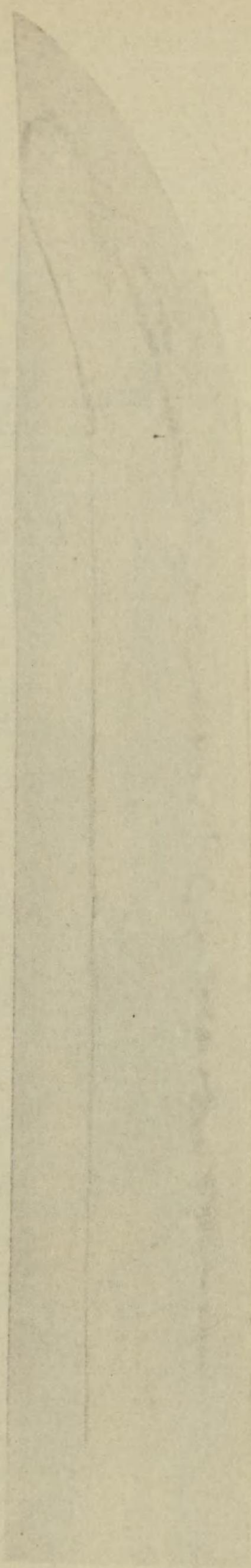


武藏大掾藤原忠廣（初代）



此忠廣理忠明壽弟子



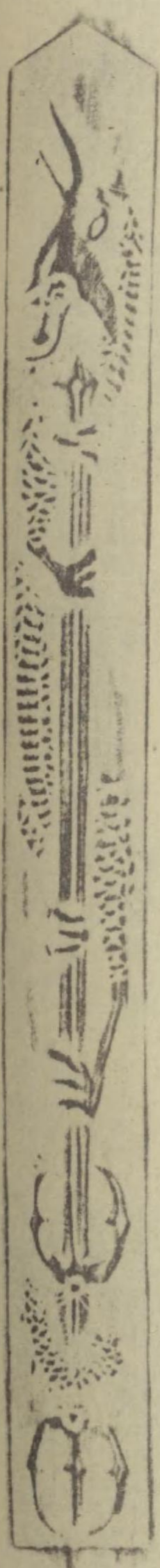


肥前國住武藏大掾藤原忠廣

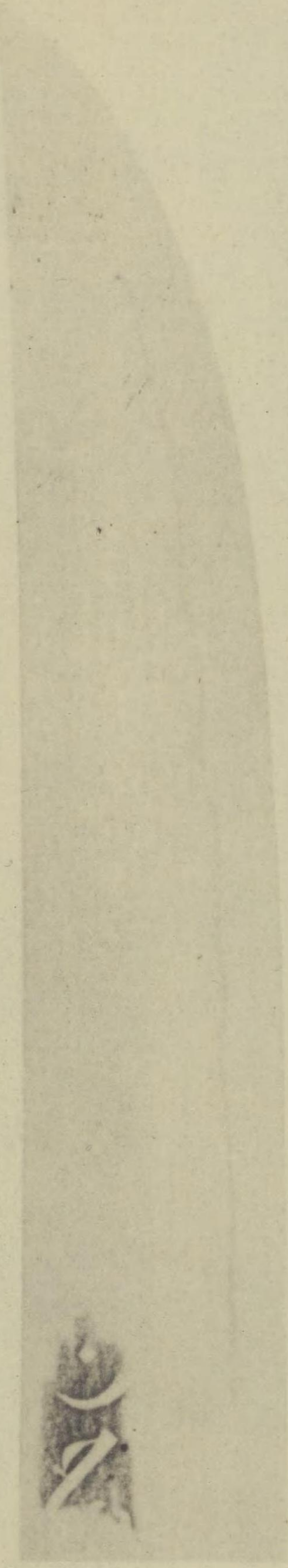
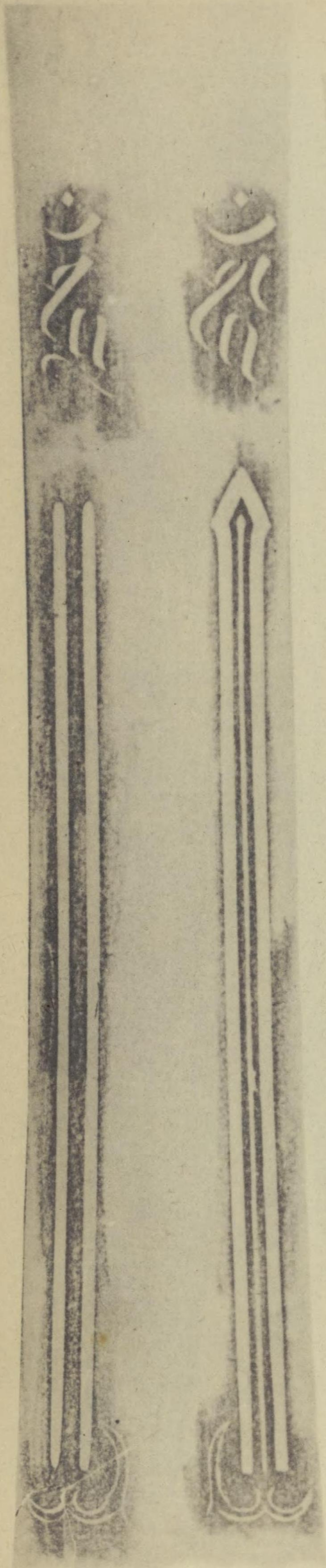
寬永元年八月吉日(初代)



寬永元年八月吉日



武藏大掾藤原忠廣(初代)此忠廣埋忠明壽弟子此切物明壽作七十一歲

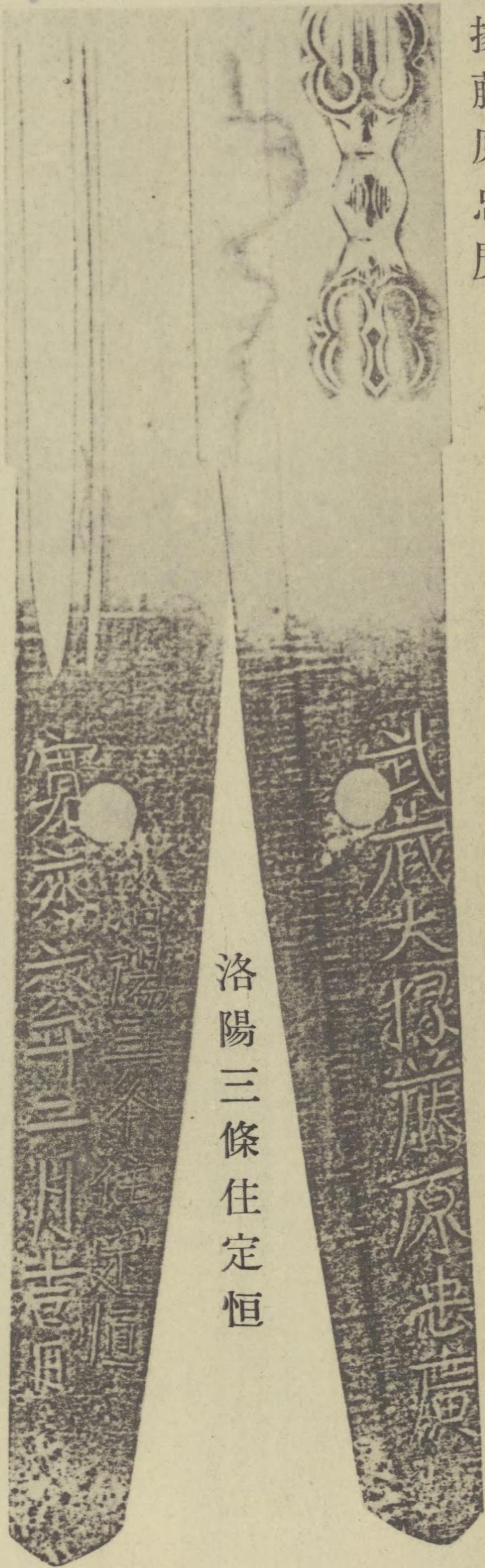


武藏大掾藤原忠廣（初代）此忠廣埋忠明壽弟子此切物明壽作七十一歲

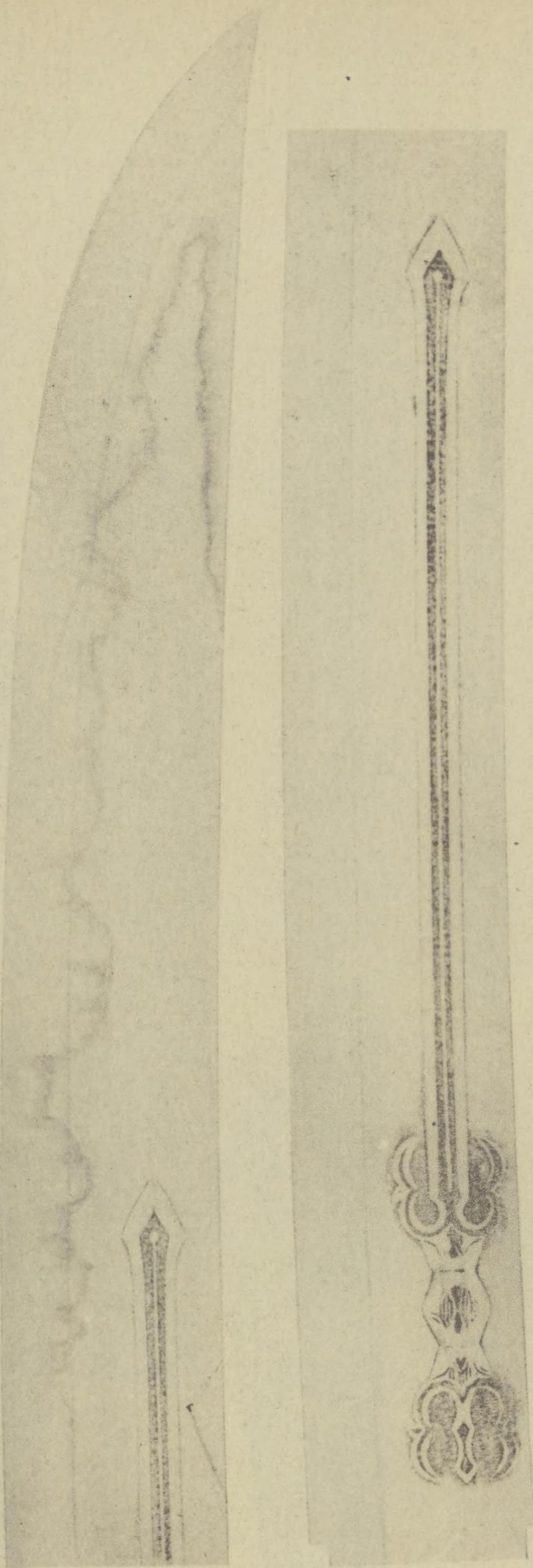


武藏大掾藤原忠廣

寬永六年二月吉日(初代)



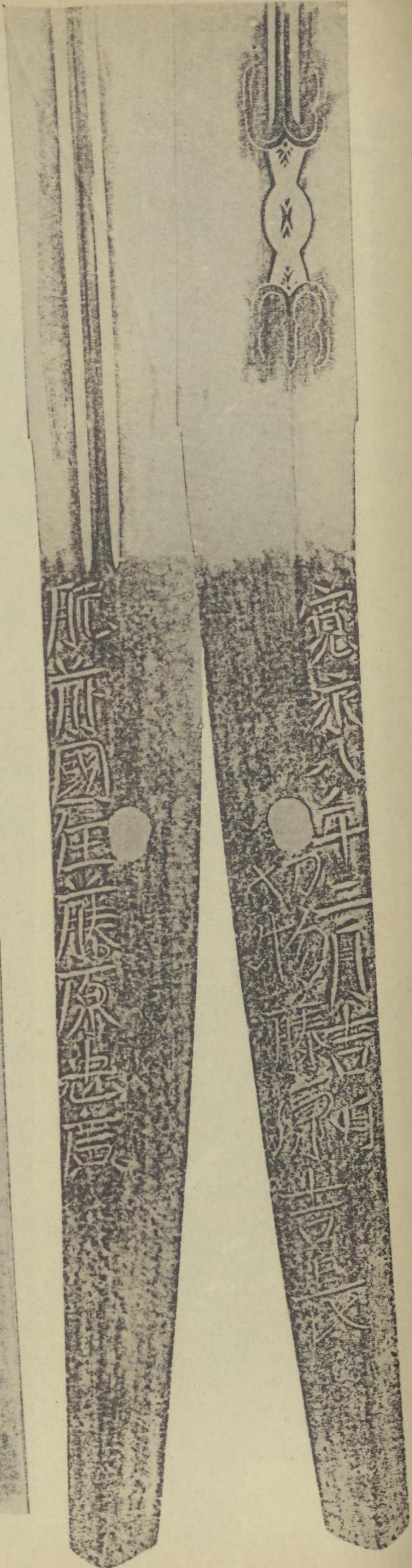
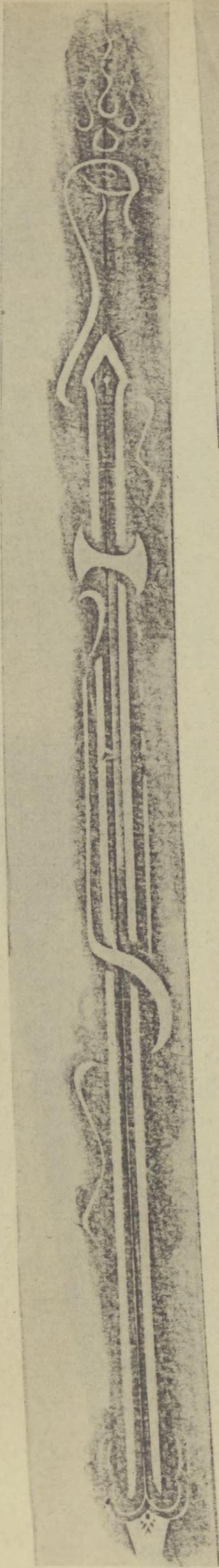
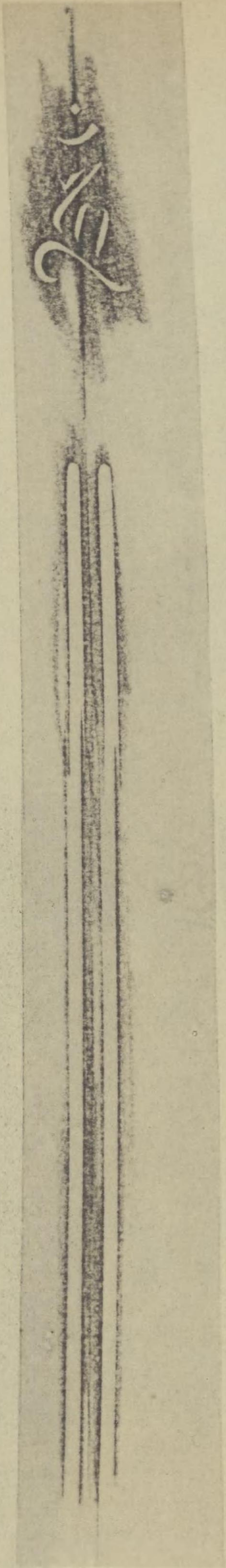
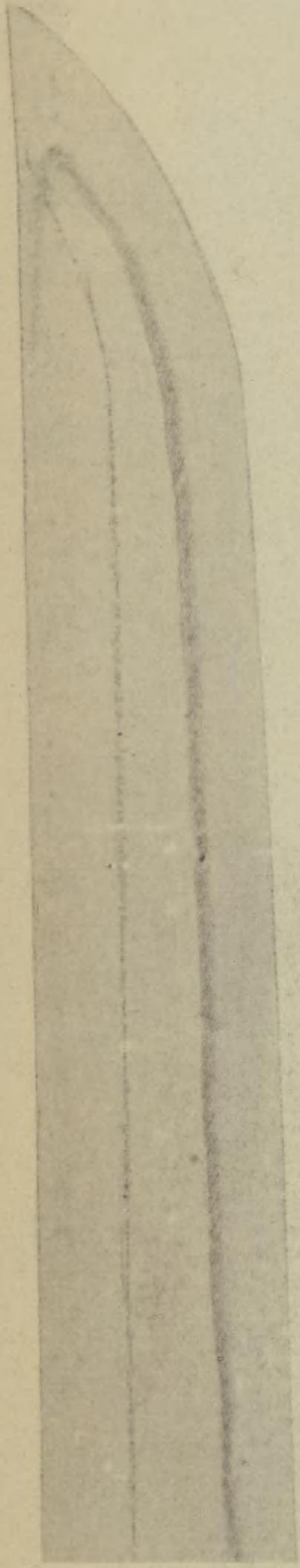
洛陽三條住定恒



双長一尺〇七分、片切双、地肌小柰目、双文鏝付の丁子亂

肥前國住藤原忠廣 切物吉長 (初代)

寬永八年二月吉日

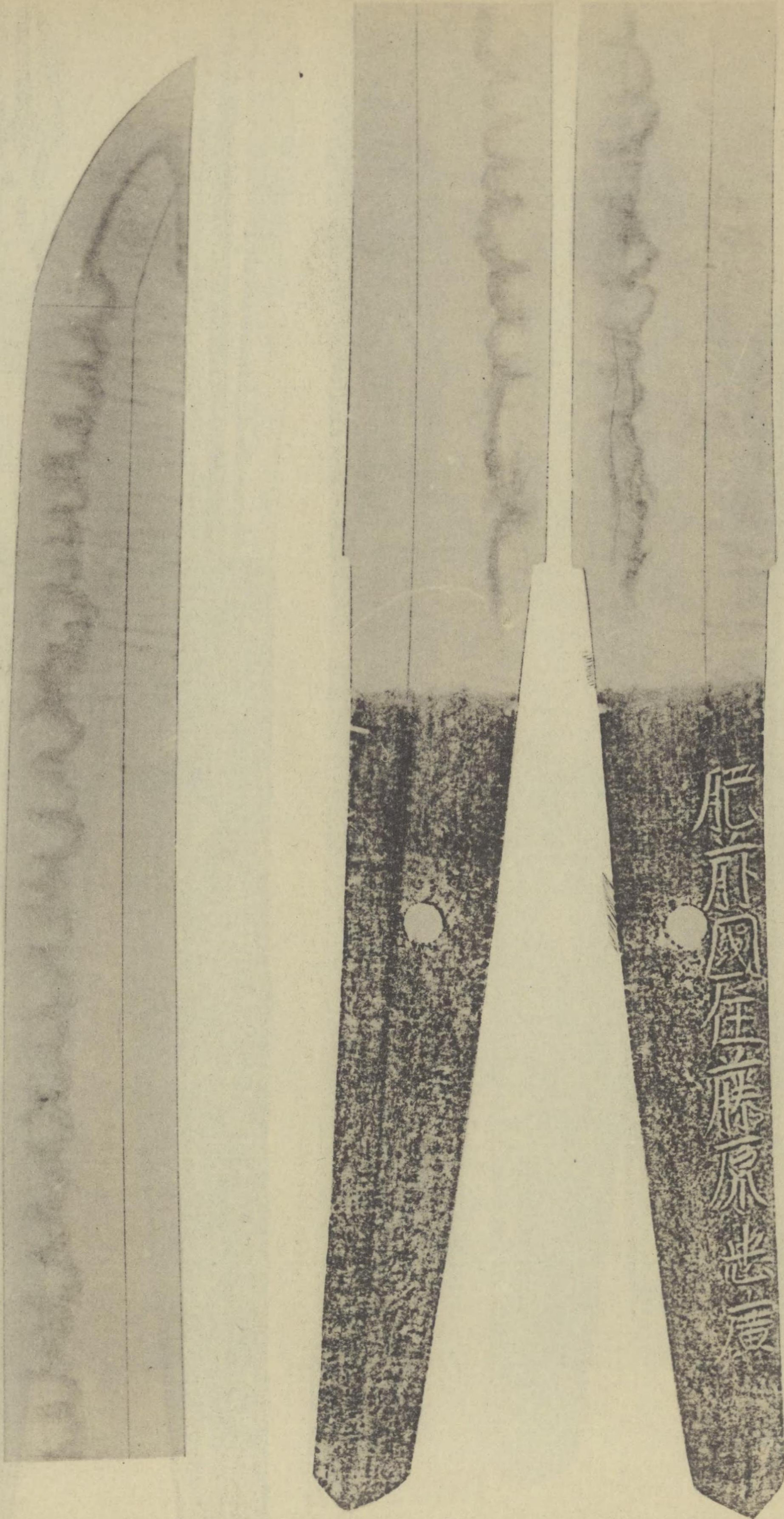


肥前國住藤原忠廣 切物吉長 (初代)

寛永八年二月吉日

双長一尺〇七分、片切双、地肌小杓目、双文鍔付の丁子亂

肥前國住藤原忠廣 (二代)



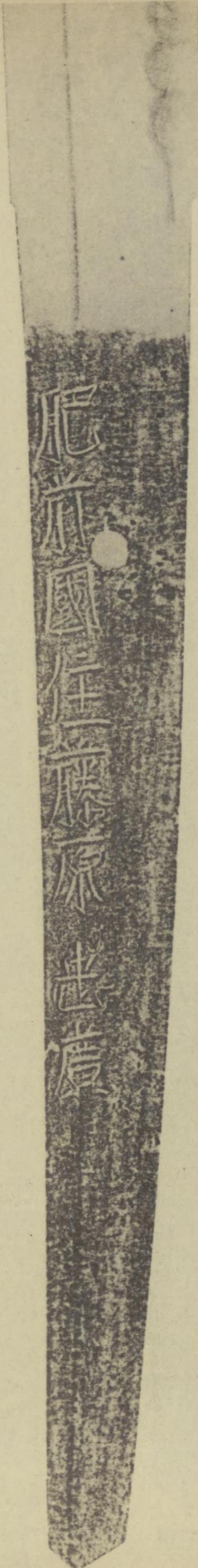
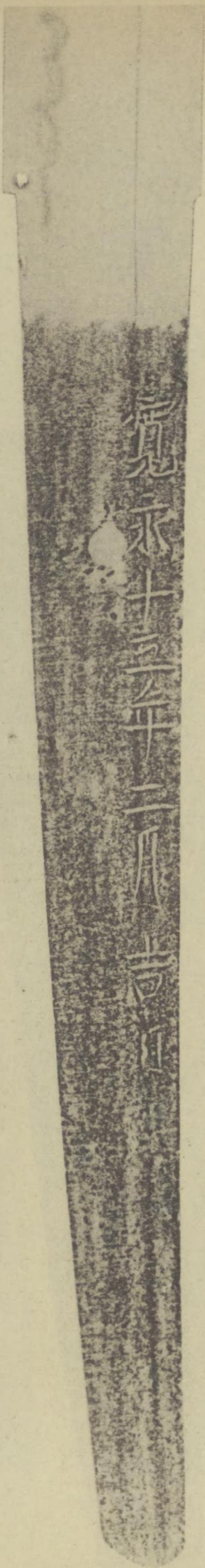
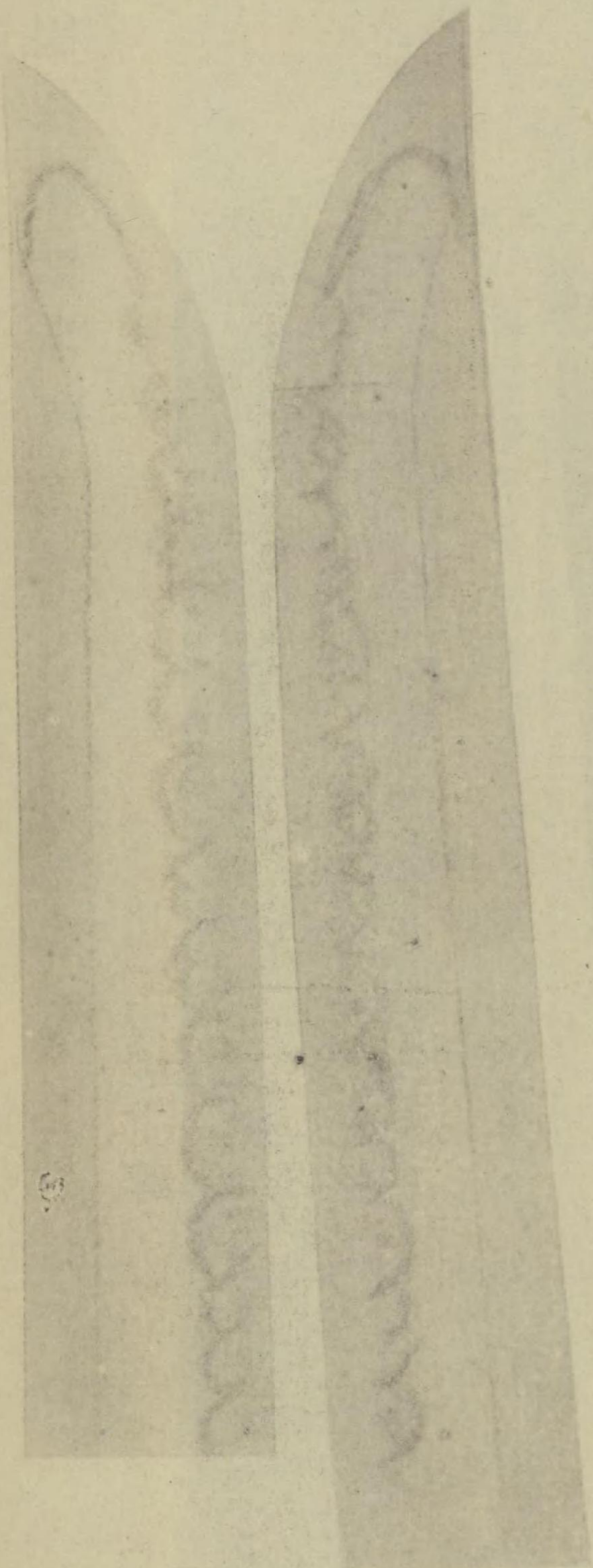
肥前國住藤原忠廣

双長一尺六寸八分、地肌杳目、地景の如き肌所々に交る、双文五の目亂匂深く、小鍔付いて足盛んに入つて砂流し心になる、双中銀筋交る

双長一尺六寸八分、地肌全目、地景の如き肌所々に交る、双文五の目亂句深く、小鈍付いて足盛んに入つて砂流し心になる、双中銀筋交る

肥前國住藤原忠廣 (二代)

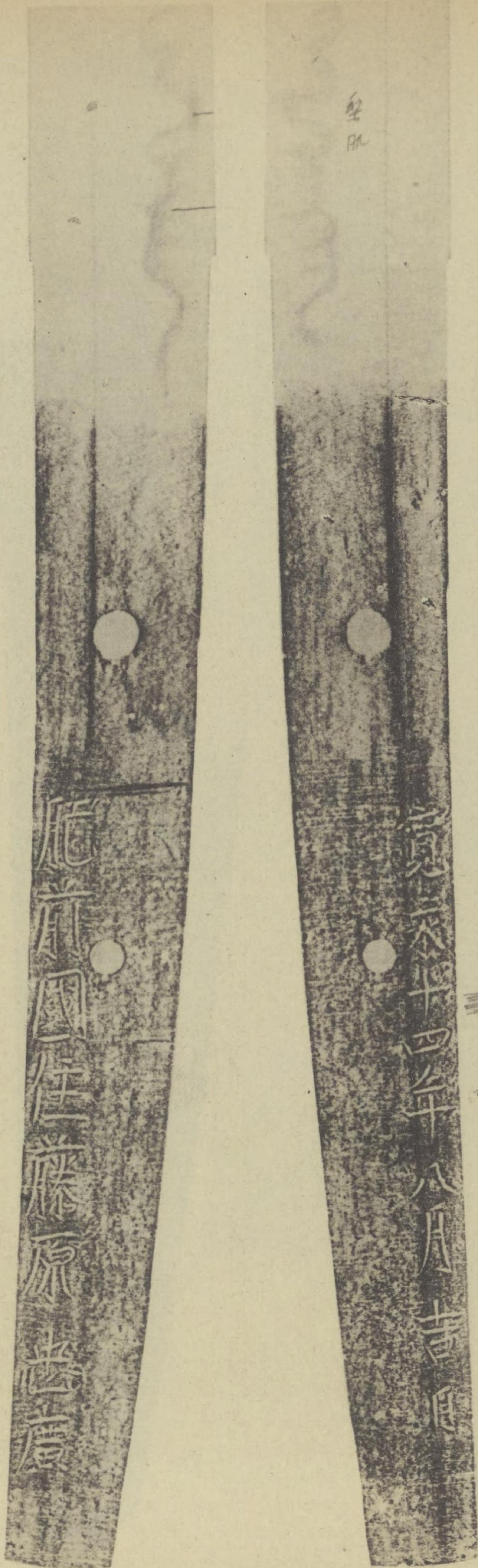
寛永十五年二月吉日



双長二尺四寸八分地鐵能く詰みて美しく、双文丁子亂盛んにて、所々に蟹目を焼く、姿剛壯にして初代を見るが如し

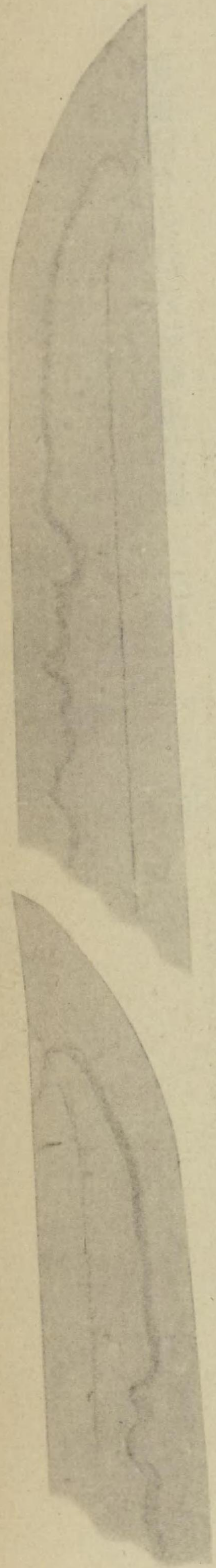
肥前國住藤原忠廣（二代）

寛永十四年八月吉日

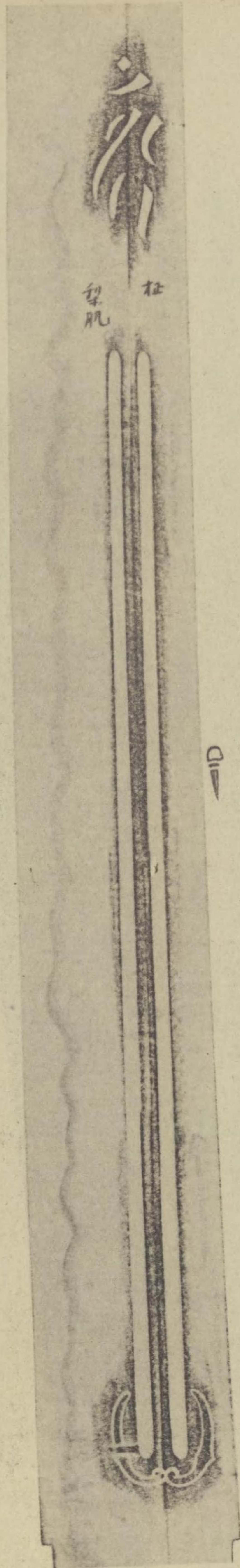


双長二尺三寸五分地肌梨肌
 双の中に洲あり又亂の間に
 一際勝れて白く見ゆる處あり

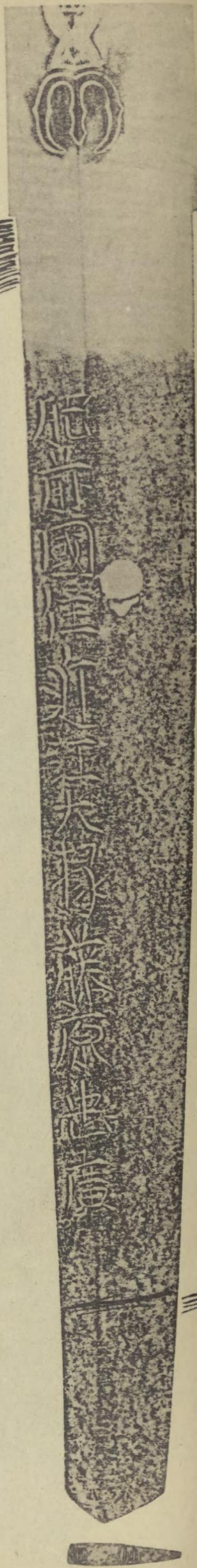
肥前國住近江大掾藤原忠廣（二代）



刃長二尺五寸一分、地肌梨肌、双文丁子亂小鈍匂深し

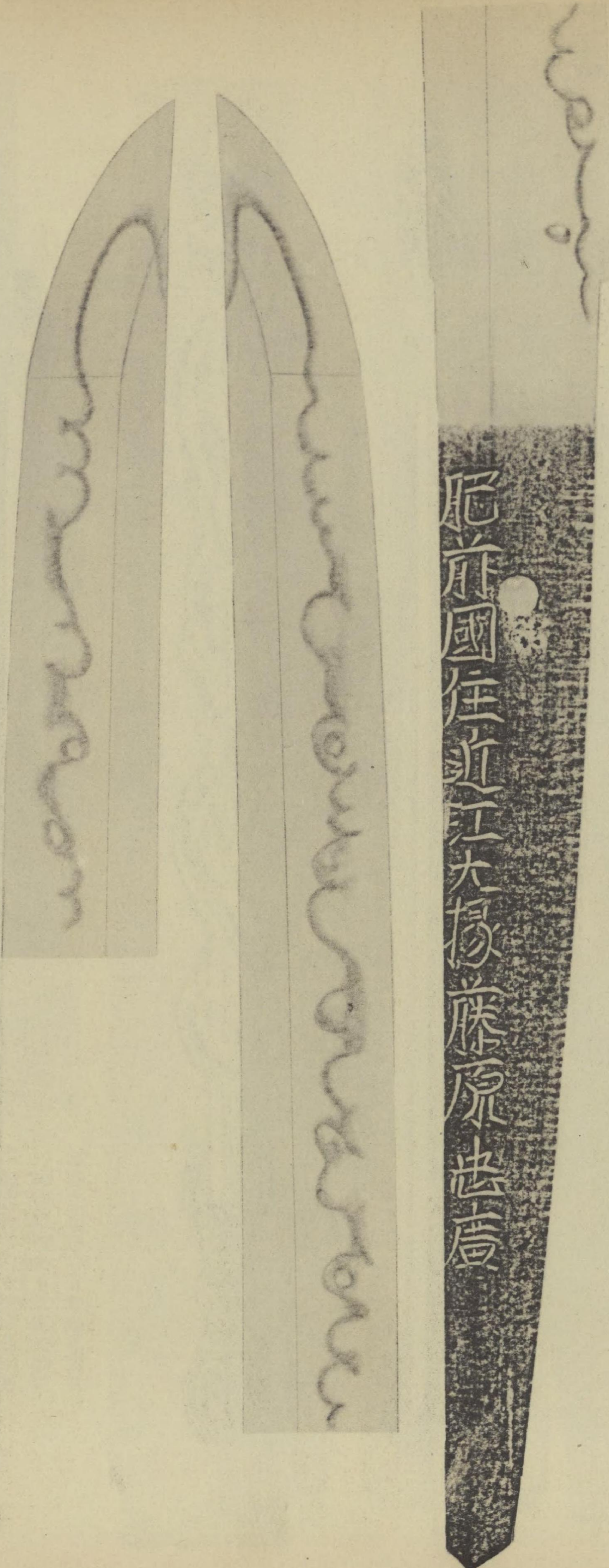


劍の先如此



肥前國住近江大掾藤原忠廣 (二代)

肥前國住近江大掾藤原忠廣 (二代)



刃長二尺五寸二分華表反り淺し、地肌小柰目詰みて無地の如く、双文五の目亂、小鈍叢心になる鈍子小丸裏少しく尖心

肥前國住近江大掾藤原忠廣 以眞鍛作之 (二代)

双長二尺四寸八分、地肌杳目流る、双文直双



肥前國住近江大掾忠廣 以真鍛作之 (二代)